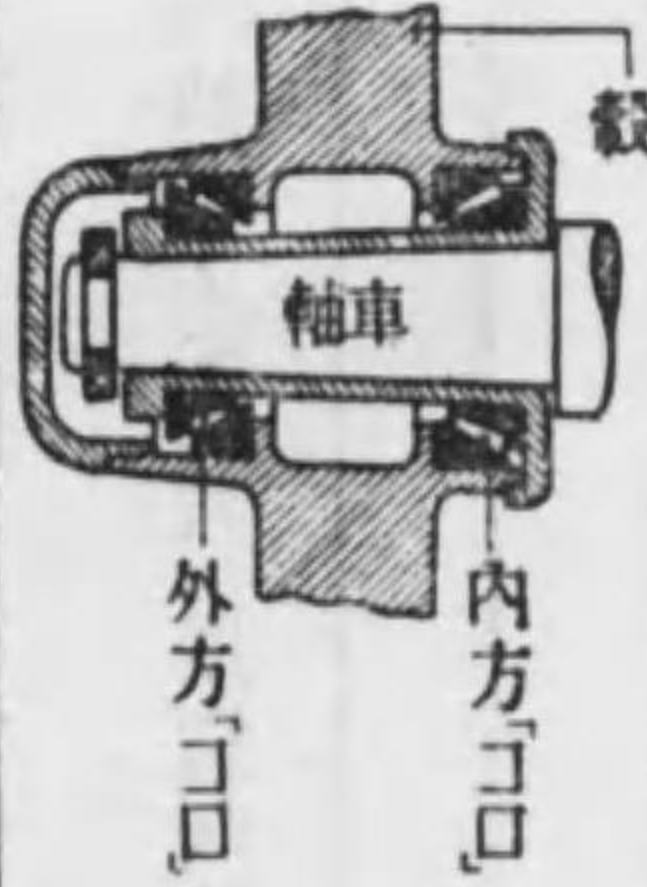
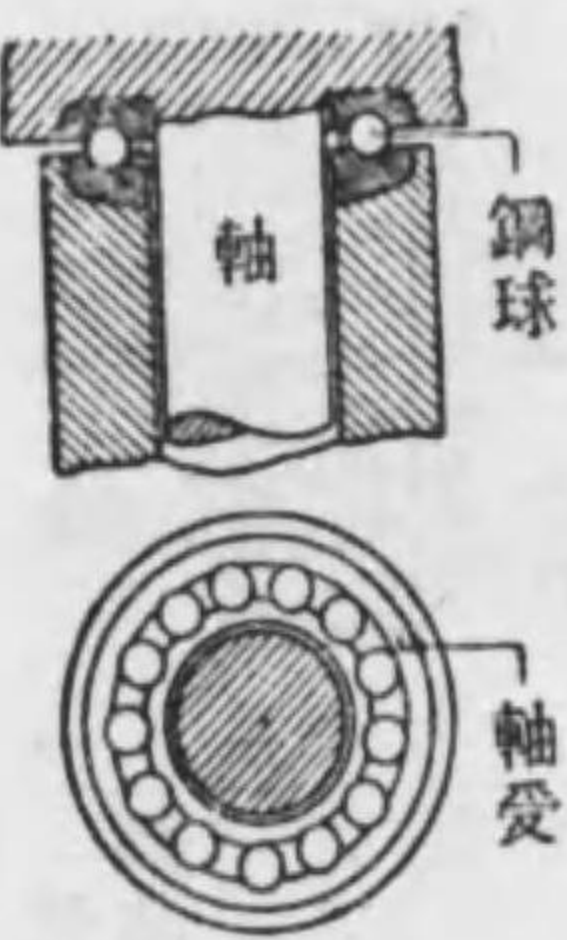
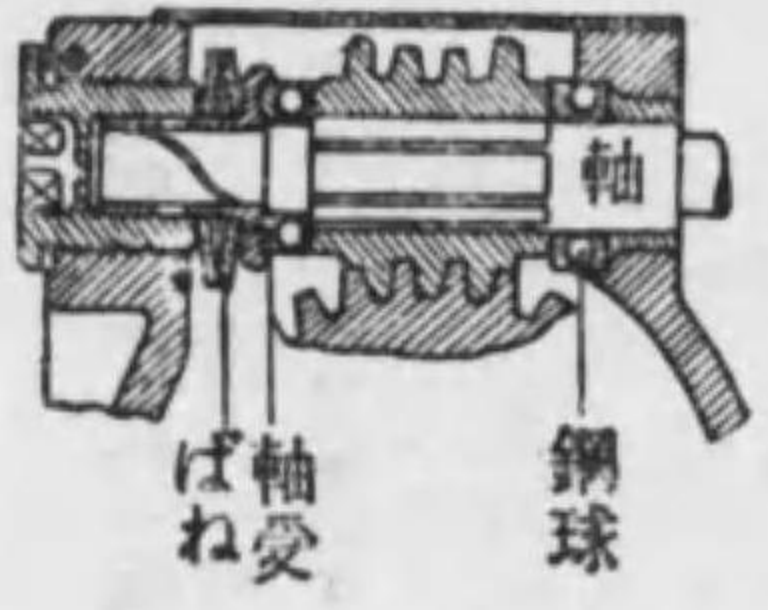
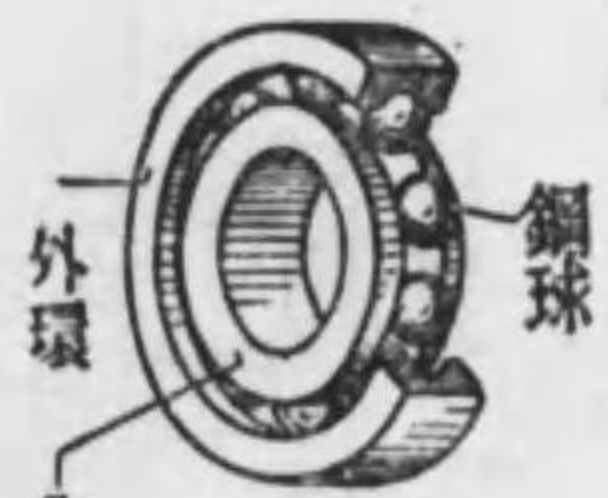
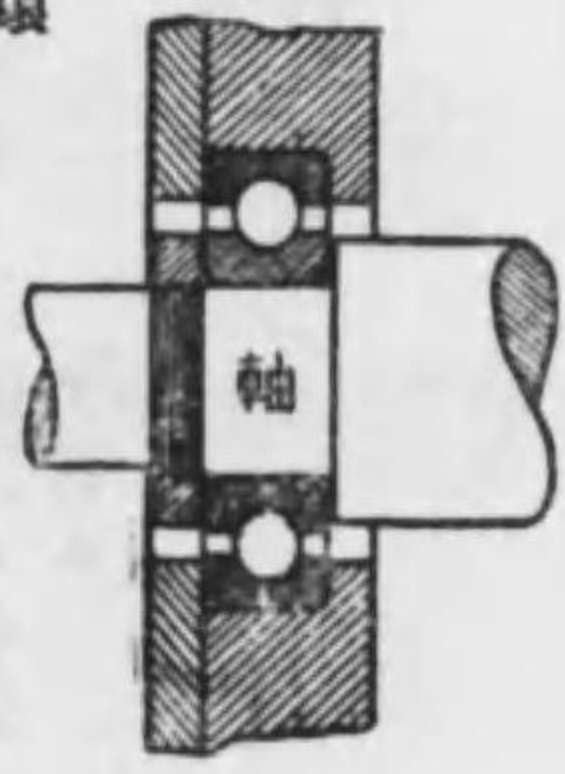


受軸「コロ」		受	
受縦軸	受軸横	受軸	受縦
銅球ノ代リニ「コロ」ヲ以テスルノ外其ノ要領ハ球軸受ノモノニ同シ	 <p>一 壓力ハ軸心ニ對シ垂直及平行共ニ働クモノトス 二 「コロ」ハ通常之ヲ内外兩方ニ裝ス何レモ傾斜型ナリ</p>	 <p>一 壓力カ軸心ノ方向ニ働ク場合ニ使用ス 二 縦軸受ニ面軸受ノ様式ヲ用フルトキハ摩擦甚シク大ナルヲ以テ球軸受或ハ「コロ」軸受ヲ用フルコト多シ</p>	 <p>垂直重量ヲ支フル高射砲架ノ方向回轉軸受、火砲照準機ノ永轉齒車軸受等</p>
球軸受ノモノニ同シ	高射砲、對戰車砲ノ車軸軸受、戰車、裝甲自動車ノ軌道裝置内ノ軸受等		

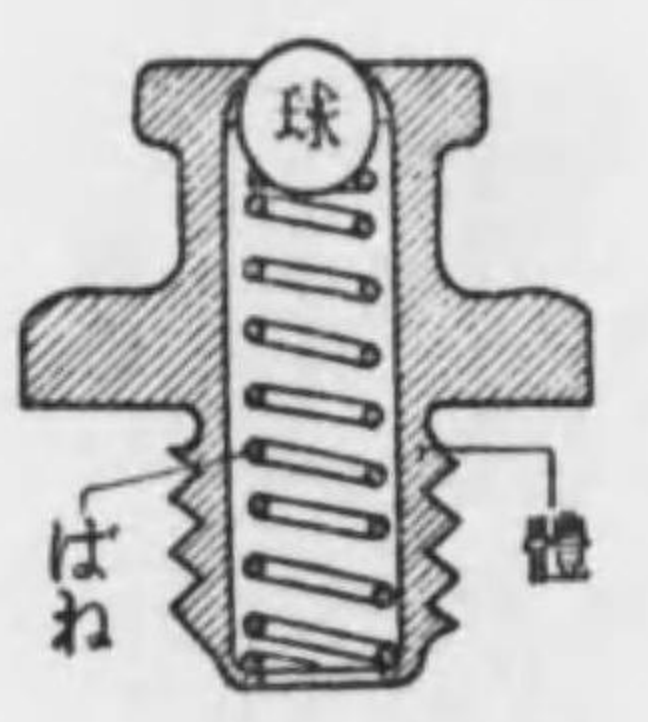
軸承		球	
承	軸	球	横
			<p>一 壓力カ軸心ニ垂直ニ働ク場合ニ使用ス 二 球軸受ノ摩擦面ハ點接觸ナリ從テ抵抗少ク始動ニ際シテ大ナル力ヲ要セス直ニ高速ヲ得又面軸受ニ比シ潤滑油ノ補給ヲ少クシ且密閉ト爲シ得ルヲ以テ格納中ノ發錆、膠著等尠シ</p>
			<p>高速回轉ヲ要スル發電機、自動車等ノ軸受、急速始動ヲ要スル速射砲ノ照準機軸受等</p>



第十八節 注油器

第六十二 注油器ノ種類、用途例及用法左ノ如シ

種	類	用途例、用法
一	一 一號注油器ニハ大サニ依リ一號大注油器、一號中注油器、一號小注油器アリ 二 體ハ黃銅製、ばねハ鋼製、球ハ鍛鋼品トス 三 「ニツケル」メツキヲ施シタルモノアリ	一 主トシテ自動車ニ使用ス 二 注油ハ油銃又ハ油差ノ嘴ノ先端ニテ球ヲ壓シテ行フ此際豫メ器ノ上面ヲ清淨ナラシメ置クコトニ注意スヘシ

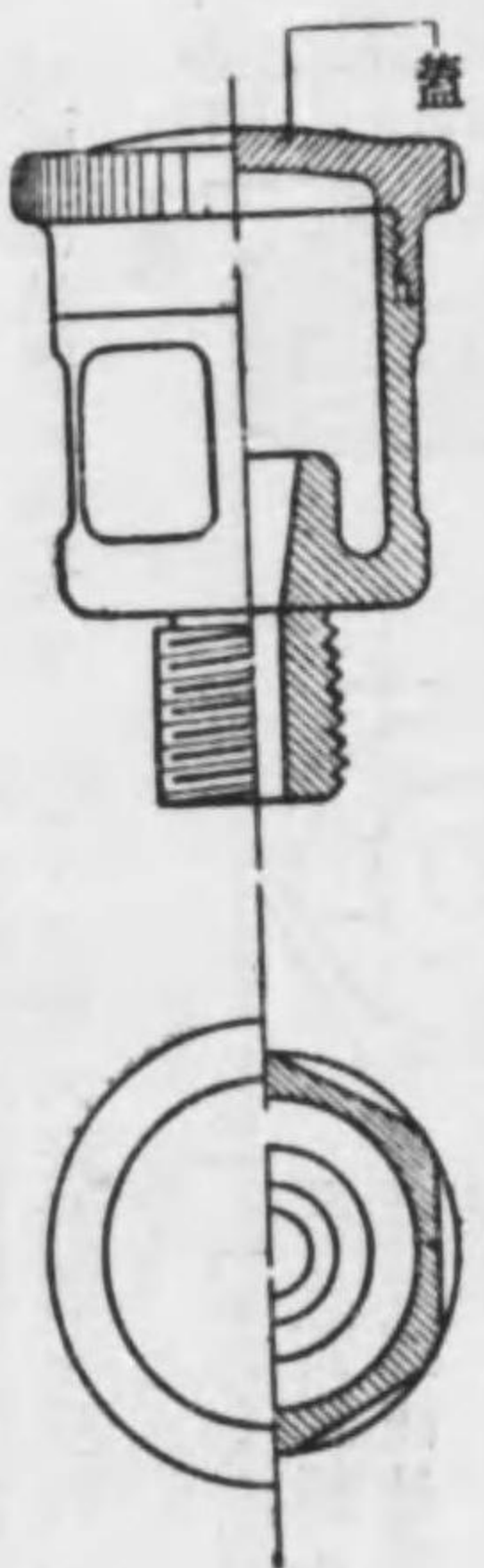


器油注號三	器油注號二
<p>一 三號注油器ニハ大サニ依リ三號大注油器ト三號小注油器トアリ 二 「ナット」及「ピン」ハ共ニ黃銅製ニシテ其他ハ一號注油器ノモノニ同シ 三 「ピン」ハばねヲ支フルノ用ヲ爲ス</p>	<p>一 二號注油器ニハ大サニ依リ二號大注油器ト二號小注油器トアリ 二 蓋及支臺ハ共ニ黃銅製軸ハ鋼製ニシテ其他ハ一號注油器ノモノニ同シ 三 軸ハ蓋開閉ノ樞軸ヲ爲シ支臺ハ體ノ相當孔ニ壓入セラレテばねヲ支フルノ用ヲ爲ス</p>
<p>一 主トシテ自動車ニ使用ス 二 用法ハ一號注油器ノモノニ同シ</p>	<p>一 火砲防塵板部等 二 用法ハ一號注油器ノモノニ同シ但摘ミニ依リ蓋ヲ開閉スルモノトス</p>

兵器構成ノ素質



四號注油器



- 一 四號注油器ニハ大サニ依リ四號大注油器、四號中注油器、四號小注油器アリ
- 二 材質ハ黃銅又ハ青銅トス

- 一 七年式三十榴(長)ノ砲架ノ回轉盤部等
- 二 蓋ヲ脱シテ注油ス

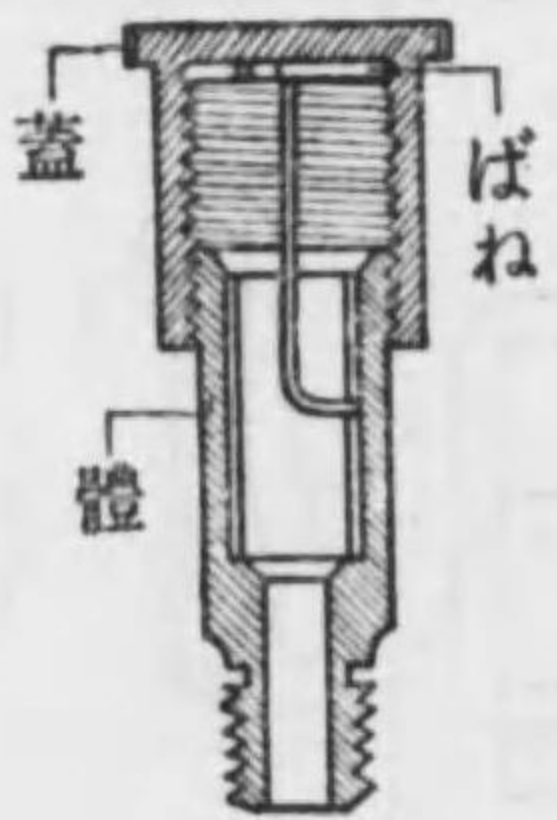
第十九節 給脂器

第百六十三 給脂器ノ構造、用途例及用法左ノ如シ

構	一 給脂器ニハ大サニ依リ大給脂器、中給脂器、小給脂器アリ 二 體及蓋ハ黃銅製、ばねハ鋼製トス	造		用途例、用法	一 主トシテ自動車ノ摩擦部ニ使用ス
---	---	---	--	--------	-------------------

三 體ノ内面ニハ對稱ノ位置ニ二條ノ縱溝ヲ有シばねノ先端ヲ執レカニ吻入セシメ以テ蓋ノ自然戻回ヲ防止ス蓋ノ裝脱ニ際シテハばねハ其彈性ニ依リ先端溝外ニ滑脱スルモノトス

二 給脂ハ蓋ヲ脱シテ行フ

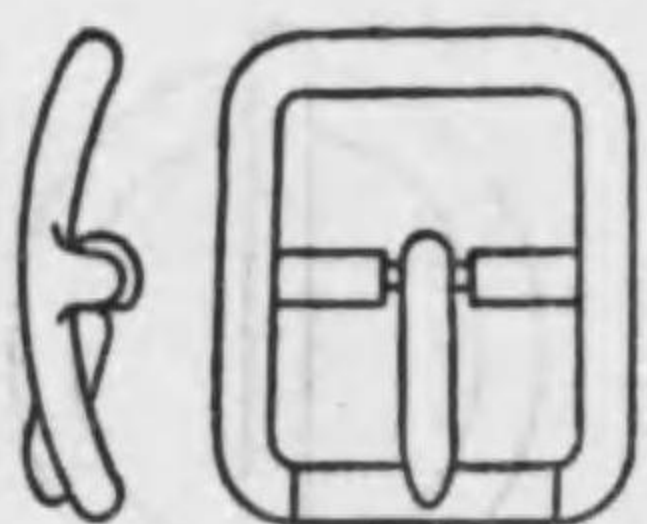
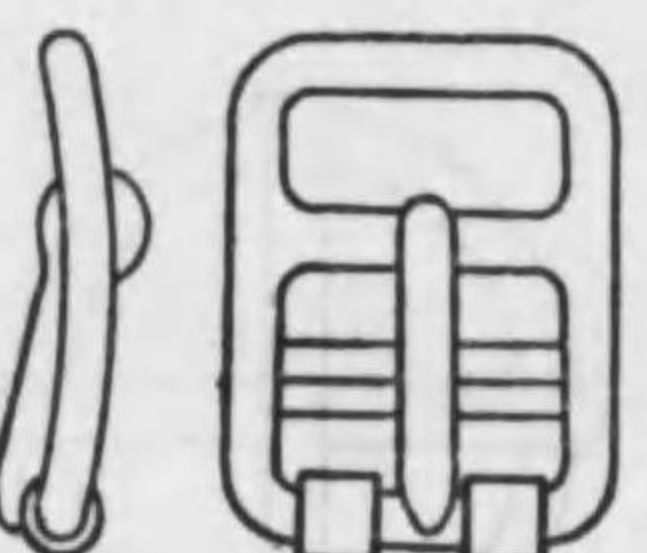
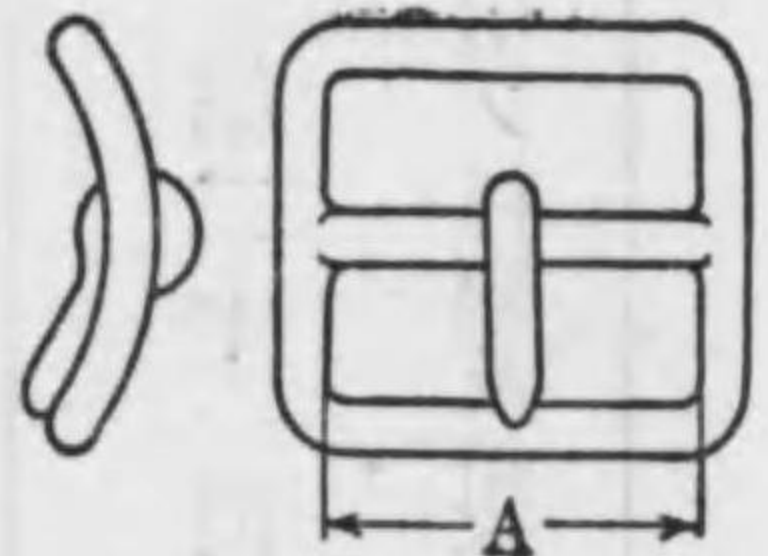


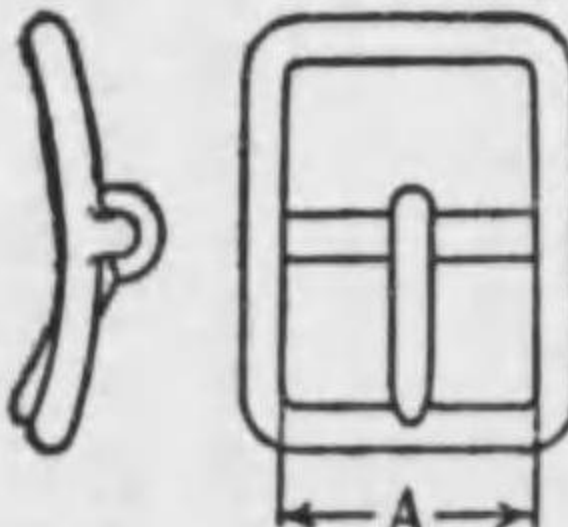
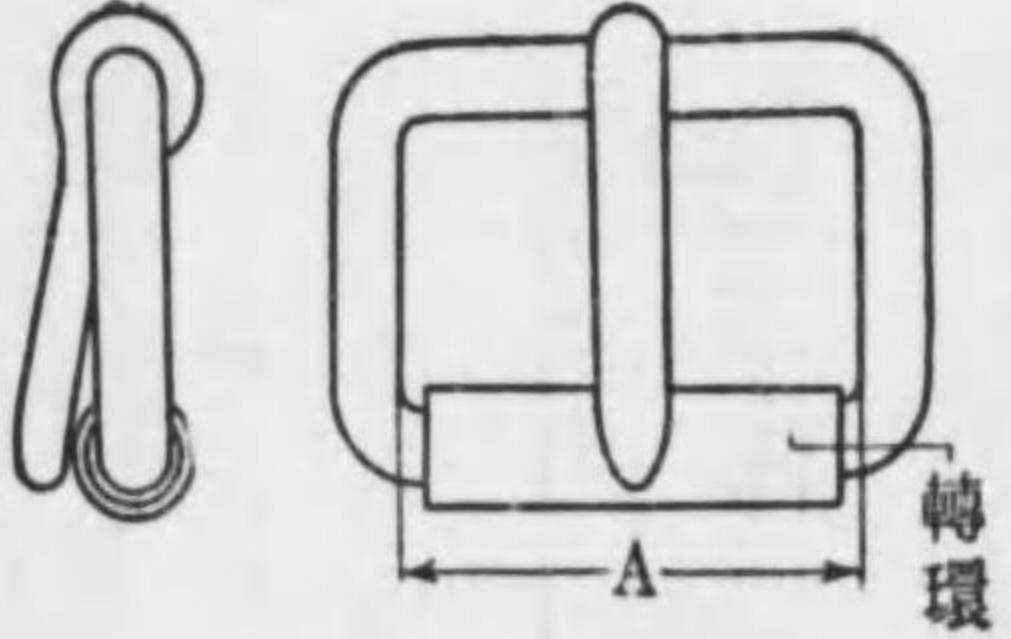
第二十節 簞環

第百六十四 簞環ノ種類及用途例左ノ如シ

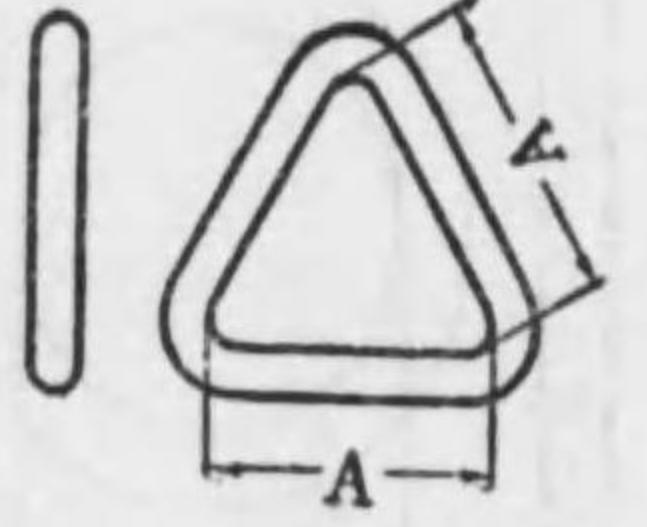
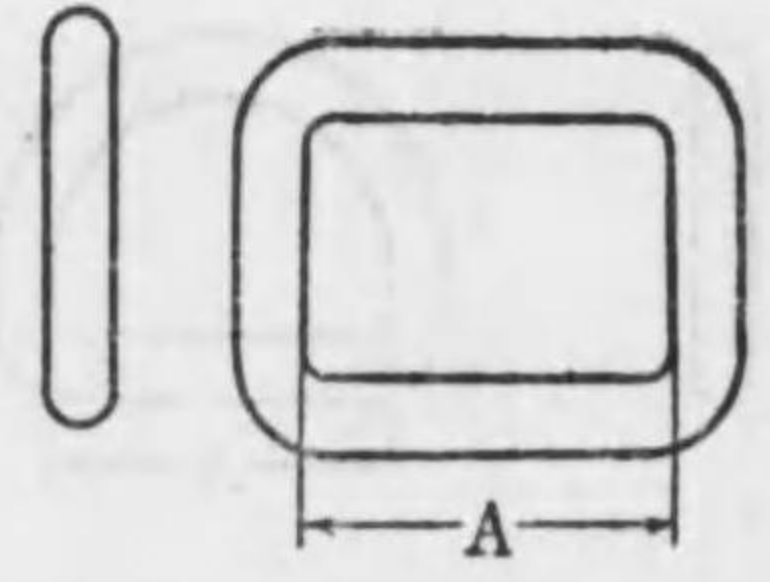
兵器構成ノ素質



殊 特	環 簪 形
<p>特殊簪環ニハ左圖ノ如キ四種アリ金質ハ通常極軟銅トシ錫「メツキ」ス</p> <p>環簪形門反内</p>  <p>環簪形門複</p> 	<p>乙</p> 
<p>内反門形簪環 三十年式乘馬具鍍革等 複門形簪環 三十年式乘馬具腹帶等 一號圓形簪環 砲兵鞍馬具袴革等 二號圓形簪環 三十年式乘馬具及 十年式二馬曳輻重</p>	

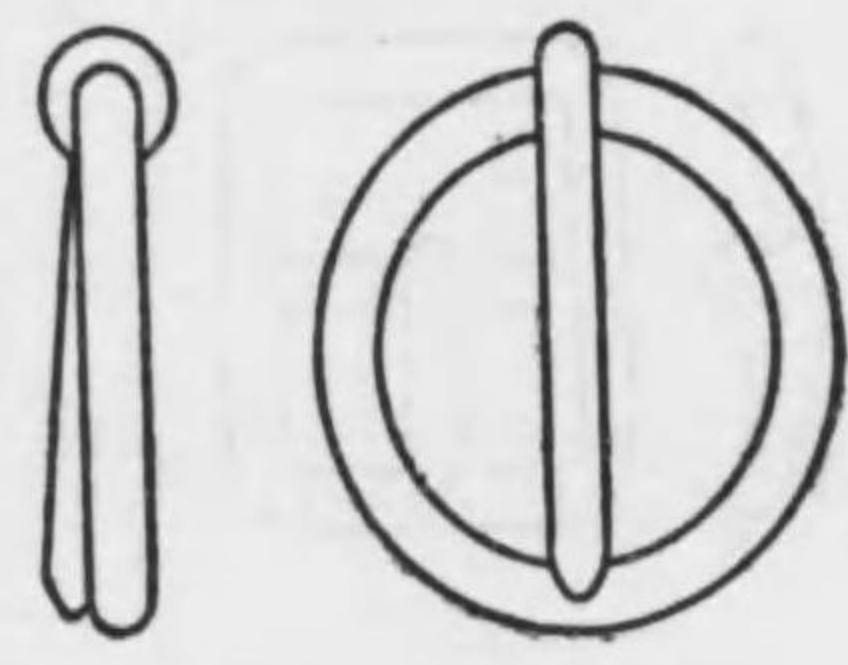
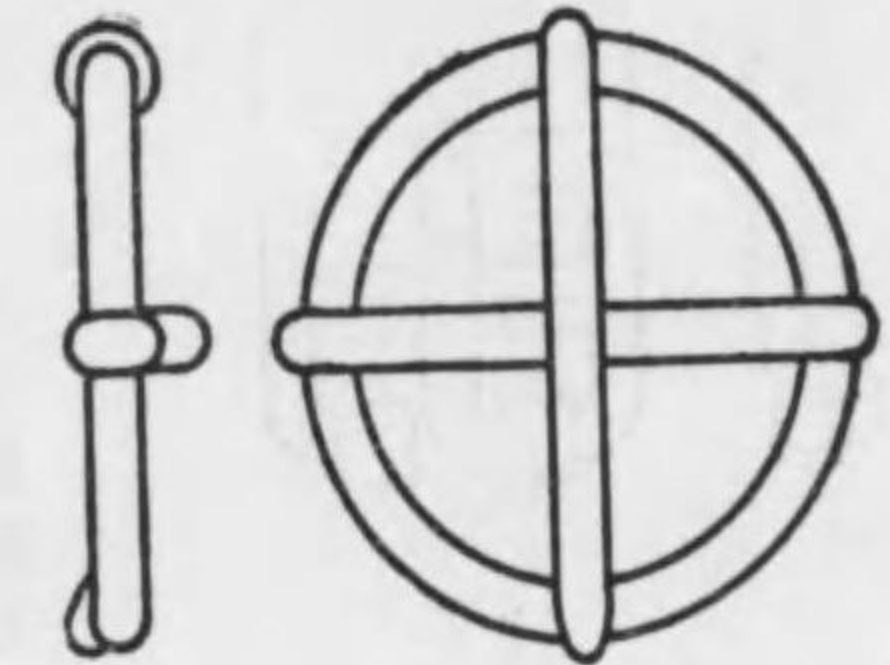

門 反 外	環 簪 形 方	種	類	用 途 例
<p>甲</p>  <p>乙</p> 		<p>一 方形簪環ニハA部ノ寸法ニ從ヒ一二五種アリ 二 金質ハ通常極軟銅トシ錫「メツキ」ス 三 轉環ヲ附セサルモノアリ</p>	<p>輕機彈藥盒革條、 將校乘馬具頭絡咽 革、八種經緯儀屬 品負革、圓匙、十 字鍬袋等</p>	
<p>一 甲、乙ノ二種ニ分タレ甲ニハA部ノ寸法ニ從ヒ一二種外反門形簪環ヨリ三六種外反門形簪環マテ七種、乙ニハ四〇種外反門形簪環ト四五種外反門形簪環トノ二種アリ 二 金質ハ通常黃銅トス</p>				<p>銃劍帶革、乘馬具 頭絡頰革、一號火 焰發射器、氣壓計 帶等</p>



環形角三	環形方
 <p data-bbox="861 839 1058 1419">                     一 三角形環ニハA部ノ寸法ニ從ヒ二〇耗                      三角形環ヨリ八〇耗三角形環マテ九種ア                      リ                      二 金質及轉環ニ就キテハ方形環ノモノニ                      同シ                 </p>	 <p data-bbox="1254 839 1421 1419">                     一 方形環ニハA部ノ寸法ニ從ヒ一八耗方                      形環ヨリ四〇耗方形環マテ一〇種アリ                      二 金質ハ通常極軟鋼トシ錫「メツキ」ス                      三 轉環ヲ附セルモノアリ                 </p>
<p data-bbox="861 1450 1058 1709">                     將校乘馬具野繫勒                      韁繫環、三八式十                      二、十五榴前車銅                      鈕栓鏈、雜器材腰                      掛等                 </p>	<p data-bbox="1300 1450 1421 1709">                     機關銃器具箱負                      革、乘馬具鞍囊托                      環、中線卷匡等                 </p>

第百六十五 環ノ種類及用途例左ノ如シ


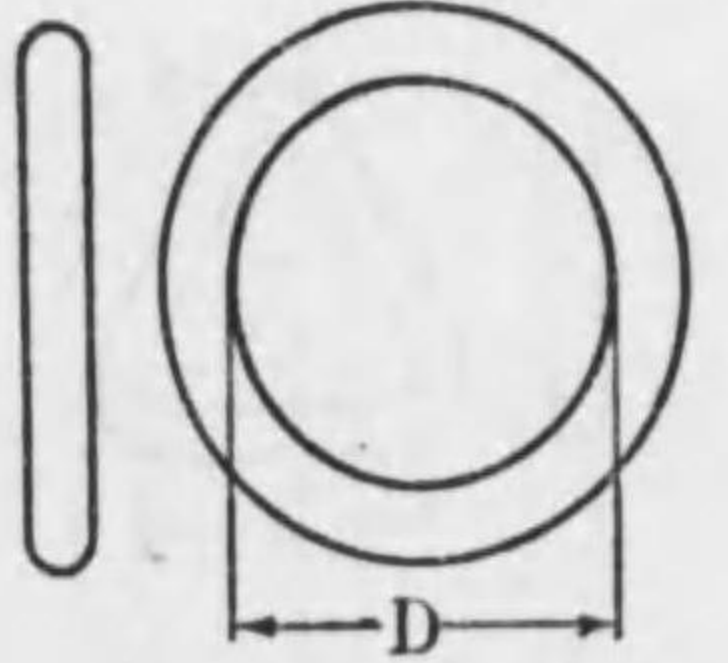
第二十一節 環

種	環 管
<p data-bbox="1587 559 1632 600">種</p>	<p data-bbox="2010 590 2192 631">環管形圓號一</p>  <p data-bbox="2010 932 2192 973">環管形圓號二</p>  
<p data-bbox="1602 1284 1648 1326">類</p> <p data-bbox="1602 1460 1648 1709">用途例</p>	<p data-bbox="2207 1440 2343 1688">                     輓馬具野繫勒、五                      年式輻重駄馬具駄                      馬勒等                 </p>



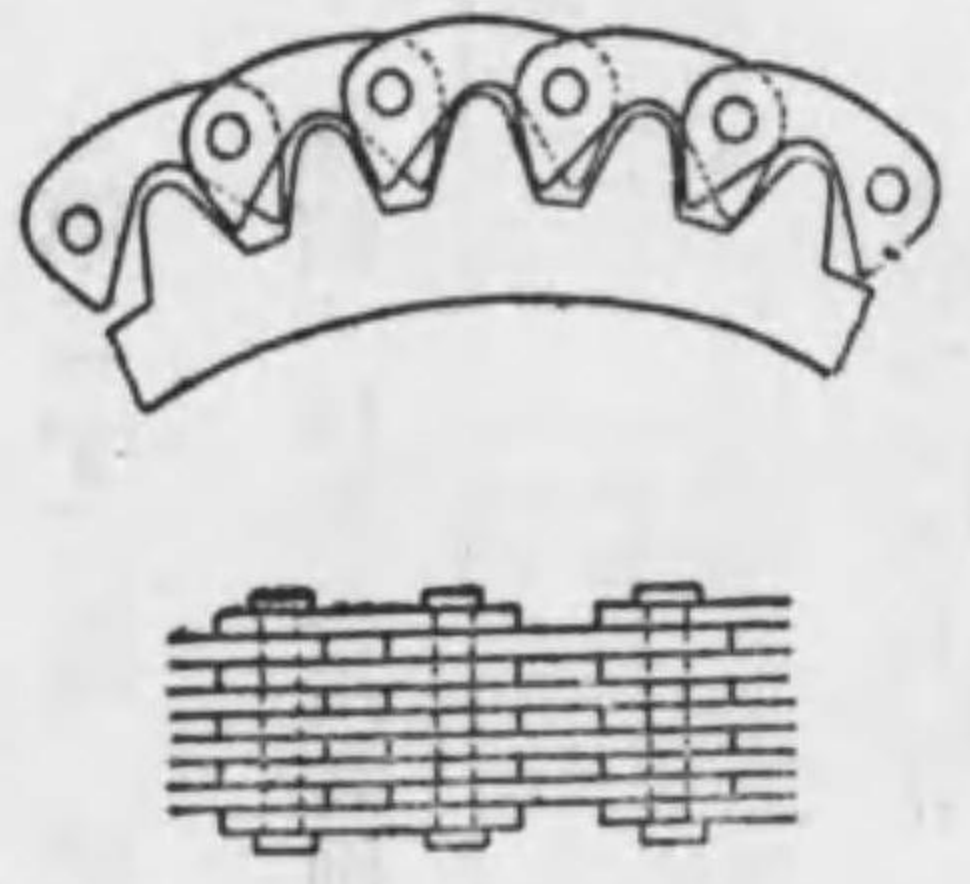
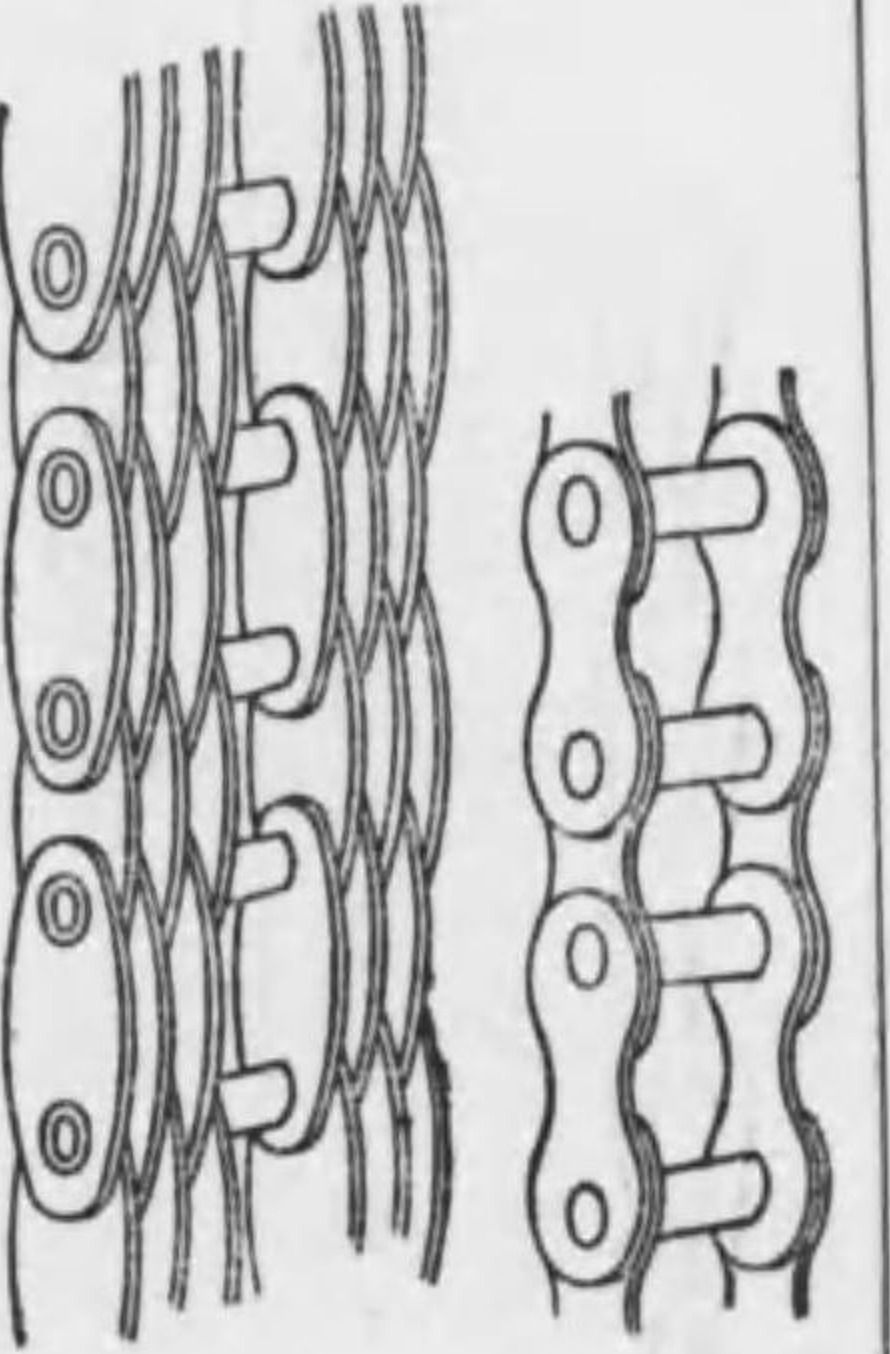
第二十二節 鏈鎖

第百六十六 鏈鎖ノ種類及用途例左ノ如シ

環形半圓	環形圓
 <p>一 半圓形環ニハA部ノ寸法ニ從ヒ一八耗半 圓形環ヨリ六〇耗半圓形環マテ一四種アリ 二 金質及轉環ニ就キテハ方形環ノモノニ同シ</p>	 <p>一 圓形環ニハD部ノ寸法ニ從ヒ一八耗 圓形環ヨリ六〇耗圓形環マテ一四種アリ 二 金質ニ就キテハ方形環ノモノニ同シ</p>
<p>輕機關銃彈匣囊、 火砲屬品蠟燭匣、 鞍馬具、鞍革、酸素 呼吸器負架等</p>	<p>軍刀附革、鞍馬具 頸上革、輜重鞍馬 具腹帶、山砲鞍馬 具、鞍革、釣革等</p>

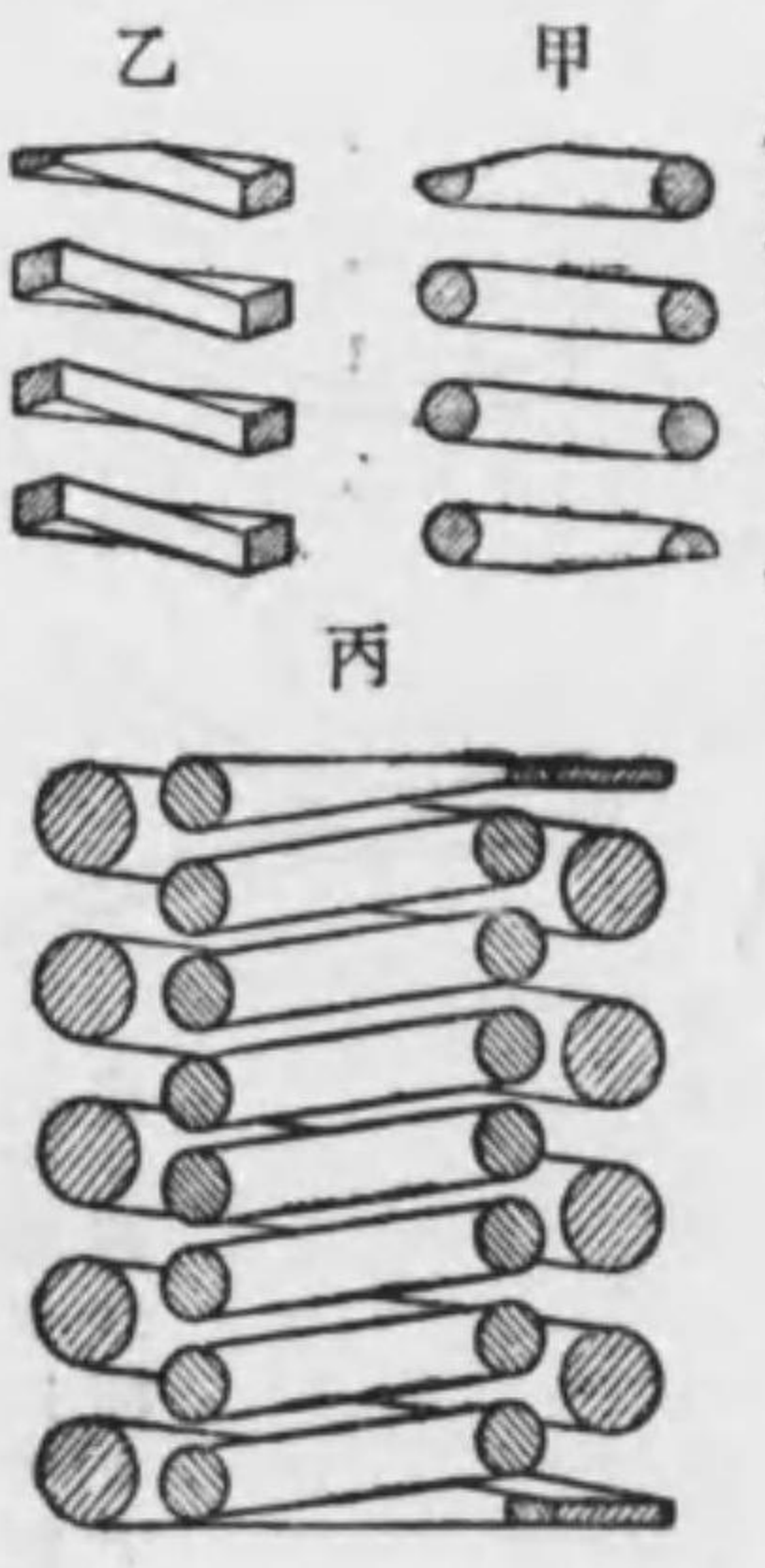
鏈「ルトクイヴ」	鏈通普
 <p>鋼線又ハ黃銅線ヲ圖ノ如ク曲ケテ製シタルモノニシテ大小數種アリ</p>	 <p>通常鋼ニシテ用途ニ依リ形狀種々アリ</p>
<p>抗力ヲ要セサル輕 易ナル繫縛用例へ ハ鋼鈕栓及連結栓 ノ保持等</p>	<p>連結用トシテ機關 銃三脚架銃耳蓋栓 鏈、火砲轉鏈、動 力傳達用トシテ架 橋器材及機力器材 用鏈等</p>



Lン-エチトンレイサ <sup>7</sup>	鎖 金 板
	
<p>一 板金鎖ハ磨滅又ハ延等ヲ生シタルトキハ鏈ト齒車トノ嚙合不良トナルモ本鏈ハ其缺點ナク從テ靜穩ナル嚙合ヲ爲ス</p> <p>二 本鏈ハ板金鎖ニ比シ重量大ナルニ依リ自轉車等ノ如キ輕易ナル動力ノ傳達ニハ適セス</p>	<p>軸ヲ以テ板金ヲ連綴セラルモノニシテ形狀種々アリ</p>
<p>主トシテ正確ナル運動ノ傳達用例ヘハ操舟機發動機ノ傳動鏈等</p>	<p>主トシテ動力傳達用例ヘハ操舟機、自轉車、自動車、戰車等</p>

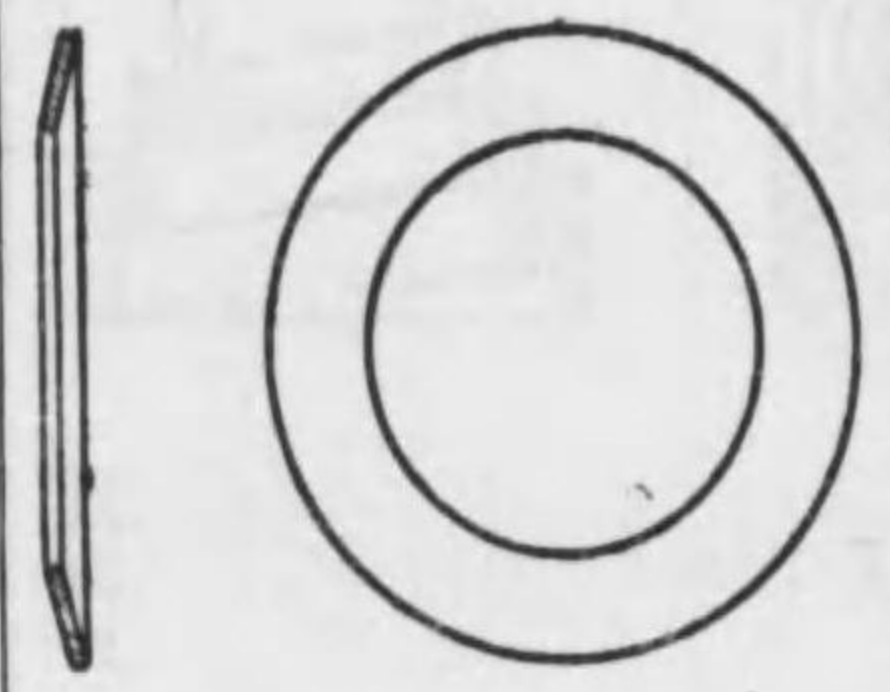
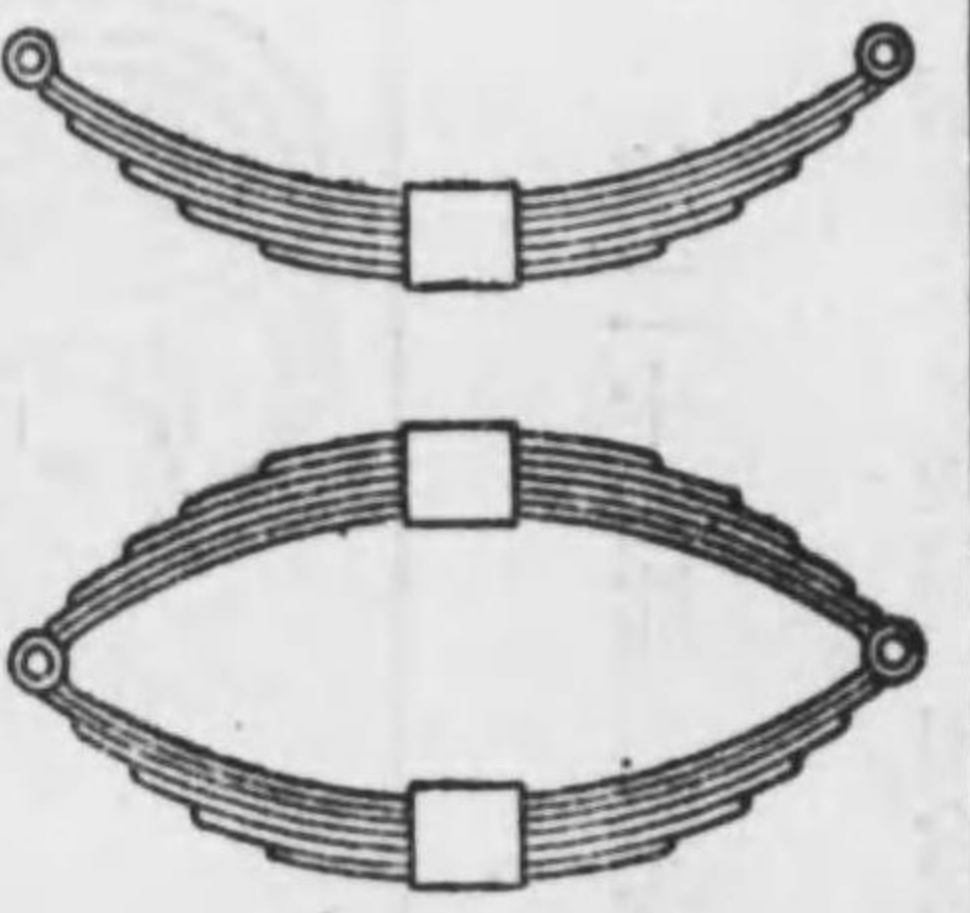
第二十三節 ばね

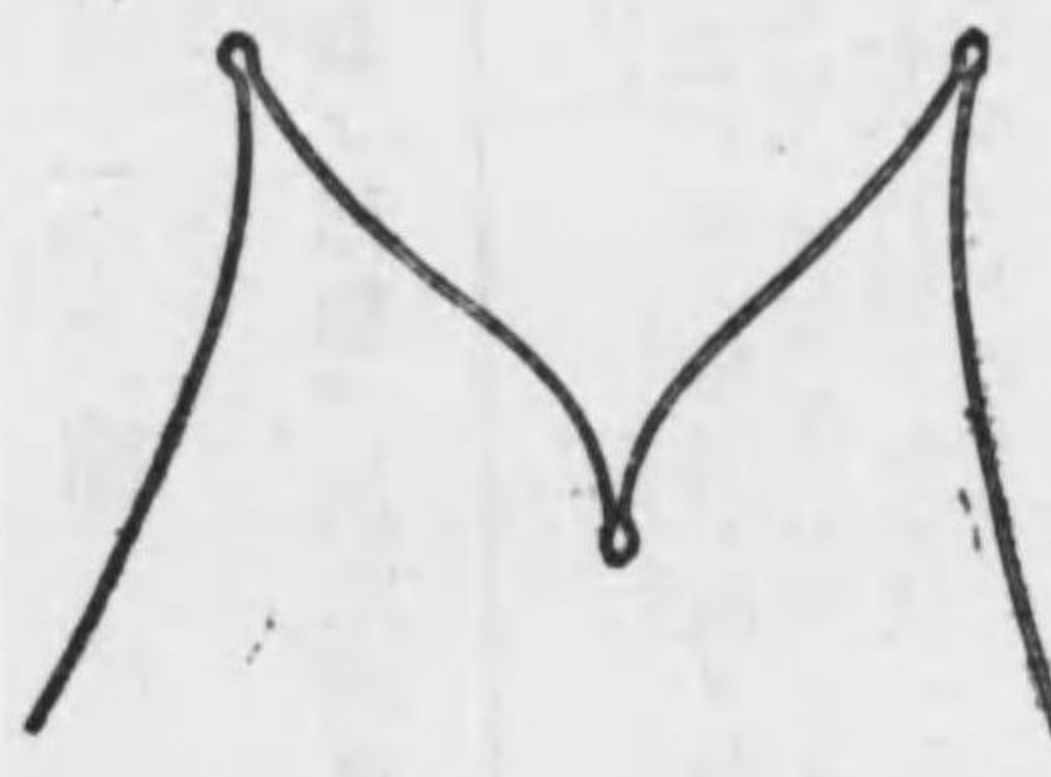

第六十七 ばねノ種類、用途例及用法左ノ如シ

ね ば 卷 菱	種	類	用途例、用法
	<p>一 通常鋼製ノ棒又ハ線ヲねぢ狀ニ卷キタルモノニシテ断面ハ圓形(甲、丙圖)或ハ矩形(乙圖)等アリ又強大ナル壓力ヲ要スル場合ハ丙圖ノ如ク大小二箇ノ同シ高サノばねヲ組合ハセテ使用スルコトアリ</p> <p>二 卷方ニハ右卷、左卷ノ區別アリ通常右卷ヲ使用スル場合多シ又丙圖ノ如キ場合ハ右卷、左卷ヲ併用ス</p>		<p>一 伸縮或ハ捻レニ對スルばねトシテ例ヘハ小銃及火砲ノ擊莖ばね、機關銃及火砲ノ復坐ばね等</p> <p>二 右卷ト左卷トヲ縱ノ方向ニ組重ネ使用スル場合(野砲復坐ばねノ如キ)ハ左右交互ニ裝スルコト必要ナリ</p>

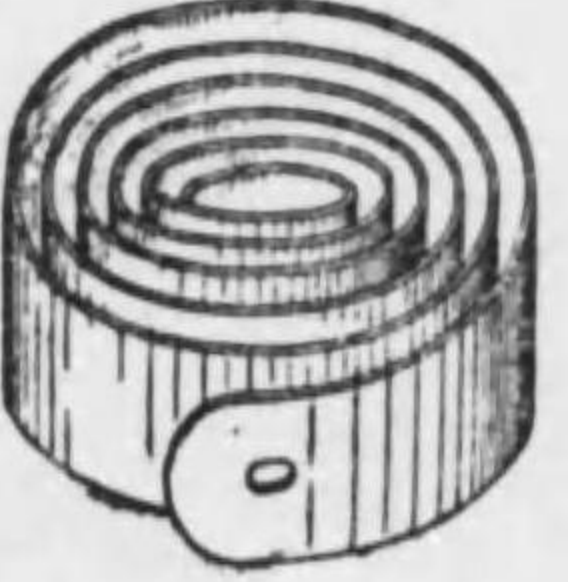
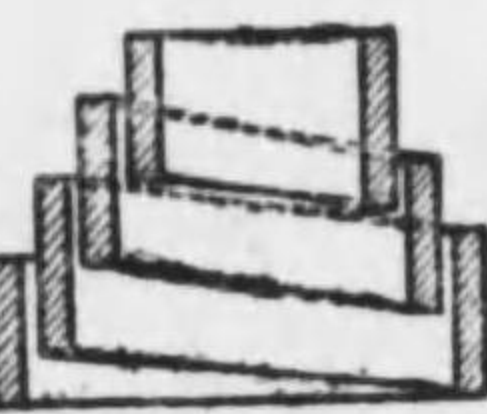
兵器構成ノ素質



ねばルービルベ	ねばね重
 <p data-bbox="892 922 1058 1408">圓臺形ニシテ通常鋼製ナリ緩衝用トシテ使用スル場合ハ數箇ヲ重ネテ用ヒ座金等ニハ一箇ヲ以テスルモノトス</p>	 <p data-bbox="1285 942 1451 1408">平扁ばねヲ數枚重ネタルモノニテ上圖ノ外四分ノ三楕圓四分ノ一楕圓等數種アルモ本圖ノモノ應用廣シ</p>
<p data-bbox="786 1440 1058 1699">主トシテ緩衝用又ハねぢノ戻回止ニ使用ス前者ハ火砲駐退機ノ制衝ばね、制轉機ノばね、後者ハ表尺眼鏡ノ規正螺ばね等</p>	<p data-bbox="1315 1429 1451 1688">鐵道車輛、自動車、砲車等ノ各種車輛ニ使用ス</p>

ねば扁平	
	 <p data-bbox="2222 942 2313 1398">通常鋼ヲ以テ製シ一枚ノ平板ヨリ成リ形狀種々アリ</p>
	<p data-bbox="2177 1429 2328 1688">銃ノ照尺ばね、彈倉ばね、二十六年式拳銃ノ擊鐵ばね等</p>



ねば巻渦	ねば子の竹
 <p>板ヲ渦形ニ卷キタルモノニシテ通常鋼製ナリ</p>	 <p>圓錐狀ヲ爲シ通常鋼製ナリ</p>
時計ノばね、現字機ノばね、火砲ノ引鐵ばね等	鐵道車輛緩衝器等

第二十四節 緊塞具

第百六十八 緊塞具ノ種類、用途例及用法左ノ如シ

具塞緊革	「ファイバー」緊塞具	「アスベスト」緊塞具	種	類	用途例、用法
褐色牛革又ハ「クロム」革ヲ厚サ約一・五—五耗ノ板狀又ハ環狀ト爲シタルモノナリ	「ファイバー」ヲ厚サ約〇・三—四耗ノ板狀又ハ環狀ト爲シタルモノナリ	緊塞具ノ材料トシテ「アスベスト」ヲ厚サ約一—〇耗ノ板狀或ハ徑約二—二五耗ノ紐狀ト爲シタルモノアリ又環狀等ノ如キ一定ノ形ヲ爲シタルモノアリ			同右
	<p>一 通常「サイズ」油ヲ塗リテ使用ス</p> <p>二 主トシテ液體浸出防止ノ諸接手例へハ内燃機燃料供給裝置、滑油給油裝置、冷却水循環裝置及高壓空氣壓縮機「ピストン」等</p>	<p>一 機械的抗力並耐熱性ヲ要求スル部位例へハ汽機並内燃機各部中主トシテ導氣管接手部、排氣管接手部、「シリンドラ」點火栓取附部及火砲閉鎖機等</p> <p>二 通常黒鉛ヲ塗リテ使用スルモ尙一層其抗力ヲ大ナラシムル爲細キ針金ヲ織込ムカ或ハ薄銅板間ニ挟ミテ使用ス</p>			



具塞緊紙	具塞緊屬金	具塞緊	具塞緊	具塞緊
「ケント」畫用紙、「ボール」紙及美濃紙等 ヲ板狀又ハ環狀ニ裁斷シタルモノナリ	銀、銅、黃銅、鉛等ヲ板狀又ハ環狀ニ爲シタルモノニシテ板狀ノモノニハ中間ニ「アスベスト」ヲ挟ミタルモノ又環狀ノモノニハ銅線等ヲ用ヒタルモノアリ	「フェルト」ヲ厚サ約三—六耗ノ板狀又ハ環狀ト爲シルタモノアリ	「コルク」ヲ厚サ約一—三耗ノ板狀又ハ環狀ト爲シタルモノナリ	板狀又ハ環狀ノ「ゴム」製品ナリ
主トシテ油及水ノ滲出防止用例ヘハ内燃機 關齒車室蓋、「クランク」室取附部、氣化器取 附部、送水「ポンプ」取附部等	耐抗力性、耐熱性ヲ必要トスル箇所例ヘハ 點火栓取附部、高壓空氣連結部等 又鉛ハ主トシテ耐酸性、耐水性ヲ必要トス ル箇所ニ使用ス	主トシテ各種回轉軸端等ノ潤滑油浸出防止 ニ使用ス	主トシテ大ナル機械的抗力ヲ要セサル部分 ノ油浸出防止用例ヘハ各種齒車室蓋、「ク ランク」室取附部、氣化器取附部等	液體或氣體ノ浸出防止用例ヘハ火砲駐退 機、送水「ポンプ」又ハ低壓蒸氣配管、放熱 管取附部、各種「ポンプ」ノ「ピストン」部等

第二十五節 電線

第百六十九 主ナル電線ノ種類及用途例左ノ如シ

種	類	用	途	例
裸	線銅裸	單體タル銅線ニシテ軟銅線、硬銅線ノ二種アリ又錫「メツキ」セルモノヲ特ニ錫「メツキ」銅線ト云フ	銅線、無線通信機類配電盤用、各種接續紐、電鈴式電話機接續紐心線ノ一部等 錫鍍「メツキ」銅線、無線通信機空中線引込線各、種被覆線心線等	
電	線銅撚	單銅線ヲ撚合ハセタルモノニシテ多數ノ細キ線ヲ一纏トシ同シ方向ニ撚合ハセタルモノナリ	無線通信機發電機ノ界磁接續線等	
線	線金合銅	銅線ニ扯斷力、伸長率、導電率又ハ抵抗ヲ增加スル目的ヲ以テ他ノ元素ヲ加ヘタルモノニシテ左ノ如キ種類アリ 珪銅線、銅ニ錫及珪素ヲ加ヘタルモノナリ		珪銅線、無線通信機地網、空中線等

兵器構成ノ素質



裸電線		
銅合金線	鋼覆銅線	鋼線
<p>洋銀線 銅ニ「ニツケル」及亞鉛ヲ加ヘタルモノニシテ抵抗線用トス</p> <p>C合金線 銅ニ「ニツケル」及珪素ヲ加ヘ熱處理ヲ施シタルモノニシテ扯斷力及導電率大ナリ</p> <p>「ニクロム」線 銅ニ「ニツケル」ヲ加ヘ特ニ抵抗ヲ大ナラシメルタルモノナリ</p> <p>備考 電熱用トシテ使用セラルル「ニクロム」線ハ「ニツケル」ヲ主成分トシ之ニ「クロム」及鐵等ヲ加ヘタルモノナリ</p>	<p>銅線ヲ心線トシ外部ヲ銅皮ニテ覆ヒタルモノニシテ扯斷力大ニシテ鋼ノ腐蝕スルコト尠シ</p> <p>金質ハ優良ナル鋼ナリ</p>	<p>鐵線表面ヲ亞鉛「メツキ」セルモノナリ</p>
<p>洋銀線 有線通信機、加減抵抗器等</p> <p>C合金線 九二式裸線等</p> <p>「ニクロム」線 無線通信機心線抵抗線等</p>	<p>野戰建築用、洗矢等</p> <p>被覆線心線等</p>	<p>野戰建築用、中、小籐籠蝶番等</p>

絶縁電線		
綿捲線	絹捲線	「パラフィン」綿捲線
<p>心線ニハ通常軟銅線ヲ用ヒ精細ナル片撚綿絲ヲ一重乃至二重ニ緊密ニ纏捲被覆セルモノニシテ其層數ニ從ヒ夫々一重、二重或ハ三重捲線ト謂フ用途極メテ廣シ</p>	<p>綿捲線ノ綿絲ニ代フルニ極メテ細撚ナル絹絲ヲ纏捲セルモノニシテ種別ハ綿捲線ニ同シク用途廣シ</p>	<p>綿捲銅線又ハ絹捲銅線ニ「パラフィン」ヲ浸潤セシメタルモノニシテ左ノ三種アリ</p> <p>一 二重捲銅線ニ「パラフィン」ヲ浸潤セシメタルモノ</p> <p>二 二重綿捲銅線ニ更ニ一重ノ綿絲編組ヲ施シ之ニ「パラフィン」ヲ浸潤セシメタルモノ</p> <p>三 二重絹捲銅線ニ更ニ綿絲ノ一重捲ト編組トヲ施シ「パラフィン」ヲ浸潤セシメタルモノ</p>
<p>各種通信器材並電動機、發電機、變壓器用捲線及配線等</p>	<p>現字機、各種電話機、無線器材、各種計器用諸捲線等ニ用ヒ特ニ高周波用變壓器等</p>	<p>通信器材各種接續用線等</p>

兵器構成ノ素質



兵器保存要領 第二篇 兵器構成ノ材料及素質 終

絶縁電線	
絶縁電線「ムゴ」	絶縁電線「ルメナエ」
銅線ヲ「ゴム」ヲ以テ被覆絶縁セルモノナルモ「ゴム」被覆ト共ニ其他ノ編組ヲ用フルコト多シ「ゴム」絶縁電線ノ上ヲ全長ニ互リ厚サ略、均一ナル純鉛ノ圓管ニテ包覆セルモノヲ鉛被線ト謂フ	軟銅等線ノ表面ニ特殊成分ノ絶縁性「エナメル」皮膜ヲ焼附ケ絶縁シタルモノナリ本線ノ特長ハ被膜薄クシテ然モ絶縁力高ク高熱ニ耐ヘ酸、「アルカリ」、油ニ耐ユルニ在リ
各種通信器材接續線等	無線通信機各種接續紐、發電機界磁線輪、電鈴式電話機受話器捲線、計器類ノ配線等



兵器保存要領

第三篇

兵器保存用材料及器具



兵器保存要領

第三篇 兵器保存用材料及器具

目次

第一章 兵器保存用材料	一頁
第一節 油	一
第一款 通説	一
第二款 スピンドル油	八
第三款 耐寒性スピンドル油	九
第四款 ベトロラタム	一一
第五款 ワセリン	一三
第六款 パラフィン	一四
第七款 グリース	一五

目次



二

第八款	耐寒グリース	.....	一五
第九款	シリンダ油	.....	一六
第十款	マシン油	.....	一七
第十一款	内燃機油	.....	一八
第十二款	ダイナモ油	.....	一九
第十三款	臺車油	.....	二〇
第十四款	時計油	.....	二一
第十五款	鎖油	.....	二一
第十六款	腔中油	.....	二二
第十七款	揮發油	.....	二四
第十八款	燈油	.....	二五
第十九款	牛脂	.....	二六

第二十款	防錆脂	.....	二七
第二十一款	馬油	.....	二八
第二十二款	豚脂	.....	二八
第二十三款	鯨油	.....	二九
第二十四款	硬化油	.....	三〇
第二十五款	革脂	.....	三一
第二十六款	牛脚油	.....	三四
第二十七款	鯨腦油	.....	三五
第二十八款	防擦脂	.....	三五
第二十九款	菜種油	.....	三六
第三十款	白絞油	.....	三七
第三十一款	椿油	.....	三八



第三十二款	亞麻仁油	三九
第三十三款	ボイル油	四一
第三十四款	荏油	四一
第三十五款	桐油	四二
第三十六款	ヒマシ油	四三
第三十七款	オリーブ油	四四
第三十八款	テレピン油	四四
第三十九款	樟腦油	四五
第四十款	メニール	四六
第二節	塗料	四七
第一款	ペイント	四七
其一	通説	四八

其二	サビ止ペイント	五三
其三	上塗塗料	五四
其四	偽裝塗料	五七
第二款	ワニス	五八
其一	通説	五八
其二	油ワニス	五九
其三	セラックワニス	六二
其四	アスファルトワニス	六三
其五	ニトロセルローズワニス	六四
其六	ベークライトワニス	六五
第三款	エナメルペイント	六五
第四款	漆液	六七



第五款	夜光塗料	七〇
第六款	顔料	七一
其一	白色顔料	七二
其二	黄色顔料	七六
其三	青色顔料	七七
其四	赤色顔料	七九
其五	黑色顔料	八二
第七款	樹脂	八四
其一	コバル	八四
其二	サンダラック	八四
其三	セラック	八五
其四	ロジン	八六

其五	琥珀	八七
第三節	藥品類	八七
第一款	炭酸ソーダ	八八
第二款	磷酸ソーダ	八八
第三款	苛性ソーダ	八九
第四款	苛性カリ	九〇
第五款	石鹼	九一
第六款	アルコール	九三
第七款	エーテル	九四
第八款	クレオソート	九五
第九款	硫酸	九五
第十款	塩酸	九七



第十一款	鹽化アシモン	九七
第十二款	硫酸銅	九八
第十三款	重クロム酸カリ	九九
第十四款	タンニン酸	一〇〇
第十五款	オレイン酸	一〇一
第十六款	ベンゾー	一〇二
第十七款	バラヂクロルベンゾール	一〇二
第十八款	ナフタリン	一〇三
第十九款	サリチル酸	一〇四
第二十款	クロルピクリン	一〇五
第二十一款	コールドタール	一〇六
第二十二款	ホルマリン	一〇七

第二十三款	サイローム	一〇八
第二十四款	六鹽化エタン	一〇九
第二十五款	眼鏡用氣密劑	一一〇
第二十六款	眼鏡用防擦劑	一一〇
第二十七款	空氣乾燥劑	一一一
第二十八款	鹽化コバルト試験紙	一一三
第二十九款	密閉蠟	一一四
第三十款	軟性防濕劑	一一五
第三十一款	防曇劑及防曇板	一一六
第三十二款	カルナウバ蠟	一一八
第三十三款	バラニトロフエノール	一一九
第三十四款	除銅劑	一二〇



第三十五款	腔中洗滌液	一三二
第三十六款	硼砂	一三三
第三十七款	グリセリン	一三四
第三十八款	グリコール	一三五
第三十九款	カーバイト	一三六
第四十款	密蠟	一三七
第四十一款	アラビヤゴム	一三八
第四十二款	膠	一二九
第四十三款	カゼイン	一三〇
第四十四款	布海苔	一三〇
第四十五款	盤石糊	一三一
第四十六款	炭糊	一三二

第四十七款	漆糊	一三三
第四十八款	軟松瀝	一三三
第四十九款	タルク	一三五
第四節	其他ノ材料	一三五
第一款	木綿	一三五
第二款	手袋	一三六
第三款	磨粉	一三七
第四款	紙鏢及布鏢	一三七
第五款	木賊	一三八
第六款	絶縁用テープ	一三九
第二章	兵器保存用器具	一三九
第一節	兵器手入臺	一四〇



第二節	油 罐	.....	一四〇
第三節	油 差	.....	一四二
第四節	注脂器	.....	一四五
第五節	刷 毛	.....	一四六
第六節	油煎器	.....	一四八
第七節	脂油與熱器	.....	一五〇
第八節	洗滌用ポンプ	.....	一五二
第九節	スバナ	.....	一五四
第十節	ねぢ廻	.....	一五七
第十一節	ピン拔	.....	一六〇
第十二節	絞鉗鉄	.....	一六二
第十三節	彈鎖子抽出桿	.....	一六三

第十四節	銃洗滌臺及銃托架	.....	一六四
第十五節	銃腔洗矢	.....	一六九
第十六節	補足糊杖	.....	一七一
第十七節	保心筒	.....	一七一
第十八節	銃用洗頭及洗管	.....	一七二
第十九節	小銃藥室掃除棒	.....	一七四
第二十節	小銃圓筒掃除桿	.....	一七六
第二十一節	重錘式塗油紐	.....	一七七
第二十二節	小銃引鐵檢查器	.....	一七八
第二十三節	小銃藥室檢查鏡	.....	一七八
第二十四節	擲彈筒手入具	.....	一七九
第二十五節	除銅器具	.....	一八〇



第二十六節 砲口保護器 ..... 一八二

第二十七節 旋回式洗頭、給水旋回式洗頭及給水旋回式洗頭用洗桿 ..... 一八四

第二十八節 活塞桿分解結合器 ..... 一八八

第二十九節 駐退機分解結合器 ..... 一九〇

第三十節 砲腔檢查鏡 ..... 一九一

第三十一節 導通檢查器 ..... 一九二

兵器保存要領

第二篇 兵器保存用材料及器具目次終

兵器保存要領

第二篇 兵器保存用材料及器具

第一章 兵器保存用材料

第一節 油

第一款 通説

第一 油トハ鑛油及油脂竝此等ノ混合油ヲ總稱ス

鑛油ハ主トシテ原油ヨリ製出スル油ニシテ「スピンドル」油、「ペトロラタム」、「マシ  
ン」油、内燃機油、「ダイナモ」油、臺車油、「シリンド」油、燈油、揮發油及「ワセリン」  
等之ニ屬ス

油脂ハ動物又ハ植物ヨリ得ラルル油ニシテ牛脂、鯨油、菜種油、椿油、亞麻仁油、荳  
油、桐油、「ヒマシ」油、「テレピン」油及樟腦油等之ニ屬ス

兵器保存用材料



第二油ノ一般的鑑別法左ノ如シ

區分	鑑別法
色	<p>一 油ハ其色相ヲ檢シテ大要其油ノ良否ヲ判定スルコトヲ得之ヲ檢スルニハ試料ヲ無色透明ナル「ガラス」罐又ハ試験管ニ容レ透視ス此場合白布等ヲ背面ニ當テテ透視スルトキハ一層明瞭ナリ</p> <p>二 一般ニ純粹ノ油ハ無色ナルカ或ハ有色ナルモ其色淡ク不純ナルモノハ其色濃キヲ通常トス但色相ノ極メテ淡キモノト雖品質劣等ナル他種ノ油ヲ混入シアルコトアリ又長時日ヲ經過セハ自然分解シテ色相ニ變化ヲ生スルコトアルヲ以テ直ニ其品質ノ良否ヲ決定スル能ハス他ノ方法ト相俟チテ鑑別スルヲ要ス</p>
透明度	<p>液狀ノ油ハ其透明度ヲ檢ス之カ爲試料ヲ「ガラス」罐又ハ試験管ニ容レ透視ス一般ニ透明ニシテ清澄ナルモノハ品質優良ニシテ潤濁スルモノハ不純ナル證ナリ故ニ潤濁ノ多少ニ依リ油ノ良否ヲ判定シ得然レトモ透明度モ色ト同シク之ヲ以テ直ニ油類品質ノ良否ヲ斷定シ得サルコトアリ</p>
臭	<p>一 油ハ其種類ニ依リ芳香ヲ放ツモノ、臭氣ヲ發スルモノ又ハ無臭ノモノアリ而シテ其香氣又ハ臭氣ハ油固有ノモノナルヲ以テ之ニ依リ略、其種類ヲ判定シ又ハ他油ヲ混合セル場合ノ判別ヲ爲スコトヲ得</p> <p>二 品質純良ナルモノハ概シテ臭氣少ク品質低下スルニ從ヒ不快ノ臭氣ヲ發スルヲ通常トス故ニ不快ノ臭氣ヲ發スルモノハ品質不良ナルカ或ハ他ノ不純物ヲ混入セルモノナリ</p>

味	觸感	溶解度
<p>油中動植物油ニシテ味ヒ得ヘキモノハ味感ニ依リ略、其種類及品質ヲ鑑別スルコトヲ得一般ニ品質優良ナルニ從ヒ味ハ輕キモノニシテ不快ナル味ヲ有スルモノハ品質不良ナルモノトス</p>	<p>一 油ヲ指ト食指トノ間ニ摩擦スルトキハ油種ニ依リ或異ル觸感アリ又塵埃、土砂等ノ夾雜物ヲ含有セルモノハ其觸感圓滑ナラサルヲ通常トス故ニ此觸感ニ依リ油種及其良否ヲ判定スルコトヲ得然レトモ其程度ハ種類ニ依リテ一様ナラス故ニ油ノ檢定ニ際シテハ其油固有ノ粘滑ノ程度ヲ暗識シアルヲ要ス</p> <p>二 此鑑別法ハ熟練ヲ要スルモ豫メ觸感ヲ了知シ置クトキハ鑑別ニ際シ判別ノ資ト爲スコトヲ得ヘシ</p>	<p>一 油ハ溶解劑ノ種類ニ依リ之ニ溶解スルモノト否ラサルモノトアリ此性質ヲ利用シテ品質鑑別ノ一手段ト爲スコトヲ得例ヘハ脂肪油及脂肪ハ特殊ノモノヲ除キ「アルコール」ニハ少シク溶解スルノミナリ故ニ「アルコール」中ニ供試品ヲ容レ溶解分ヲ生スルトキハ不純物ヲ含有スル證ナリ</p> <p>二 油ハ一般ニ「エーテル」ニ能ク溶解ス今之ヲ「エーテル」中ニ投スルトキハ油脂ノミ溶解シ不純物若ハ夾雜物ハ溶解スルコトナシ故ニ此方法ニ依リ不純分若ハ夾雜物ヲ發見スルコトヲ得</p>



比 重	凝 融 點 及 凝 固 點
<p>一 油ノ比重ヲ測定スルトキハ其種類ノ何タルヤ略々判定シ得ヘク又檢知セントスル油ノ純粹ノ程度ヲモ判知スルヲ得ヘシ</p> <p>二 比重ノ測定法ニハ種々アルモ液體油ニ在リテハ普通「ボーマー」浮秤ヲ用ヒ尙粘極メテ小ナル油ニ對シテハ「ウエストフアール」比重秤ヲ用フルトキハ精確ニシテ輕便ナリ</p>	<p>一 油ハ同種ノモノト雖成分ヲ異ニスルトキハ融點及凝固點モ亦一定セズ又其成分中ニ種々ノ夾雜物ヲ含有スルトキハ著シキ差異ヲ生スルカ故ニ豫メ純良ナル品質ヲ有スルモノニ就テ其融點及凝固點ヲ詳知シ置クトキハ鑑別セントスル油ノ純否ヲ判定スルコトヲ得</p> <p>二 融點及凝固點ヲ測定スル簡單ナル方法左ノ如シ</p> <p>1 固體及半固體狀油ノ融點ヲ測定スルニハ「ビーカー」ニ水銀ヲ容レ之ヲ水ヲ容レタル器中ニ容レテニ寒暖計ヲ上ヨリ吊リ下ケテ水銀中ニ挿入シ水銀面上ニ少量ノ油塊ヲ載セタル後徐々ニ水ヲ熱シ油ノ融點シ始ムルトキノ溫度ヲ寒暖計ニテ讀ムモノトス供試品半固體ナルトキハ全部融點シ終リタルトキノ溫度ヲ其融點トス又凝固點ヲ測定スルニハ前記ノ方法ニ依リ油ヲ全部融點シタル後漸次溫度ヲ降下セシメ供試品ノ凝固シ始ムルトキノ溫度ヲ讀ムヘシ</p> <p>2 液狀油ノ凝固點ヲ測定スルニハ試驗管中ニ其約半量ノ供試品ヲ容レ之ニ寒暖計ヲ挿入シテ寒劑ヲ以テ冷却スルトキハ管内ノ油ハ遂ニ凝固スルニ至ル此凝固シ始ムルトキノ溫度ヲ其油ノ凝固點トス又融點ヲ</p>

粘 度	引 火 點	水 ノ 存 在
<p>測定スルニ寒劑ヲ除去シ置クトキハ漸次溫度上昇シ融點シ始ムルヲ以テ其時ノ溫度ヲ讀ムヘシ</p> <p>一 防擦用油ヲ選擇スルニ方リ最モ必要ナルハ粘度ナリ然レトモ粘度ハ溫度ニ依リ著シキ差異アルコトニ注意スルヲ要ス</p> <p>二 粘度ヲ測定スルニハ通常「レッドウッド」氏粘度計又ハ「エングラ」氏粘度計ヲ用フ其要領ハ通常ニ定量ノ油カ細孔ヨリ流出スル時間(秒)ヲ以テス</p>	<p>一 防擦用油ニ在リテハ危險ヲ豫防スル爲引火點ヲ測定ス</p> <p>二 一般ニハ「ペンスキー」試驗器ヲ用フルヲ可トス</p> <p>引火點トハ油ヲ加熱シテ發生スル蒸氣ト大氣トノ混合物カ火焰ノ接觸ニ依リ始メテ弱キ爆鳴引火ヲ爲ストキノ油ノ溫度ヲ謂フ</p>	<p>油ハ精製品ト雖尙若干ノ水分ヲ含有ス防錆用トシテ長時日ノ塗布ニ使用スルモノ或ハ精巧ナル機械ニ塗布スルモノニ在リテハ水ノ存在ハ特ニ有害ナルヲ以テ之ヲ檢知スルコト必要ナリ</p> <p>一 試驗管ニ試料(約五瓦)ヲ容レ加熱スルトキ發泡スルモノハ水ノ存在スルトナリ又多量ノ水分ヲ含ムトキハ濁濁ヲ生シ長時間ノ與熱ニ依リ透明トナル</p> <p>二 脂肪中ニ水ノ存在ヲ知ルニハ脂肪ノ少量ヲ試驗管ニ容レ之ヲ熱スヘシ若水ノ存在スルトキハ發泡シテ一種ノ爆鳴ヲ發シ水分ハ蒸發シテ冷處ニ凝縮ス水分存在セサルカ或ハ極メテ微量ノ水分ヲ含ムモノハ靜ニ融解ス</p>



土砂塵埃ノ存在	遊離存在ノ酸
<p>一 土砂塵埃ノ有無ヲ檢知スルニハ液狀油ニ在リテハ之ヲ清淨ナル蒸發皿若ハ試験管ニ容レ蒸發又ハ透視シ固形油ニ在リテハ之ヲ蒸發皿ニ盛り徐々ニ溶解シテ靜置シ器底ノ殘留物ノ有無ニ依リテ之ヲ檢知スルモノトス</p> <p>二 白亞ヲ混入セルモノハ稀鹽酸ノ注加ニ依リテ「ガス」ヲ發生シ澱粉ハ「ヨード」ヲ以テ藍色ヲ呈スルコトニ依リテ鑑別スルコトヲ得</p>	<p>油ハ精製ノ際硫酸ヲ用フルコト多キカ故ニ其處理不完全ナルトキハ油中ニ尙幾分ノ硫酸ヲ殘留スルコトアリ又油ハ常ニ空氣中ニ存在スル諸種ノ微生物、酸素、日光等ノ作用ヲ受ケテ分解シ多少ノ遊離有機酸ヲ含有スルモノナリ此種ノ油ヲ防錆用ニ使用スルトキハ却テ發錆ヲ誘起スル虞アルモノトス</p> <p>一 有機酸ヲ含ム油ハ之ニ磨キタル銅板ヲ觸接セシメ置クトキハ數時間ノ後銅板ノ表面ニ綠色ノ酸化膜ヲ生ス</p> <p>二 遊離脂肪酸ヲ含ム油ハ之ニ炭酸「ソーダ」ノ溶液ヲ加ヘテ能ク振盪シタル後之ヲ靜置スルトキハ兩液混和シ濁濁ヲ生スルモ酸ノ存在セサル油ニ在リテハ兩液混和スルコトナク透明ニ分離スルヲ以テ容易ニ其存否ヲ檢知シ得</p> <p>三 硫酸ヲ含ム疑ヒアルトキハ試料ニ水ヲ混シ能ク振盪シ水ヲ分離シタルモノニ付檢査ス乃チ此液ニ青色「リトマス」液ヲ點滴スルトキ赤色ヲ呈シ又「リトマス」液ニ代フルニ鹽化「バリウム」ヲ滴下スルトキ白色沈澱物(硫酸「バリウム」)ヲ生スルハ硫酸ノ存在スル證ナリ</p>

第三 油ノ再製法ハ廢油ノ種類及其程度ニ依リ異ナルモ最モ簡單ナルモノハ濾過及靜置法ナリ又常續的ニ實施スル場合ニハ適宜ノ設備ヲ設ケ遠心分離、洗滌、蒸溜法等ニ依ルヲ有利トス其方法概ネ左ノ如シ

區分	再製法
濾過	<p>一 廢油ヲ濾網、綿布若ハ「フェルト」等ニテ濾過シ種々ノ浮游物、金屬粉末及塵埃等ノ夾雜物ヲ除去ス尙活性炭又ハ酸性白土ノ如キ吸著劑ヲ通シ脱色セシムレハ一層可ナリ</p> <p>二 粘稠ノ廢油ハ濾過ノ際約四〇度ニ加温スレハ操作容易ナリ</p>
靜置	<p>濾過シタル油ヲ適當ノ容器ニ容レ靜置シテ水其他ノ夾雜物等ノ沈降スルヲ待チ上澄液ヲ採取ス此際微温ヲ與フレハ作業容易ナリ</p>
遠心分離	<p>遠心分離機ヲ用ヒテ連續的ニ廢油ヲ供給シ夾雜物ヲ凝固分離セシム</p>
洗滌	<p>靜置シテ得タル上澄液ヲ耐酸、耐「アルカリ」性容器ニ容レ濃硫酸ヲ添加シテ攪拌混和後暫時放置シ沈降セル硫酸ヲ拔去リタル後水ヲ注加シテ洗滌ス次ニ稀薄ナル苛性「ソーダ」液ヲ加ヘテ中和シ再ヒ水ヲ注加シテ過剩「アルカリ」ヲ除去ス而シテ洗滌シタル油ハ靜置シ水ト分離シタル後油ノミ抽出ス</p>



蒸溜 廢油ヲ直火又ハ蒸氣ニ依リ蒸溜シ廢油中ニ混入溶解セル揮發性油ヲ驅逐除去ス

第二款 スピンドル油

第四 「スピンドル」油ノ性質、鑑別法、用途例及用法左ノ如シ

性	質	鑑別法	用途例	用法
一 原油ヲ蒸溜シテ得タル蠟油ニシテ透視スルトキハ淡黃褐色乃至淡赤褐色ヲ呈シ螢光ヲ發スル無味無臭ノ稍粘性アル液體ナリ	一 色ハ赤味ヲ帶フルコト少ク且螢光ヲ放チ適度ノ粘度ヲ有スルモノヲ良トス	一 色ハ赤味ヲ帶フルコト少ク且螢光ヲ放チ適度ノ粘度ヲ有スルモノヲ良トス	一 常用品ノ鐵部ノ防錆用、砲ノ機關部、腔中、滑走部等ノ防擦用等	一 常用品ノ鐵部ノ防錆用、砲ノ機關部、腔中、滑走部等ノ防擦用等
二 本油ハ日本標準規格潤滑油第一種甲ニシテ更ニ第一―二號ニ區分セラレ兵器ニハ第二號ノモノヲ使用ス其性質左ノ如シ	二 無臭ナルヲ要ス刺戟性ノ不快臭ヲ有スルハ精製ノ不良ナルモノトス	二 無臭ナルヲ要ス刺戟性ノ不快臭ヲ有スルハ精製ノ不良ナルモノトス	二 通常單獨ニ使用スルモ防擦用トシテハ牛脂又ハ豚脂ト混合シテ使用スルコトヲ得	二 通常單獨ニ使用スルモ防擦用トシテハ牛脂又ハ豚脂ト混合シテ使用スルコトヲ得
	三 試料三立ニ濃硝酸(比重一・四五)一立ヲ加フルトキ直ニ暗赤色ヲ呈スルモノハ純良品トス	三 試料三立ニ濃硝酸(比重一・四五)一立ヲ加フルトキ直ニ暗赤色ヲ呈スルモノハ純良品トス	三 極寒地ニ在リテ已ムヲ得サルトキハ燈油ヲ混合シテ凝固點ヲ低下スルコトヲ得此際混合油ヲ十分振盪スルヲ要ス	三 極寒地ニ在リテ已ムヲ得サルトキハ燈油ヲ混合シテ凝固點ヲ低下スルコトヲ得此際混合油ヲ十分振盪スルヲ要ス

1 比重ハ〇・九〇〇―〇・九三五ナリ	四 燈油ヲ混シタルモノノ實用限界氣溫標準左ノ如シ	混合比(容積)	實用限界氣溫標準
2 引火點ハ一六〇度以上(ベンスキーマルテンス)試驗器ニテ)ナリ		スピンドル油	機關銃 其他
3 粘度ハ三〇度ニ於テ一三〇―一八〇秒又五〇度ニ於テ六〇秒以上(レッドウッド)粘度計ニテ)ナリ		1	約二〇度マテ
4 凝固點ハ零下一〇度以下ナリ		2	約二〇度マテ
		3	約二〇度マテ
		1	約三五度マテ
		2	約三五度マテ
		3	約四〇度マテ

第三款 耐寒性スピンドル油

第五 極寒地ニ於テ「スピンドル」油ニ代用スヘキ油ノ種類、性質、用途例及用法次ノ如シ

兵器保存用材料



種類	性質	用途例、用法
不凍性輕質潤滑油	<p>一 「スピンドル」油と同様原油ヲ蒸溜シタルモノナルモ精製度 高キモノニシテ極寒時ニ在リテ「スピンドル」油ニ代用スルニ 適ス</p> <p>二 無色ニシテ微カニ螢光ヲ有ス</p> <p>三 比重ハ二〇度ニ於テ〇・九以下ナリ</p> <p>四 引火點ハ一三〇度以上ナリ</p> <p>五 粘度ハ溫度二〇度ニテ五〇—七〇秒（「レッドウッド」粘度 計ニテ）ナリ</p> <p>六 凝固點ハ零下五〇度以下ナリ</p>	<p>一 極寒時ニ於テ 「スピンドル」油 又ハ「ペトロラ タム」ノ代用 タム」ノ代用 ス」ノ原料 三 特ニ最低溫用 ニ適ス</p>
冷凍機	<p>一 「スピンドル」油と同様原油ヲ蒸溜シテ得タルモノニシテ 「スピンドル」油ニ比シ潤滑性ハ劣ルモ耐寒用トシテ適當ナリ</p> <p>二 耐寒性大ナルニ從ヒ防錆力ニ乏シキヲ一般トス</p> <p>三 本油ハ日本標準規格潤滑油第一種乙ニシテ更ニ第一—二號 ニ區分セラル其性質左ノ如シ（括弧内ハ第二號）</p> <p>1 引火點ハ一六〇（一七〇）度以上ナリ</p> <p>2 粘度ハ溫度三〇度ニ於テ一三〇—一八〇（一八〇—二三 〇）秒（「レッドウッド」粘度計ニテ）ナリ</p> <p>3 凝固點ハ零下四〇（零下二〇）度以下ナリ</p>	<p>一 用途ハ不凍性 輕質潤滑油ニ同 シ</p> <p>二 使用時ノ最低 溫度ヲ顧慮シ之 ニ適應スル凝固 點ヲ有スルモノ ヲ選擇スルヲ要 ス</p> <p>三 單油ニテ使用 ス</p>

油
シ得サルニ至レ ハ燈油ト配合ス ルコトナク輕質 潤滑油ヲ使用ス ヘシ

第四款 ペトロラタム

第六 「ペトロラタム」ノ性質、鑑別法、用途例及用法左ノ如シ

性質	鑑別法	用途例、用法
<p>一 鑛油ノ一種ニシテ常溫ニ 於テ帶綠褐色ヲ呈シ等質細 密ノ半固體ニシテ無臭ナル カ又ハ輕キ固有臭ヲ有シ無 味ナリ</p> <p>二 比重ハ約〇・九ニシテ概 ネ四五度ニテ熔融ス「ペト</p>	<p>一 常溫ニ於テ色相良好ニシ テ無臭ナルカ又ハ僅ニ鑛油 ノ臭ヲ有スルモノヲ可ト ス</p> <p>二 蠟臭又ハ「タール」臭ヲ有ス ルモノハ不良品トス</p> <p>三 粘着力強ク常溫ニ於テ能</p>	<p>一 永ク使用セサル鐵部ノ防 錆用等</p> <p>二 塗施ノ際ハ通常湯煎器等 ヲ以テ熔融シテ使用ス</p> <p>三 「ペトロラタム」ヲ除去ス ルニハ湯煎器ニテ五〇—八 〇度ニ熱シタル「スピンド</p>

兵器保存用材料



「ベトドラタム」ノ溶解ニ方リ温度八〇度以上ニ昇ルトキハ油ハ分解シ黒變スルノミナラス保存効力ニ影響スルヲ以テ加熱温度ハ八〇度以上ナラサルヲ要ス

三 溶解點高ク凝固點低キヲ以テ常ニ半固體狀ヲ保持シ大暑ノ候ニ於テモ流出セス嚴寒ニ遇フモ「ハラフィン」ノ如ク龜裂ヲ生セス能ク塗布部ニ密著シ大氣ノ作用ヲ防遏ス故ニ長期ノ防錆ニ適ス良質ノモノハ概ネ五―七年間ハ有效ナリ

ク薄層ニ展伸シ得ルヲ要ス

三 試料約五瓦ニ濃硫酸四立方糲ヲ加ヘ劇シク振盪スルトキ常温乃至一〇〇度ニ於テ變色セサルカ或ハ僅ニ黄色又ハ綠色ヲ呈スルニ止マルモノヲ良品トス

四 試料一〇瓦ニ七・五立方糲ノ濃硝酸ヲ加ヘ攪拌スルトキ温度ノ上昇一五度以下ナルヲ要ス

ル」油中ニ洗滌品ヲ浸漬シ「ベトドラタム」ノ溶解スルヲ待チ竹刷毛ニテ舊油ヲ除去ス又容積大ナルモノノ舊油除去ハ乾布ヲ以テ拭淨シ然ル後「スピンドル」油ヲ浸マセタル布片ヲ以テ拭淨ス

四 「ベトドラタム」膠著シ前記ノ方法ニテ除去困難ナルモノハ燈油又ハ揮發油ヲ以テ洗滌ス此場合殘油ハ拭淨スルヲ要ス

五 極寒時凍結シテ兵器ノ使用ヲ妨クルコトアルヲ以テ豫メ之ヲ除去シテ耐寒性「スピンドル」油ヲ使用スルヲ要ス

六 酷暑時ニ於ケル露天格納兵器用ニハ「カルナウバ」蠟四―五%ヲ加フルヲ可トス

第五款 ワセリン

第七 「ワセリン」ノ性質、鑑別法、用途例及用法左ノ如シ

性	質	鑑別	法	用途例	用法
一 重油ヲ急冷シテ生シタル固體ヨリ得ルモノニシテ常温ニ於テ軟膏狀ヲ爲シ白色又ハ微黄色ヲ呈シ半透明ニシテ稍、螢光ヲ有シ無味無臭ナリ	一 白色又ハ微黄色半透明ニシテ常温ニ於テ軟膏狀ヲ呈シ無味無臭ノモノハ良品ナリ	一 鐵部ノ防錆用、樞軸部、關節部、齒車、ねぢ部等ノ防擦用、革脂ノ一成分、蠟製造用等	一 鐵部ノ防錆用、樞軸部、關節部、齒車、ねぢ部等ノ防擦用、革脂ノ一成分、蠟製造用等	一 鐵部ノ防錆用、樞軸部、關節部、齒車、ねぢ部等ノ防擦用、革脂ノ一成分、蠟製造用等	一 鐵部ノ防錆用、樞軸部、關節部、齒車、ねぢ部等ノ防擦用、革脂ノ一成分、蠟製造用等
二 大氣中ニ在リテハ殆ト變化セス温ムレハ微ニ燈油臭ヲ放チ三〇度以上ノ温度ニテ熔融シ透明トナル	二 温湯ヲ加ヘ振盪シタル後青色「リトマス」試験紙ヲ以テ檢スルモ反應ヲ呈セサルヲ要ス	二 單獨ニ使用シ又ハ氣温ノ高低及用途ニ應ジ適度ノ粘度ヲ得ル爲「ハラフィン」ヲ混シテ使用スルコトアリ之ヲ「ハラワセリン」ト稱ス	二 溫湯ヲ加ヘ振盪シタル後青色「リトマス」試験紙ヲ以テ檢スルモ反應ヲ呈セサルヲ要ス	二 單獨ニ使用シ又ハ氣温ノ高低及用途ニ應ジ適度ノ粘度ヲ得ル爲「ハラフィン」ヲ混シテ使用スルコトアリ之ヲ「ハラワセリン」ト稱ス	二 單獨ニ使用シ又ハ氣温ノ高低及用途ニ應ジ適度ノ粘度ヲ得ル爲「ハラフィン」ヲ混シテ使用スルコトアリ之ヲ「ハラワセリン」ト稱ス
三 粘著性ヲ有シ防錆、防擦用ニ適スルモ防錆力ハ「ベトドラタム」ニ劣ル	三 試料一〇瓦ヲ蒸溜水五及濃硫酸(比重一・五三)一〇ヨリ成ル混液二・五立方糲ニ混和シ湯煎器ニ於テ攪拌シツツ温ムルトキ一五分以内ニテ褐色ヲ呈スルハ不良品ナリ	三 試料一〇瓦ヲ蒸溜水五及濃硫酸(比重一・五三)一〇ヨリ成ル混液二・五立方糲ニ混和シ湯煎器ニ於テ攪拌シツツ温ムルトキ一五分以内ニテ褐色ヲ呈スルハ不良品ナリ	三 試料一〇瓦ヲ蒸溜水五及濃硫酸(比重一・五三)一〇ヨリ成ル混液二・五立方糲ニ混和シ湯煎器ニ於テ攪拌シツツ温ムルトキ一五分以内ニテ褐色ヲ呈スルハ不良品ナリ	三 試料一〇瓦ヲ蒸溜水五及濃硫酸(比重一・五三)一〇ヨリ成ル混液二・五立方糲ニ混和シ湯煎器ニ於テ攪拌シツツ温ムルトキ一五分以内ニテ褐色ヲ呈スルハ不良品ナリ	三 試料一〇瓦ヲ蒸溜水五及濃硫酸(比重一・五三)一〇ヨリ成ル混液二・五立方糲ニ混和シ湯煎器ニ於テ攪拌シツツ温ムルトキ一五分以内ニテ褐色ヲ呈スルハ不良品ナリ
四 比重ハ〇・八五〇―〇・八九ナリ					

兵器保存用材料



第六款 パラフィン

第八 「パラフィン」ノ性質、鑑別法、用途例及用法左ノ如シ

性	質	鑑別	法	用途例、用法
一 重油ヲ精製シテ得タル白色蠟狀半透明ノ結晶體ニシテ無味無臭觸感滑カナリ 二 蠟ニ似タルヲ以テ石蠟ノ名アリ手温ニ依リテ柔軟トナリ五〇度以上ニ於テ熔融ス 三 「エーテル」、「ベンゾール」、揮發油、燈油、二硫化炭素等ニ溶解ス 四 比重ハ〇・八九五以上ナリ 五 常温ニ於テ酸、「アルカリ」類ノ作用ヲ受クルコトナシ金屬其他ノ表面ニ塗布シテ空氣及濕氣ノ交感ヲ防退スルコトヲ得ルモ剝脱シ易ク大暑ノ際ハ柔軟トナリ嚴寒ノ際ハ龜裂ヲ生ス		一 白色半透明無味無臭ノモノヲ良トシ又永ク放置シ或ハ指間ニ壓スルモ油狀物ヲ滲出セサルモノヲ良品トス黃色乃至褐色ヲ呈スルモノ及「タール」様ノ臭氣アルモノハ不良品ナリ 二 揮發油ニ溶解シ濾過シテ殘滓少キモノヲ良トス 三 「アルコール」ヲ加ヘ加熱シタル後青色「リトマス」紙ヲ以テ檢スルモ反應ヲ呈セサルヲ要ス 四 「アルコール」ヲ加ヘ加熱濾過シテ著シク重量ヲ減スルモノハ脂肪類ヲ含有セルモノトス		「パラワセリン」及「パラフィン」紙ノ原料 「ベトロラタム」ト混シ銃床ト銃身ノ接部ニ塗布用 蜜閉蠟ノ製造用等

第七款 グリース

第九 「グリース」ノ性質、用途例及用法左ノ如シ

性	質	用途例、用法
「グリース」ハ其種類甚タ多キモ主トシテ重油類又ハ減摩用鐵油中ニ石灰石鹼(二%以上)及水分ノ少量(〇・五―七%)ヲ混シタルモノニシテ時トシテ脂肪類、「グリセリン」等ヲ加フルコトアリ通常半固體ヲ爲シ色相ハ種々アルモ橙黄色ノモノ多シ		一 回轉速度大ナル特殊ノ軸又ハ滑走部、自動車、機關車、發電機等ノ給油困難ナル摩擦部、火砲駐退復坐機ノ隔板用等 二 種類多キヲ以テ部位ト氣温トニ應シテ適當ノモノヲ選定スヘシ 三 特ニ高熱ヲ受クル部位ニ使用スルモノニハ黒鉛ヲ混スルコトアリ之ヲ一般ニ黒鉛「グリース」ト稱ス

第八款 耐寒グリース

兵器保存用材料



第十 耐寒「グリース」ノ性質、用途例及用法左ノ如シ

性	質	用途例、用法
一 耐寒「グリース」ハ不凍性輕質潤滑油中ニ特殊金屬石鹼、水分及滲透劑ヲ混和シタルモノニシテ通常「ゼリー」狀ヲナシ淡黃色ヲ呈ス 二 常溫ニ於テ使用シ得ルノミナラス零下五〇度附近ニ於テモ使用シ得		一 極寒時ニ於テ「グリース」ヲ使用スル箇所ニ用フ 二 常溫ニ於テモ使用可能ナリ

第九款 シリンダ油

第十一 「シリンダ」油ノ性質、鑑別法、用途例及用法左ノ如シ

性	質	鑑別	法	用途例、用法
一 日本標準規格潤滑油第六種ニシテ三種ニ區分ス何レモ濃綠褐色乃至暗黒褐色ノ粘稠ナル純質	一 永ク空氣中ニ曝露スルモ滓渣又ハ沈澱物ヲ生スルコトナキモノヲ良品トス			一 「シリンダ」内部ノ減摩用等 二 機關ノ種類ニ依

リ其儘或ハ適當ニ配合シタル混合油トシテ使用ス

一 油ニシテ無臭ナルカ或ハ輕微ナル鑛油臭アリ 二 比重ハ〇・九〇—〇・九二ナリ 三 粘度ハ一〇〇度ニ於テ七五—二一〇秒「レツドウッド」粘度計ニテナリ 四 引火點ハ二〇〇度以上「ベンスキーマルテンス」試験器ニテニシテ零—五度ニテ凝固ス	二 塗布セル場合其表面ニ「ゴム」質又ハ乾燥性皮膜ヲ生スルモノハ不良品トス 三 三倍以上ノ揮發油ニ完全ニ溶解シテ數日間放置スルモ沈澱セサルモノヲ良品トス 四 不快ナル臭氣又ハ「タール」臭ノアルモノハ不良品ナリ 五 溫度上昇ニ依ル粘度ノ急減ナキヲ要ス
---	--

第十款 マシン油

第十二 「マシン」油ノ性質、鑑別法及用途例左ノ如シ

性	質	鑑別法	用途例
一 日本標準規格潤滑油第三種ニシテ數種アリ何		「シリンダ」油	一 機關車、貨車其他一

兵器保存用材料



レモ淡黄褐色乃至濃赤褐色澄明ノ純餾油ニシテ殆ト無臭ナリ		ニ準ス	一般機械ノ高速回轉軸又ハ滑走部等ノ減摩用等 二 又酷暑時必要ニ際シ輕機關銃ニ「スピンドル」油ニ代へ使用ス(日本標準規格第二號)
二 比重ハ〇・九〇—〇・九四ナリ			
三 引火點ハ一四〇度以上(「ペンスキーマルテンス」試験器ニテ)ナリ			
四 粘度ハ五〇度ニ於テ七五—二二〇秒(「レットウッド」粘度計ニテ)ナリ			
五 本油ハ凝固點ニ依リ左ノ三種ニ區分ス			
區分	凝固點		
暖候用	五度以下		
寒候用	零下一〇度以下		
嚴寒用	零下二五度以下		

第十一款 内燃機油

第十三 内燃機油ノ性質、鑑別法及用途例左ノ如シ

性	質	鑑別法	用途例
一 日本標準規格潤滑油第五種ニシテ數種アリ何レモ黄褐色乃至濃緑褐色澄明ノ餾油ナリ 二 粘度ハ五〇度ニ於テ一〇〇—九〇〇秒(「レットウッド」粘度計ニテ)ナリ 三 引火點ハ通常一七〇—二二〇度(「ペンスキーマルテンス」試験器ニテ)ナリ 四 凝固點ハ五度以下ニシテ種類ニ依リ零下一〇度以下ノモノアリ		「シリンド」油ニ準ス	一 自動車、「ディーゼル」機關其他ノ内燃機關ノ減摩用等 二 使用スヘキ機關及季節ニ適應スルモノヲ選擇スルヲ要ス

第十二款 ダイナモ油

第十四 「ダイナモ」油ノ性質、鑑別法及用途例左ノ如シ

性	質	鑑別法	用途例
一 日本標準規格潤滑油第二種甲ニシテ淡黄褐色乃至赤褐色澄明ノ餾油ナリ		「シリンド」油ニ準ス	一 發電機又ハ電動機ノ減摩用等

兵器保存用材料



<ul style="list-style-type: none"> <li>二 粘度ハ五〇度ニ於テ九〇—一三〇秒〔レットウツド〕粘度計ニテ〕ナリ</li> <li>三 引火點一七〇度〔ペンスキーマルテンス〕試験器ニテ〕以上ナリ</li> <li>四 凝固點ハ零下一〇度以下ナリ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>二 「マシン」油ト同様ニ輕機關銃ニ使用ス</li> </ul>
--	--

第十三款 臺車油

第十五 臺車油ノ性質、鑑別法及用途例左ノ如シ

性 質	鑑 別 法	用 途 例
<ul style="list-style-type: none"> <li>一 日本標準規格潤滑油第四種ニシテ黒褐色乃至暗黒色ナリ</li> <li>二 粘度ハ一〇〇度ニ於テ五〇—三五〇秒〔レットウツド〕粘度計ニテ〕ナリ</li> <li>三 引火點ハ一六〇度〔ペンスキーマルテンス〕試験器ニテ〕以上ナリ</li> </ul>	<p>「シリンドラ」油ニ準ス</p>	<p>臺車其他ノ車軸ノ減摩用等</p>

第十四款 時計油

第十六 時計油ノ性質及用途例左ノ如シ

性 質	用 途 例
<ul style="list-style-type: none"> <li>一 嚴密ニ精製セル動植物油〔椿油、鯨腦油、牛脚油、ナフテン酸グリセライド〕等〕及鑛油ノ單獨若ハ混合油ナリ</li> <li>二 無色乃至淡黄色ニシテ透明無臭ノ流動性大ナル液體ナリ</li> <li>三 凝固點ハ零下一〇度以下ナリ</li> </ul>	<p>放電器、斷續器、精密器具機械等ノ中塗料ヲ施シアラサル鐵部、摩擦部ノ防擦、防錆用等</p>

第十五款 鎖 油

第十七 鎖油ノ性質及用途例左ノ如シ

性 質	用 途 例
<ul style="list-style-type: none"> <li>一 鑛油中ニ一〇—一五%ノ黒鉛ヲ「コロイド」状態〔泥狀〕ニテ含兵器保存用材料</li> </ul>	<p>齒車ノ啞合部、齒車ト鎖</p>



- 有セル黒色ノ極メテ粘稠ナル物質ナリ
- 二 捏和セル黒色ノ微粒子ハ電解質ニ依リ凝固分離スルコトアリ故ニ稀釋シ使用スル鑛油ハ中性ナルヲ要ス
- 三 摩擦面ノ微小ナル凹凸ヲ平面ト爲シ摩擦部分ノ金屬面直接ノ接觸ヲ防止ス

トノ防擦用等

二二

### 第十六款 腔中油

#### 第十八 腔中油ノ製法、性質、用途例及用法左ノ如シ

製	法	性	質	用途例、用法
一 調製材料及其配合比 「スピンドル」油七〇 「オレイン」酸 九 重量% 「カリ」石鹼 二一 此配合比ハ正確ナルヲ要ス 二 調製法 1 初メ「カリ」石鹼ノ全量ヲ正		一 浸透力大ニシテ火藥渣ノ溶解力旺盛ナリ之カ爲腔面ノ疵部、燒蝕部等ニモ浸潤シ其内部ノ渣滓及「ガス」ヲモ溶解除去スルコトヲ得 二 本油ハ長時間ノ防錆ニ適セス又永ク大氣ニ觸ルルトキハ油質	一 小銃、機關銃及火砲等ノ射撃後腔中ノ有害物除去用等 二 本油ハ通常腔中洗滌液ヲ以テ洗滌シタル後之ヲ塗布	

シク秤量シテ二、三分間湯煎器ヲ以テ約八〇度ニ加熱シ攪拌シツツ「オレイン」酸ノ全量ヲ逐次加ヘ均質ト爲シ更ニ「スピンドル」油ノ全量ヲ加ヘ時々攪拌シツツ同溫度ニ三、四時間保持スルトキハ透明均等ノ溶液トナル

2 調製容器ハ陶磁器又ハ「ブリキ」罐ヲ用フルヲ可トス

ヲ變化ス

三 各配合劑ノ作用  
 「オレイン」酸ハ弱酸ニシテ浸透力強ク粗ナル表面ニ對シテモ能ク隅々ニ至ルマテ普及スルヲ得且火藥渣ノ溶解力大ナルノミナラス腔面ニ附着セル銅、鉛等ニ作用シテ鹽類ヲ形成シ其除去ヲ容易ナラシムルモノトス  
 「カリ」石鹼ハ鑛油中ニ在リテハ弱「アルカリ」性ニシテ殆ト其作用ヲ見サルモ之ヲ手入劑ニ加ヘテ腔面ニ塗布スルトキハ空氣中ノ水分就中火藥「ガス」ニ依リ生スル水蒸氣ニ作用シテ加水分解ヲ行ヒ益々「アルカリ」性ヲ増加シテ能ク低級酸化窒素生成物ヲ中和スルコトヲ得

シ數時間乃至十數時間放置シタル後拭除スルモノトス

三 寒冷時又ハ格納品ハ各成分分離シテ沈澱ヲ生スルヲ以テ使用ニ方リ微溫ニテ温メ又ハ振盪スルヲ要ス

四 本油ハ長時間ノ防錆ニ適セサルヲ以テ使用後ハ更ニ防錆油ヲ塗布スヘシ



### 第十七款 揮發油

第十九 揮發油ノ性質、鑑別法、用途例及用法左ノ如シ

性	質	鑑別	法	用途例、用法
一 原油ヲ蒸溜シテ四〇—二二五度ノ間ニテ得ラルルモノニシテ無色透明特殊ノ快臭ヲ有シ流動性及揮發性大ナル液體ナリ而シテ溜出溫度及品質ニ依リ數種アリ	一 揮發油ヲ掌上ニ滴下スルニ其揮發速ニシテ快臭ヲ放チ後ニ燈油臭ヲ留メサルモノハ優良品トス	一 自動車等ノ燃料、樹脂、脂油、生「ゴム」、塗料其他ノ溶劑、拭淨手入用等	一 自動車等ノ燃料、樹脂、脂油、生「ゴム」、塗料其他ノ溶劑、拭淨手入用等	一 自動車等ノ燃料、樹脂、脂油、生「ゴム」、塗料其他ノ溶劑、拭淨手入用等
二 引火點ハ一〇度以下(「エーペルベンスキー」試験器ニテ)ニシテ溜出溫度ノ低キモノ程引火シ易シ	二 磁製蒸發皿ニ容レ湯煎器上ニテ蒸發セシムルトキ油狀ヲ成セル重キ炭化水素ヲ殘留スルモノハ不良品トス	二 此油ヲ用ヒ拭淨シタルトキハ十分清拭シ殘油ヲ除去スヘシ否ラサレハ酸化ヲ助長セシムル虞アリ	二 磁製蒸發皿ニ容レ湯煎器上ニテ蒸發セシムルトキ油狀ヲ成セル重キ炭化水素ヲ殘留スルモノハ不良品トス	二 此油ヲ用ヒ拭淨シタルトキハ十分清拭シ殘油ヲ除去スヘシ否ラサレハ酸化ヲ助長セシムル虞アリ
三 自然發火溫度ハ空氣中ニテ三七〇—四一〇度ナリ	三 揮發油ヲ溫湯ト共ニ振盪後靜置シテ分離セル溫湯ハ中性ナルヲ要ス		三 揮發油ヲ溫湯ト共ニ振盪後靜置シテ分離セル溫湯ハ中性ナルヲ要ス	
四 比重ハ概ネ〇・七六以下ナリ				
五 反應中性ニシテ水ニ溶解セス「アルコール」ニハ僅ニ溶解ス				

六 他物ニ對シテハ著シキ溶解性ヲ有シ生「ゴム」、「アスファルト」、樹脂及脂油類ヲ溶解ス但「ヒマシ」油ニ對シテハ其溶解極メテ緩徐ナリ

### 第十八款 燈油

第二十 燈油ノ性質、鑑別法、用途例及用法左ノ如シ

性	質	鑑別	法	用途例、用法
一 原油ヲ蒸溜シテ一五〇—三六〇度ノ間ニ得ラルル溜出油ヲ精製セルモノニシテ無色透明又ハ極メテ輕微ノ黃綠色ヲ帶ヒタル揮發性ノ液體ナリ通常輕微綠色ノ螢光ヲ有シ一種獨特ノ臭氣ヲ有ス而シテ其具備スル性能ニ依リ數種アリ	一 色ノ有無ニ依リ略、品位ノ優劣ヲ判知シ得ルモ尙色度計ヲ用フレハ判別容易ナリ優良ナル燈油ハ無色又ハ淡黃色透明ニシテ沈澱物又ハ浮遊物ヲ含マス	一 洗滌用、溶劑、他油ト混シ防擦用等	一 洗滌用、溶劑、他油ト混シ防擦用等	一 洗滌用、溶劑、他油ト混シ防擦用等
二 比重ハ通常〇・八二—〇・八三五ナ	二 優良品ハ臭氣少キモ品質低下スルニ從ヒ不快ノ臭氣	二 此油ハ鐵部ニ發錆ノ媒介ヲ爲スコト多キヲ以テ使用後ハ十分拭淨シ殘油ナカラシムルコ	二 優良品ハ臭氣少キモ品質低下スルニ從ヒ不快ノ臭氣	二 此油ハ鐵部ニ發錆ノ媒介ヲ爲スコト多キヲ以テ使用後ハ十分拭淨シ殘油ナカラシムルコ

兵器保存用材料



<p>三 引火點ハ通常三〇—五〇度〔エー ベルペンスキ―試験器ニテ〕ナリ</p> <p>四 反應中性ニシテ殆ト溶解セス〔ア ルコール〕ニハ僅ニ溶解シ〔エーテ ル〕〔ベンゾール〕〔テレピン〕油等 ノ普通ノ溶劑ニ溶解ス</p> <p>五 脂肪、樹脂等ヲ溶解シ又大氣中ノ 酸素ヲ吸收シ樹脂狀酸化物ヲ生ス</p>	<p>ヲ放ツ</p> <p>三 比重ヲ測定スレハ其品質 及引火點等ノ概略ヲ知り得 即チ比重小ナルトキハ引火 點低キヲ示シ品質ハ稍、揮 發油ニ近キモノトス</p>	<p>ト必要ナリ</p>
--	--	--------------

### 第十九款 牛 脂

#### 第二十一 牛脂ノ性質、鑑別法及用途例左ノ如シ

性	質	鑑 別	法	用 途 例
<p>一 牛ノ脂肪ヨリ製スルモノ ニシテ優良ナルモノハ五〇</p>	<p>一 牛脂ノ小塊ヲ温メテ液化シ（或ハ 沸騰〔アルコール〕中ニ溶解シ）濾紙</p>			<p>革脂ノ原料、防錆、 防擦用、鞣革用等</p>

<p>度附近ニテ熔出セル白色又 ハ淡黄色ノ固體ニシテ特異 ノ弱臭ヲ有ス</p> <p>二 比重〇・九三ニシテ三七 —三八度ニ於テ熔融シ冷 〔アルコール〕ニハ溶解セサ ルモ沸騰〔アルコール〕中ニ ハ溶解ス</p>	<p>ニテ濾過スルトキ紙上ニ残渣ヲ留ム ルモノハ石灰類ヲ混入シタル證ニシ テ又温メテ液化シ靜置シタル場合底 部ニ水ヲ留ムルハ水ヲ混入シタル證 ナリ</p> <p>二 樹脂ヲ混入シアルモノハ比重高ク 又澱粉ノ混入シアル疑アルモノハ熔 融シテ沃度液ヲ加フレハ藍色ヲ呈ス</p>			
---	--	--	--	--

### 第二十款 防錆脂

#### 第二十二 防錆脂ノ性質、用途例及用法左ノ如シ

性	質	用 途 例、	用 法
<p>一種ノ複合脂ニシテ左ノ配合ヲ有スルモノヲ 少量ノ生亞麻仁油ヲ用ヒテ捏和セルモノト ス</p>		<p>一 永ク使用セサル鐵部特ニ脂油剝脱シ易キ 部分ノ防錆用、目塗用等</p> <p>二 本複合脂ハ必要ニ際シ所要量タケ煉成ス</p>	

兵器保存用材料



白色「ペイント」 牛脂 醋酸鉛ハ無色透明又ハ白色結晶ノ塊狀體ニシテ微ニ醋酸臭ヲ有ス甘味ニシテ收斂性ナリ	四〇 四〇 二〇 重量%	ルモノトス之カ爲先ツ白色「ペイント」、牛脂、醋酸鉛ヲ十分ニ練和シ之ニ少量宛生亞麻仁油ヲ加ヘテ適當ノ硬サヲ與フ
---	-----------------------	--

### 第二十一款 馬油

第二十三 馬油ノ性質及用途例左ノ如シ

性	質	用途例
一 通常黄色ニシテ「バター」狀態ヲ成シ靜置スルトキハ液分ト固形分トニ分離ス 二 比重〇・九二〇四—〇・九二二一 三 革ヲ柔軟ナラシムル點ニ於テ牛脂ニ優レリ		褐色牛革ノ保存用等

### 第二十二款 豚脂

第二十四 豚脂ノ性質、鑑別法及用途例左ノ如シ

性	質	鑑別	法	用途例
一 豚ノ脂肪ヨリ製スルモノニシテ優良ナルモノハ四〇—五〇度ニテ熔出セル白色ノ半固體ニシテ特異ノ弱臭ヲ有シ無味ナリ 二 比重〇・九一—〇・九六ニシテ三〇度ニテ熔融ス 三 大氣中ニ放置スルトキハ漸次黄色ニ變シテ敗油臭ヲ發シ酸性反應ヲ呈シ辛烈ナル味ヲ有スルニ至ル	一 硝酸ヲ加ヘテ振盪スルトキ純良ノモノハ白色若ハ帶黄白色ナルモ棉實油ヲ混入セルモノハ褐色ヲ呈ス 二 胡粉ノ混入ヲ檢スルニハ同量ノ「ベンゾール」ヲ加ヘ溶解シタル後三倍量ノ「エーテル」ヲ加ヘ振盪スレハ純良ノモノハ透明ナルモ不良品ハ濁ス 三 含有水分ノ量ヲ檢スルニハ試験管ニ容レ稍、長時間油(湯)浴中ニテ加温スレハ脂肪ハ水分ヨリ分離シ又他ノ夾雜物モ亦分離ス尙之ヲ放冷スレハ各別ノ層ヲ形成スルヲ以テ其多少ヲモ知ルコトヲ得			「スピンドル」油ト混シ車軸ノ軸臂等ノ防擦用、蠟劑製造用等

### 第二十三款 鯨油

兵器保存用材料



第二十五 鯨油ノ性質、鑑別法及用途例左ノ如シ

性	質	鑑別	法	用途例
<p>一 製法ノ如何ニ依リ淡黄色乃至暗褐色若ハ黑色ヲ呈シ特有ノ臭味ヲ有ス</p> <p>二 比重ハ一五度ニ於テ〇・九二七ナリ</p> <p>三 五度以下ニテ凝固シ「スデアリン」ヲ析出セス又沸騰「アルコール」ニ溶解ス</p>		<p>一 沸騰「アルコール」ニ溶解シ之ヲ放冷セハ初メ白色ノ光澤アル結晶ヲ析出シ次テ黄色ノ結晶ヲ出シ終リニ濃稠ナル褐色ノ油分ヲ殘留ス</p> <p>二 特有ノ臭味ヲ有スルモ不快臭又ハ魚油臭ヲ有スルモノハ不良品トス</p> <p>三 色ノ淡黄色ナルモノハ良品ニシテ褐色ナルモノ之ニ次キ暗褐色又ハ黑色ヲ呈スルモノハ不良品ナリ</p>		<p>革脂ノ製造、鞣革用等</p>

第二十四款 硬化油

第二十六 硬化油ノ製法、性質及用途例左ノ如シ

製法	性質	質	用途例

主トシテ魚油等液狀ヲ成セルモノヲ加壓加熱釜ニ入レ燭媒ノ存在ニ於テ一〇〇—一六〇度ニ加熱シ約一〇氣壓ノ水素ヲ作用セシメ固體ノ脂油ト爲シタルモノナリ

- 一 水素添加ノ程度ニ依リ性状ヲ異ニス  
 硬度品 熔融點五〇—五五度  
 軟度品 〃 三八—四五度
- 二 白色ノ固體ニシテ軟度品ハ夏期ニ於テ軟化ス
- 三 臭氣ナシ
- 四 牛脂ニ比シ酸化ノ變化小ナルヲ以テ革具ノ保存用ニ適ス

革脂乙ノ配合劑

第二十五款 革<sup>カワ</sup>脂<sup>アブラ</sup>

第二十七 革脂ノ製法、性質及用途例左ノ如シ

區分	製法	性質	質	用途例
	<p>一 鯨油、牛脂及「ワセリン」ノ混合品ヲ湯煎器上ニ熔融シツツ之ニ「バラニトロフェノール」</p>	<p>一 牛脂ハ革質ヲ良好ニ維持スル爲最モ必要ナ</p>		<p>「タンニ」鞣革</p>

兵器保存用材料



(甲) 革 脂

ヲ加ヘ丁寧ニ攪拌シテ均一ニ溶解セシムルモノトス  
各材料ノ配合比(重量%)等左ノ如シ

名 稱	格納品用	
	夏季又ハ暖地	冬季又ハ寒地
鯨油	六八・〇	二七・〇
牛 脂	二三・〇	五四・〇
ワセリン	四・五	一一・〇
パラニトロフェノール	四・五	八・〇
	八・〇	七・〇

- 一 硬化油硬度品、同軟度品、蜜蠟及馬油ノ混合品ヲ湯煎器上ニ熔融シツツ要スレハ之ニ「パラニトロフェノール」ヲ加ヘ丁寧ニ攪拌シテ均一ニ溶解セシムルモノトス
- 二 鯨油及牛脂ノ配合比ハ大約ノ標準ヲ示セルモノトス故ニ革質其他保存ノ現況ニ應ジ適度ニ之ヲ加減スルモノトス
- 三 常用品ニ在リテハ土地、季節及使用ノ狀況等ニ依リ發微ノ度ナキ場合ニハ「パラニトロフェノール」ヲ混合セサルコトヲ得

ル保存油トス  
二 鯨油ハ革ニ對シ滲透力強キヲ以テ牛脂ニ混シ其滲透性ヲ増大ス

- 三 「ワセリン」ハ氣候、溫度等ノ變化ニ際シテ常ニ革織維間ニ殘存シテ革ノ柔軟性ヲ保タシムルト共ニ多少ノ防微力ヲ有ス
- 四 「パラニトロフェノール」ハ防微效力強シ

(乙) 革 脂

- 一 硬化油硬度品、同軟度品、蜜蠟及馬油ノ混合品ヲ湯煎器上ニ熔融シツツ要スレハ之ニ「パラニトロフェノール」ヲ加ヘ丁寧ニ攪拌シテ均一ニ溶解セシムルモノトス
- 二 夏季及暖地ニ在リテハ要スレハ硬化油硬度品ノ量ヲ増加シ同軟度品ノ量ヲ減少スルモノトス
- 三 土地、季節及使用狀況等ニ依リ發微ノ度ナキ場合ニハ「パラニトロフェノール」ヲ混合セサルコトヲ得

名 稱	格納品用
硬化油 硬度品	一三・〇
同 軟 度 品	一三・〇
蜜 蠟	四・〇
馬 油	六五・五
「パラニトロフェノール」	四・五

- 一 硬化油ハ革脂(甲)ノ牛脂ニ代ルヘキモノニシテ革質ヲ良好ニ維持ス
- 二 蜜蠟ハ革ノ表面ニ光澤ヲ附與シ被服等ノ汚損ヲ防止ス
- 三 馬油ハ革ニ對スル滲透性ヲ附與シ且革質ヲ柔軟ナラシム
- 四 「パラニトロフェノール」ハ防微效力強シ

兵器保存用材料

堅牛革製  
品、乗鞍、  
鞆、負革、  
帶革等ノ  
常用品ニ  
對スル甲  
ノ代用品  
トシテ使  
用ス



(乙) 脂 革	
備考	硬化油ノ硬度品ト軟度品トヲ熔融點ニ依リ 區分セハ左ノ如シ
軟度品	五〇度 四〇度
硬度品	五〇度 四〇度

第二十六款 牛脚油

第二十八 牛脚油ノ性質、鑑別法及用途例左ノ如シ

性	質	鑑別	法	用途例
一 主トシテ牛ノ脚ヲ水ト共ニ煮 沸シテ得ラレ純良ナルモノハ淡 黄色ノ清澄液ニシテ輕微ナル臭 味ヲ有スル不乾性油ナリ		靜置スレハ「ステアリン」ヲ沈降ス 又零下二四度ニテ凝固ス		時計、「ミシン」等ノ 減摩用等
二 比重〇・九一—〇・九二ナリ				

第二十七款 鯨腦油

第二十九 鯨腦油ノ性質、鑑別法及用途例左ノ如シ

性	質	鑑別	法	用途例
一 抹香鯨ノ頭蓋中ヨリ採リタル 淡黄色ノ流動性大ナル液狀油ニ シテ輕微ナル魚臭ヲ有ス		眞ノ鯨腦油ハ他種ノ鯨ヨリ採取シ タルモノニ比シ臭氣稍、弱ク色相 淡シ		精密ナル機械殊ニ寒 地ニ於ケル諸機械ノ 防擦用等
二 比重〇・八七五—〇・八八六ニ シテ低溫ニ遭フモ容易ニ凝固セ ス				

第二十八款 防擦脂

第三十 防擦脂ノ製法、性質、用途例及用法左ノ如シ

兵器保存用材料



製法	性質	用途例、用法
一 配合比左ノ如シ 牛脂 九〇 「スピン」油 一〇 重量% 「ドル」油 但配合ハ氣温ノ高低ニ依リ適度ノ粘稠度ヲ得ル如ク變更スルノ要アリ又牛脂ニ代フルニ豚脂ヲ以テスルコトヲ得 二 「スピン」油ニ牛脂ヲ加ヘ熔融混和シ調製ス	一 淡黄白色ノ粘稠性ヲ有シ荷重大ナル遊合部ニ用ヒ效アリ 二 四五度以上ニテ熔融シ低温ニテ凝固ス	一 車軸軸臂、車輪ノ轂筒内脂油溜等 二 其儘使用スルモ齒車類ノ防擦用又ハ摩擦熱ヲ減スル爲黒鉛ヲ混和シテ使用スルコトアリ

### 第二十九款 菜種油

#### 第三十一 菜種油ノ性質、鑑別法及用途例左ノ如シ

性質	鑑別	用途例

一 主トシテ油菜ノ種子ヨリ採取セル半乾性油ナリ 二 淡黄褐色ノ液ニシテ特異ノ香氣ヲ有ス空氣中ニ永ク曝露シ置クトキハ酸素ヲ吸收シ漸次濃稠トナリ零下八度以下ニテ凝固ス 三 比重ハ〇・九二—〇・九一八ナリ 四 粘度ハ一三〇—一五〇秒（レツドウツド）粘度計ニテ）ナリ	一 淡黄褐色ノ透明液ニシテ夾雜物ナク輕キ香氣ヲ有スルモノハ良品ナリ 二 異臭ヲ有シ溷濁セルモノハ不良品ナリ	減摩用、精密ヲ要スルねぢ類ノ旋造用、鞣革用、軟松瀝ノ原料等
--	--	-------------------------------

### 第三十款 白絞油

#### 第三十二 白絞油ノ性質、鑑別法及用途例左ノ如シ

性質	鑑別	用途例
一 菜種油ヲ精製シタルモノニシテ純良ナルモノハ殆ト無色透明	菜種油ニ準ス	精密機械ノ減摩用、藥莢縮直用、軟松瀝

兵器保存用材料



ナルカ或ハ淡黄色ニシテ一種ノ輕快ナル臭味ヲ有シ零下10度ニテ凝固ス	ノ製造用等
二 比重ハ0.913—0.917ナリ	
三 粘度ハ1.25—1.45秒(「レツドウツド」粘度計ニテ)ナリ	

第三十一款 椿油

第三十三 椿油ノ性質、鑑別法及用途例左ノ如シ

性	質	鑑別	法	用途例
一 椿ノ種子ヨリ採取シタル不乾性ノ清澄ナル油ニシテ淡黄色ヲ呈ス	一 水ヲ加ヘ振盪シタル分離液ハ「リトマス」ニ對シテハ微酸性ヲ呈スルモ「メチールオレンジ」稀薄溶液ニ對シ赤色ヲ呈スルモノハ不良品ナリ	一 魚油ヲ混シタルモノハ魚臭味アリ掌上ニテ摩擦スレハ容易ニ判知シ得	一 水ヲ加ヘ振盪シタル分離液ハ「リトマス」ニ對シテハ微酸性ヲ呈スルモ「メチールオレンジ」稀薄溶液ニ對シ赤色ヲ呈スルモノハ不良品ナリ	防擦、防錆用又ハ精製シタル純良品ハ高級防錆油トシテ刀劍ニ使用ス
二 零下10度以下ニテ凝固シ揮發分(100度ニ於テ)10時間	二 「アルコール」ヲ加ヘ振盪シタル濾液ハ酸性ニシテ遊離有機酸(「オレイン」酸トシテ)0.1—5%ヲ超過スルモノハ不良品ナリ	二 桐油又ハ棉實油ヲ混スルモノハ硝酸ヲ加フレハ褐色ヲ呈シ純良ナルモノハ黄色	二 「アルコール」ヲ加ヘ振盪シタル濾液ハ酸性ニシテ遊離有機酸(「オレイン」酸トシテ)0.1—5%ヲ超過スルモノハ不良品ナリ	

乾燥後ノ蒸發減量)ハ1.5%以下トス	二 「アルコール」ヲ加ヘ振盪シタル濾液ハ酸性ニシテ遊離有機酸(「オレイン」酸トシテ)0.1—5%ヲ超過スルモノハ不良品ナリ
三 比重ハ0.901—0.92ナリ	

第三十二款 亞麻仁油

第三十四 亞麻仁油ノ種類、性質、鑑別法及用途例左ノ如シ

種類	性質	質	鑑別	法	用途例
亞生	一 亞麻ノ種子ヲ冷壓若ハ溫壓法ニ依リ絞搾シテ得ル黄色乃至帶黃褐色ノ粘稠ナル液體ニシテ乾燥性大ナリ	一 魚油ヲ混シタルモノハ魚臭味アリ掌上ニテ摩擦スレハ容易ニ判知シ得	一 魚油ヲ混シタルモノハ魚臭味アリ掌上ニテ摩擦スレハ容易ニ判知シ得	一 魚油ヲ混シタルモノハ魚臭味アリ掌上ニテ摩擦スレハ容易ニ判知シ得	單獨又ハ煮亞麻仁油ト混シ「ベイント」、「ワニス」ノ原料及麻布、綿布、鋼索類ノ塗料、「リノテープ」、「エンパイヤクロー」等ノ製造用等
	二 溫壓法ニ依リテ得タルモノハ冷壓法ニテ製シタルモノニ比シ一層強烈ナル味ト不快ノ臭ヲ有ス	二 桐油又ハ棉實油ヲ混スルモノハ硝酸ヲ加フレハ褐色ヲ呈シ純良ナルモノハ黄色	二 桐油又ハ棉實油ヲ混スルモノハ硝酸ヲ加フレハ褐色ヲ呈シ純良ナルモノハ黄色	二 桐油又ハ棉實油ヲ混スルモノハ硝酸ヲ加フレハ褐色ヲ呈シ純良ナルモノハ黄色	
	三 比重0.917—0.932ニシテ夫レ以外ノモノハ夾雜物ヲ混有シア				

兵器保存用材料



油 仁 麻 亞 煮	油 仁 麻
<p>一 生亞麻仁油ノ乾燥性ヲ一層大ナラシメンカ爲一五〇—二五〇度ニ於テ乾燥劑(酸化鉛、硼酸、「マンガン」等)ヲ加ヘ三—六時間加熱シタルモノニシテ加熱温度高マルニ從ヒ其色濃ク且粘稠度ヲ増加ス</p> <p>二 帶青色若ハ帶褐黄色ヲ呈シ輕微ノ特異臭(燒附臭)及苦味アリテ生亞麻仁油ニ比シ粘度大且乾燥性一層大ナリ</p> <p>三 比重ハ〇・九三一〇・九五ナリ</p>	<p>四 點火スレハ油煙ヲ放チテ燃燒シ又空氣中ニ曝露シ置クトキハ酸素ヲ吸收シテ漸次粘稠性ヲ増シ遂ニ乾固シテ皮膜ヲ生ス</p> <p>五 零下—六度ノ寒冷ニ遭ヘハ著シク濃稠トナリ零下二七度ニテ凝固シ黄色ノ固體トナル</p>
<p>一 「ガラス」板ニ薄ク塗布スルトキ一五度ニ於テ二〇—二六時間ニテ乾燥スルモノハ良品トス</p> <p>二 其他生亞麻仁油ノモノニ同シ</p>	<p>三 菜種油ヲ混スルモノハ少量ノ鉛白ヲ加ヘテ熱スレハ黑色ヲ呈ス</p>
<p>單獨又ハ生亞麻仁油ト混シ塗料ノ原料、麻布、綿布、銃床、柄木、各種拳銃ノ銃把、導火索、鋼索類ノ塗料等</p>	

四〇

第三十三款 ボイル油

第三十五 「ボイル」油ノ性質、鑑別法及用途例左ノ如シ

性 質	鑑 別	法 用	途 例
<p>一 乾性油又ハ半乾性油等ノ乾燥性ヲ一層大ナラシメンカ爲此等ヲ適當ニ調合シ又ハ之ニ加工シテ製造セルモノナリ</p> <p>二 一般ニ清澄ニシテ冬季ニ於テ微濁ヲ生スルコトアリ</p> <p>三 煮亞麻仁油ヨリモ淡色ニシテ輕微ノ特異臭ヲ有ス</p> <p>四 比重ハ〇・九二—〇・九四ナリ</p>	<p>一、「ガラス」板ニ薄ク塗布スルトキ一五度ニ於テ一〇時間以内ニテ乾燥スルモノハ良品トス</p> <p>二 塗膜ハ平滑ニシテ光澤良好ナルコトヲ要シ七日以上放置スルモ戻リ又ハ光澤ノ減少ヲ呈セサルモノハ良品トス</p>	<p>煮亞麻仁油ニ同シ</p>	

第三十四款 荏 油

兵器保存用材料

四一



第三十六 荏油ノ性質及用途例左ノ如シ

性	質	用途例
一 荏胡麻ノ種子ヲ絞搾シテ得ル乾性油ニシテ淡黄色ノ稍、香味アル液体ナリ 二 比重荏油ハ〇・九三〇—〇・九三五ナルモ煮荏油ハ煮熟ノ程度ニ依リ一定セス 三 其他ノ性質ハ亞麻仁油ニ酷似スルモ同油ニ比シ乾燥性一層大ナリ		「ワニス」、「ペイント」等ノ原料、亞麻仁油ノ代用、「リノリウム」、油布、油紙等ノ塗施用等

第三十五款 桐油<sup>トウ</sup>

第三十七 桐油ノ性質及用途例左ノ如シ

性	質	用途例
一 あぶらぎりノ種子ヨリ採取シタル乾性油ニシテ黄色若ハ褐色ノ粘稠油ナリ 二 乾燥性ハ亞麻仁油ニ稍、優ルモ皮膜ノ耐久性ハ劣リ且表面粗ニシテ時日ノ經過ト共ニ酸化シテ粘性物質ヲ生ス 三 比重ハ〇・九三三—〇・九四三ナリ		亞麻仁油若ハ其他ノ乾性油ト混シ「ペイント」、「ワニス」ノ製造、「リノリウム」、「ゴム」代用品及油紙ノ製造用等

第三十六款 ヒマシ油

第三十八 「ヒマシ」油ノ性質及用途例左ノ如シ

性	質	用途例								
一 蓖麻(タウゴマ)ノ種子ヲ壓搾及抽出法ニ依リテ採取セル不乾性ノ濃稠液ナリ 二 無色乃至緑黄色ニシテ辛味ヲ有ス 三 「ベンゾール」及揮發油ニ溶解セサルモ氷醋酸及無水「アルコール」ニ溶解ス 四 比重ハ〇・九五八—〇・九七〇ナリ 粘度ハ「レツドウツド」粘度計ニテ左ノ如シ	<table border="1"> <thead> <tr> <th>溫度</th> <th>秒數</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>三五度</td> <td>一一三〇—一三三〇</td> </tr> <tr> <td>一〇〇度</td> <td>七〇—八五</td> </tr> <tr> <td>一五〇度</td> <td>三五—四五</td> </tr> </tbody> </table>	溫度	秒數	三五度	一一三〇—一三三〇	一〇〇度	七〇—八五	一五〇度	三五—四五	「ベルト」、自動車ノ革製聯動機等、「クロム」鞣革ノ保存用等
溫度	秒數									
三五度	一一三〇—一三三〇									
一〇〇度	七〇—八五									
一五〇度	三五—四五									
六 空氣ニ曝露スルトキハ漸次遊離酸ヲ増加シ金屬ノ發錆ヲ誘起スルヲ以テ容器ハ常ニ密閉シ置クヲ要ス										

兵器保存用材料



第三十七款 オリーブ油

第三十九 「オリーブ」油ノ性質及用途例左ノ如シ

性	質	用途例
<p>一 「オリーブ」ノ果實ヲ壓搾シテ得タル不乾性脂肪油ニシテ淡黄緑色若ハ黄色ヲ帯ヒ微ニ特異ノ臭氣ヲ有ス</p> <p>二 比重ハ〇・九一五—〇・九二〇ナリ</p> <p>三 約一〇度ニ於テ濁濁シ結晶狀ノ析出物ヲ生シ零度ニ至リテ軟膏狀トナル</p> <p>四 永ク空氣中ニ曝露スルトキハ臭氣ヲ放チ且酸性反應ヲ呈スルニ至ル</p>		<p>軍樂器、喇叭滑走管又ハねぢ部、ばね部等ノ防擦用等</p>

第三十八款 テレピン油

第四十 「テレピン」油ノ性質、鑑別法、用途例及用法左ノ如シ

性	質	鑑別	法	用途例、用法
<p>一 「テレピン」(松精)ヲ蒸溜スルカ又ハ樹脂ニ富ム松柏科ニ屬スル樹木ヲ乾溜スル際副産物トシテ採取スル無色若ハ淡黄色ノ液ニシテ香氣ヲ有シ味辛烈ナリ</p> <p>二 常溫ニ於テ稍、揮發シ點火シ易シ空氣中ニ久シク曝露スルトキハ樹脂狀トナリ普通ノ溶劑ニ溶解シ又樹脂其他ノ油類ヲ溶解ス</p> <p>三 比重ハ〇・八四五—〇・八七五ナリ</p> <p>四 本油ニ觸接スルトキハ體質ニ依リ著シク濕疹(カブレ)ヲ生スルコトアリ</p>		<p>一 本油ヲ白紙ニ二、三滴ヲ滴下シ炭火上ニ致ストキ悉ク蒸發シ痕跡ヲ止メサルモノハ良品ナルモ斑點ヲ生スルモノハ不良品ナリ</p> <p>二 本油ヲ試験管ニ採リ之ニ少量ノ苛性「カリ」ヲ加ヘ徐ニ加熱シ沸騰セシムルトキ沈澱物ヲ生スルモノハ脂肪類ヲ混入スルモノトス</p> <p>三 新鮮ナルモノハ青色「リトマス」紙ヲ赤變セサルモ古キモノ及粗製品ハ赤色ニ變ス</p>		<p>油「ワニス」及其他ノ塗料ノ調製用並稀釋劑、塗料ノ剝脫、洗滌用及溶劑、「ナフタリン」、樟腦ト共ニ防蟲用等</p>

第三十九款 樟腦油

兵器保存用材料



第四十一 樟腦油ノ性質、鑑別法及用途例左ノ如シ

性	質	鑑別	法	用途例
<p>一 樟腦製造ノ際生スル副産物ニシテ多量ノ樟腦ヲ含ミ無色乃至黄褐色ノ液體ナリ</p> <p>二 香氣ハ樟腦ニ等シク酸性反應ヲ呈シ揮發性ニ富ム</p> <p>三 比重ハ概ネ〇・九九以下ニシテ通常〇・九四—〇・九六ナリ</p> <p>四 殆ト水ニ溶解セサルモ「アルコール」、「エーテル」、揮發油、「テレピン」油等ニ溶解ス</p>	<p>一 無色透明、清澄ニシテ樟腦特有ノ強キ香氣ヲ有シ他ノ異臭ナキモノヲ良品トス</p> <p>二 比重ハ〇・九四以上ナルヲ要ス</p>			防蟲、防臭用等

第四十款 メニー

第四十二 「メニー」ノ性質、用途例及用法左ノ如シ

性	質	用途例	用法

鉛丹、白色「ペイント」、  
亞麻仁油若ハ單ニ鉛丹、  
亞麻仁油ノ合劑ニシテ赤  
褐色餅狀ノ粘著性大ナル  
物質ナリ

- 一 防水、防腐用、摺合部ノ點檢用等
- 二 鉛丹ト少量ノ白色「ペイント」トヲ混和シ之ニ亞麻仁油ヲ少量宛加ヘ槌ヲ以テ極メテ丁寧ニ之ヲ煉リ且蔽キ適當ノ餅狀ト爲スヘシ密合スヘキ部品相互間ノ填塞等ニ併用セントスルトキハ白色「ペイント」ヲ加ヘサル「メニー」ヲ前ト同法ニ依リ煉和シ亞麻仁油ヲ加ヘテ柔軟ナラシムヘシ
- 三 亞麻仁油ヲ練和スルノミニテハ速ニ乾固シ易ク使用困難ナルニ至ルコトアリ故ニ粘性保續ノ爲ニハ之ニ菜種油又ハ「スピンドル」油等ヲ混和シ使用スルヲ有利トス

第二節 塗料及顏料並樹脂

第四十三 塗料ハ物具ノ面ニ塗抹シ乾固セシメテ皮膜ヲ成形シ以テ大氣ノ交感ヲ防遏シ素地部ヲ保護シ且適當ノ色相ヲ附與スルモノニシテ其種類多ク「ペイント」、「ワニス」、「エナメルペイント」、漆液等アリ又特殊ノ用途ヲ有スルモノニ偽裝塗料、夜光塗料等アリ

第一款 ペイント

兵器保存用材料



其一通説

第四十四 「ペイント」ハ一般ニ「ペンキ」ト稱シ其主成分ハ顔料、展色劑(油類)、「ドライヤー」ニシテ此等ヲ混和練成シタルモノナリ之ヲ物具ノ表面ニ塗布スルトキハ若干時間後ニ乾固シ不透明ニシテ弾力性ヲ有スル硬キ膜ヲ成形ス

「ドライヤー」ハ主トシテ「マンガン」、「コバルト」ノ鹽類即チ礬酸「コバルト」、安息酸「コバルト」或ハ礬酸「マンガン」等ト乾燥性油トノ練合劑ニシテ原料ニ依リ色澤ヲ異ニスルモ灰白色ノ無味、殆ト無臭ノ堅練製ニシテ粘性少ク自己ノ乾燥度ハ速ナラサルモ「ペイント」等ニ配合スルトキハ其乾燥度ヲ増サシム

「ペイント」ニハ堅練「ペイント」ト調合「ペイント」トアリ

第四十五 堅練「ペイント」

堅練「ペイント」ハ調合「ペイント」ノ原料ニシテ各色彩ニ應スル顔料ヲ其色彩及品位ノ

程度ニ應シテ配合シ亞麻仁油若ハ荏油ヲ徐ニ加ヘテ捏和精練シ糊狀ト爲シタルモノナリ

第四十六 堅練「ペイント」ノ種類及配合原料ノ一例ヲ示セハ左ノ如シ

區分	原料	
	甲例	乙例
白色 「ペイント」	亞鉛華 精製亞麻仁油	亞鉛華 硫酸「バリウム」 精製亞麻仁油
白色 「ペイント」	鉛白 生亞麻仁油	鉛白 陶土 生亞麻仁油
黄色 「ペイント」	鉛白 陶土 煮亞麻仁油	鉛白 硫酸「バリウム」 煮亞麻仁油
綠色 「ペイント」	紺鉛青 石膏 煮亞麻仁油	紺鉛青 白 煮亞麻仁油
青色 「ペイント」	群青 陶土 煮亞麻仁油	群青 亞鉛華 煮亞麻仁油



褐色 「ベイント」	陶土 硫酸「バリウム」 油煙	「ベンガラ」	赤色 「ベイント」	洋朱 生亞麻仁油	「ベネシヤンレツド」 硫酸「バリウム」 生亞麻仁油 「コバルワニス」
「ベイント」	亞鉛 硫酸「バリウム」 煮亞麻仁油	「インヂアンレツド」 青煙 華	黒色 「ベイント」	白油 硫酸「バリウム」 煮亞麻仁油 「ワニス」	黒油 硫酸「バリウム」 煮亞麻仁油 「ワニス」
「藍」色 「ベイント」	紺青 硫酸「バリウム」 亞麻仁油	「錳」色 「ベイント」	「錳」色 「ベイント」	酸 硫酸「バリウム」 亞麻仁油	酸 硫酸「バリウム」 亞麻仁油

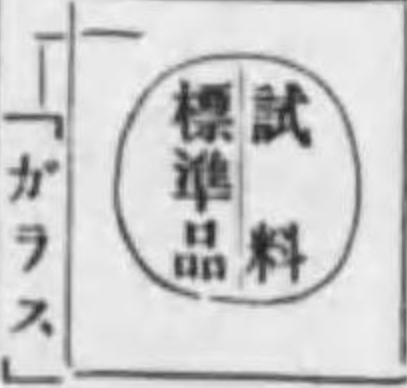
第四十七 調合「ベイント」

調合「ベイント」ハ堅練「ベイント」ニ「ドライヤー」、生亞麻仁油又ハ煮亞麻仁油及其他ノ補料ヲ加ヘ攪拌シツツ稀釋練合シ適度ノ粘度ト爲シタルモノニシテ其儘使用シ得尙

所望ノ色彩ヲ得ル爲堅練「ベイント」ノ一種若ハ數種ヲ混和練合シ更ニ要スレハ顔料ヲ配合スルモノトス

調合「ベイント」ヲ長時日間格納スルトキハ密度大ナル顔料ハ下層ニ沈澱シ上部ト下部トハ其色彩ヲ異ニシ再ヒ練合スルニアラサレハ使用スルコト能ハサルニ至ルヲ以テ先ツ堅練「ベイント」ト爲シ置クモノトス

第四十八 「ベイント」ノ一般的鑑別法左ノ如シ

區分	鑑別法
色彩	 <p>試料及標準品ノ一定量ニ各同量ノ亞麻仁油ヲ加ヘテ適宜ノ稠度ニ練合シタル後拭淨セル「ガラス」板上ニ圖ノ如ク相隣接塗抹シテ乾燥後其色彩ヲ比較ス</p>
著色度	<p>試料及標準品ノ一定量ニ各色「ベイント」ヲ一定量「白色」ベイントノ場合ニハ他ノ有色「ベイント」ヲ加ヘ練合シテ其色ノ濃淡ヲ比較ス若シテ試料ニシテ標準品ヨリ淡色「白色」ベイントノ場合ニ在リテハ濃色「ナルトキ」ハ試料ノ著色度標準品ニ劣ルモノトス</p>



被覆(展伸)度	細微度	乾燥度
<p>一 試料及標準品ノ一定量ニ同量ノ亞麻仁油ヲ加ヘテ練合シ「ガラス」板上ニ各同一面積ヲ平等ニ塗抹シ其色白色又ハ淡色ノ場合ハ黑色磁製板、黑色又ハ濃厚色ノ場合ハ白色磁製板上ニ並列シ其下地色ノ隠レ方ノ程度ヲ比較ス</p> <p>二 若シ試料カ標準品ニ比シ隠レ方大ナルトキハ試料ヲ更ニ塗リ擴ゲ同一ノ程度ニ至ラシムルモノトス然ルトキハ被覆度ノ大小ハ其面積ニ比例スルヲ以テ之ヲ數字ニテ表ハシ得</p>	<p>一 粗粒ノ顔料ヨリ成ル「ペイント」ハ被覆性小ナルハ勿論塗面ノ光澤尠ク且耐久力ヲ著シク減少スルモノナリ</p> <p>二 試料ニ若干ノ亞麻仁油ヲ加ヘ適當ナル稠度トシ「ガラス」板ニ薄ク塗り顯微鏡ヲ以テ標準品ト比較セハ最モ完全ナリ若此等ノ裝置ヲ有セサル場合ニハ注意シテ指頭ニテ「ガラス」板面ニ塗抹シ其感覺ニ依リテ粗密ヲ知ルコトヲ得</p>	<p>一 「ペイント」ノ乾燥度ヲ檢スルニハ先ツ試料ヲ適當ノ稠度ト爲シ清潔ナル「ガラス」板或ハ金屬板上ニ其素地ヲ覆フ程度ニ塗抹シテ室内ニ放置シ輕ク指頭ヲ觸レテ全ク粘著セサルニ至ルマテノ時間ヲ檢スルモノトス</p> <p>二 乾燥時間ハ其品質、氣候、溫度ニ依リテ異ナルヲ以テ其標準ヲ示スコト困難ナルモ通常一八—二四時間位ノモノヲ良トス</p>

乾燥膜ノ硬度	乾燥膜ノ耐水度
<p>一 乾燥ノ試験ニ用ヒタルモノヲ約一週間其儘ニ放置シ筈等ニテ之ヲ撮取り其硬度ヲ比較ス</p> <p>二 乾燥時間ノ長短ハ作業ニ著シキ關係ヲ有スルヲ以テ緊要ナル條件ナリト雖之ヲ練合スル際用フル亞麻仁油並乾燥劑ノ使用量ニ依リテ之ヲ左右シ得ルノミナラス桐油ノ如キ乾燥性大ナルモノヲ使用スルトキハ他ニ魚油、大豆油ノ如キ乾燥性劣ルモノヲ混合スルモ比較的短時間ニテ乾燥シ得ルモノトス故ニ其品質ノ良否ヲ知ルニハ必ス乾燥膜ノ硬度ヲ檢査スルヲ要ス</p>	<p>試料及標準品ヲ乾燥セル適宜ノ木片ニ全部平等ニ塗抹シ十分乾燥セシメ之ヲ秤量シ次ニ水中ニ浸漬スルコト二、三週間ニシテ取り出シ表面ノ水分ヲ拭ヒ去リ秤量ス浸漬前ニ比シ重量ノ増加ハ吸水量ニシテ其量標準品ヨリ多キモノハ耐水度小ナリ</p>

其二 サビ止ペイント

第四十九 「サビ止ペイント」ハ鐵部ノ防錆用トシテ上塗塗料ノ下ニ塗抹スルモノニシテ

通常鉛丹ヲ亞麻仁油ニテ練リ之ニ若干ノ「ドライヤー」ヲ添加シタルモノナリ

第五十 鉛丹ヲ用フル「サビ止ペイント」ノ製法、性質、用途例及用法左ノ如シ

兵器保存用材料



製	法	性	質	用途例、用法
鉛丹ニ少量ノ生亞麻仁油ヲ加ヘ能ク槌打程和シ餅狀ト爲シ「ドライヤー」及生亞麻仁油ヲ逐次少量宛加ヘ更ニ練和ス然ル後摺鉢中ニ於テ徐々ニ生亞麻仁油ヲ加ヘツツ摺リ混セ塗抹シ得ル稠度ト爲シ要スレハ眞鍮篩若ハ綿布ニテ濾過ス其配合概ネ左ノ如シ	一 赤色ニシテ粘稠性ニ富ミ乾燥迅速、展伸力大ナリ 二 質緻密ニシテ附著性大ナルヲ以テ防錆ニ適ス	一 鐵部ノ防錆用トシテ上塗塗料ノ下塗、長期格納ニ際シ、穀帽ノ内部底面、輻重車ノ車軸軸臂部及軸轄等ノ防錆用等 二 調製セシモノヲ永ク格納スルトキハ鉛丹ハ沈澱固結スルヲ以テ必要ニ際シ調製スルヲ可トス		

其三 上塗塗料

第五十一 上塗塗料ハ一般ニハ調合「ペイント」、「ワニス」類、漆液、「エナメルペイン

ト」等ヲ總稱スルコトアルモ陸軍ニ於テハ調合「ペイント」ノミヲ稱呼ス

第五十二 上塗塗料ノ一般性質左ノ如シ

- 一 顔料ハ凡テ礦物性ノ鹽類ニシテ水ニ溶解セス溶劑ノ酸化作用ニ因リ乾固ス
  - 二 通常一八—三〇時間ニテ乾燥ス
  - 三 乾燥スルニ從ヒ表面ニ皮膜ヲ成形ス此皮膜ハ附著力及耐久力大ナリ
- 第五十三 上塗塗料ノ種類、製法、用途例及用法左ノ如シ

種類	製	法	用途例、用法
茶 褐 色	一 「ベンガラ」及油煙ヲ少量ノ煮亞麻仁油ト共ニ能ク練合シ之ニ逐次乾燥劑、黃色「ペイント」、藍色「ペイント」等ヲ加ヘテ練合シ更ニ煮亞麻仁油ノ適量ヲ加ヘ攪拌シタル後「ペイント」濾過器若ハ白木綿ニテ濾過シテ殘餘ノ煮亞麻仁油、乾燥劑、「ゴールドサイズ」等ヲ加ヘ能ク攪拌ス 二 配合比ハ原料ノ種類及品質ニ依リ異ナルモノトス而シテ塗料ノ調製ニ方リテハ色相及光澤ヲ色相見本ニ合致セシムル如	一 火砲及車輛、架橋器材、各種駄鞍等 二 刷毛ニテ塗抹シ若ハ塗料噴射機ヲ用ヒテ吹附ケテ行	

兵器保存用材料

五五



色 トニイ	白 トニイ	黒色 トニイ	黄色 トニイ
<p>クスルモノトス</p> <p>三 配合原料ノ一例ヲ示セハ左ノ如シ          銜色「ベイント」          銜色「ベイント」          黄色「ベイント」          「バテントドライヤー」          「ターペンチン」          黒色「ベイント」          「ゴールドサイズ」          「一〇〇%ペンゾール」</p>	<p>茶褐色「ベイント」ニ準ス但配合比ハ原料ノ種類及品質ニ依リ異ナルモノトス砲彈用塗料ハ彈藥取扱細則ニ依ル</p>	<p>一 堅練黒色「ベイント」及「ドライヤー」ニ「ゴールドサイズ」ヲ能ク混和シ次ニ煮亞麻仁油及「テレピン」油ヲ加ヘ攪拌シタル後濾過シ滓渣ヲ除去ス</p> <p>二 配合比ハ原料ノ種類及品質ニ依リ異ナルモノトス砲彈用塗料ハ彈藥取扱細則ニ依ル</p>	<p>一般ニハ堅練黄色「ベイント」ニ「ドライヤー」及少量ノ煮亞麻仁油ヲ加ヘテ練合シ漸次煮亞麻仁油及「ゴールドサイズ」ヲ加ヘ稀釋濾過シテ適度ノ調合塗料ト爲ス</p>
<p>要スレハ「テレピン」油ヲ加ヘテ稀釋ス</p>	<p>標識、記號用等</p>	<p>各種工具ノ鐵部等</p>	<p>各色彩ヲ要スル兵器ノ上塗並標識等</p>

五六

赤 トニイ	錆 トニイ	緑 トニイ	鼠 トニイ
<p>一般ニハ朱、「ドライヤー」、「コバルワニス」及煮亞麻仁油ヲ配合調製ス</p>	<p>黄色塗料調製ニ準シ堅練錆色「ベイント」、「ドライヤー」、「ゴールドサイズ」及煮亞麻仁油ヲ配合シ所望ノ錆色塗料ヲ調製ス</p>	<p>黄色塗料調製ニ準シ堅練黄色「ベイント」、堅練藍色若ハ堅練綠色「ベイント」、「ドライヤー」、「ゴールドサイズ」及煮亞麻仁油ヲ配合調製ス</p>	<p>白色「ベイント」、堅練黒色「ベイント」、堅練藍色「ベイント」、「ゴールドサイズ」及煮亞麻仁油ヲ配合調製ス</p>

其四 偽裝塗料

第五十四 偽裝塗料ノ性質、用途例及用法左ノ如シ

兵器保存用材料

五七



性	質	用途例、用法
偽裝塗料ニハ深緑、緑、「カーキ」、枯草色、黄土及褐色ノ六種アリテ左ノ如キ性能ヲ具備ス 一 耐火性ヲ有シ其成分中ニハ燃燒ヲ助長スル如キ配合劑ヲ含有セサルコト 二 耐水性ヲ有シ雨雪ニ曝露スルモ能ク之ニ耐ヘ且防錆及防腐力ニ富ムコト 三 乾燥迅速、固著強靱ニシテ容易ニ剝脱セサルコト 四 色相ハ目視並普通寫眞ニハ勿論赤外線寫眞ニ對シテモ特異ノ狀況ヲ呈スルコトナク偽裝ノ目的ニ適スルコト 五 普通「ベイント」類ノ如ク光澤ヲ發スルコトナク且容易ニ褪色セサルコト		一 火砲、戰車、自動車等ノ偽裝用、偽裝網、布片等偽裝用材料塗抹用等 二 本塗料ヲ使用スルニハ之ヲ塗料噴射機ノ塗料槽中ニ容レ噴射塗布ス若塗料噴射機ヲ用ヒ得サルトキハ刷毛ヲ以テ塗抹スルコトヲ得

第二款 ワニス

其一通説

第五十五 「ワニス」ハ乾性油或ハ揮發性溶劑ニ樹脂、合成樹脂、「ニトロセルローズ」及

「アスファルト」等ヲ溶解シタル溶液ノ總稱ニシテ物具ノ表面ニ塗布シ大氣ノ交感ヲ防護シ兼ネテ所望ノ色相ヲ附與スルモノトス

「ワニス」ニ緊要ナル性質ハ塗抹シタルトキ乾燥後美麗ニシテ光澤アル被覆物ヲ作り且強靱ニシテ展性ヲ有シ温度ノ變化ニ遭フモ龜裂等ヲ生セサルコトナリ

第五十六 「ワニス」ノ原料ニハ「コバル」、「サンダラック」、「セラック」、「マスチックス」、「琥珀、松脂、其他ノ樹脂」、「ニトロセルローズ」、「ベークライト」、「アスファルト」等ヲ使用シ溶劑ニハ亞麻仁油、「アルコール」、「テレピン」油、「エーテル」、「メタノール」、「アセトン」其他ノ乾燥油ヲ用ヒ著色劑ニハ藤黃(椎ノ木ヨリ採取スル樹脂ニシテ金屬用)、「オルレアン」(西印度、南米等ニ産スル一種ノ果實ヨリ採リタルモノ)、「キリン」(血(藤類ノ果實ヨリ採取スル深紅色)、其他「タール」性色素ヲ使用ス

其二 油ワニス

兵器保存材料用



第五十七 油「ワニス」ノ製法、性質、鑑別法及用例左ノ如シ

六〇

製法	性質	鑑別法	用途例
<p>一 亞麻仁油、桐油等ノ如キ乾性油ニ「ドライヤール」(通常醋酸鉛、硼酸「マンガン」ヲ混和シ(時トシテハ混和セス)徐ニ煮沸シテ液面ニ薄膜ヲ生スルヲ度トシテ火ヲ去リ暫時靜置ス</p> <p>二 次ニ別器ニテ融解シタル琥珀、「コバル」、「セラツク」等ノ如キ樹脂ヲ前項ノ液ニ加ヘ更ニ煮沸シテ二液ヲ混合ス</p> <p>三 此際絶ヘス攪拌シテ粘著凝固セシメサル如クス斯クシテ濃厚ナル膠狀液トナルニ至ラハ放置冷却シ後更ニ「テレピン」油ノ適量ヲ加ヘテ稀釋シ布ヲ以テ濾過ス樹脂ト油トノ割合ハ種類ニ依リテ異ナルモ通常樹脂一分ニ對シ油二—三分トス</p> <p>四 油「ワニス」ヲ例示スレハ左ノ如シ</p>	<p>一 物具ニ塗布スレハ乾燥後堅固ナル皮膜ヲ成形シ熱及濕氣ニ抵抗スル力強ク褪色、龜裂、剝脫ノ缺點少シ</p> <p>二 「アルコ」ニ比シ乾燥遲シルニ從ヒ其品位ヲ高メ色相、乾燥度等殊ニ良好トナ</p>	<p>一 色ハ鮮明ナルヲ可トス</p> <p>二 固有ノ臭氣ヲ有シ著シキ異臭ヲ放ツヘカラス</p> <p>三 透明ニシテ燭セサルヲ可トス透明ナラサルモノハ異物ヲ存スル徵ナリ</p> <p>四 「ガラス」板上ニ薄ク塗抹シ七—一〇時間ニシテ塵埃ノ附着セサル程度トナリ二四時間以內ニシテ全ク乾燥</p>	<p>彈丸(主トシテ外部)、其他諸金屬及木部等ノ塗裝、「コバル」ワニス、「ゴールド」サイズ、「ベイン」等製造ノ媒劑等</p>

種	配	合	劑
「ワニス」ノ類	「コバル」	煮亞麻仁	「テレピン」油
「ニス」	「コバル」	油	
「黒ワニス」	「アスフ	同	右同
「アルト」	同	右同	右
「ゴールド	「ゴミ	同	右同
「サイズ」	「ニム	同	右

ルノ特性ヲ有スルヲ以テ格納スルコト數年ニ互ルモノアリ

四 引火點ハ通常三〇度以上ナリ

五 スルニ至ルヲ標準トス

乾燥後三日ニシテ色彩ヲ變セサルモノヲ良トス光澤ヲ失シモノハ不良品ナリ

六 硬度ヲ知ルニハ標準品ヲ試料トシテ同方法ヲ以テ塗抹シ又ハ針ヲ塗抹シ面ニ當テ移動シ痕ノ模傷及景況ニ依リ判斷ス

七 弾性ヲ檢スルニハ薄キ金屬板ニ塗抹シ乾燥後板ヲ屈曲スルモ剥離シ生ズルモノヲ良品トス



其三 セラツクワニス

第五十八 「セラツクワニス」ノ製法、性質、用途例及用法左ノ如シ

製	法	性	質	用途例、用法
<p>一 「セラツクワニス」ハ「アルコール」一立ニ對シ「セラツク」ニ〇〇—一〇〇〇瓦ノ割合ニテ之ヲ罐ニ容レ密栓シ時々振盪シテ全ク溶解セシム「セラツク」ノ量ハ用途ニ依リ適當ナル濃度ヲ得ル如ク配合ス</p> <p>二 急速ヲ要スル場合ニハ低溫度ニ溫メ溶解セシム</p> <p>但過度ノ熱ヲ用フヘカラス又黃色ヲ望ムトキハ少量ノ「オーラミン」ヲ添加ス</p>		<p>一 淡黃褐色ノ粘稠ナル液體ニシテ乾燥極メテ迅速ナリ</p> <p>二 光澤美麗ナルモ硬度ハ油「ワニス」ニ比シ劣リ且龜裂ヲ生シ剝脫シ易キ缺點アリ</p>		<p>一 藥莢、保彈板、信管類、其他ノ銅、黃銅製品又ハ眼鏡匣、象限儀匣、炸藥ノ被包等ノ塗抹用、電氣絶緣用等</p> <p>二 乾燥速ナルヲ以テ使用ノ際ハ適宜ノ稠度ト爲シ二回乃至數回ニ塗抹シ一般ニ濃厚ナラサルモノヲ用フルヲ可トス</p>

其四 アスファルトワニス

第五十九 「アスファルトワニス」ノ製法、性質及用途例左ノ如シ

製	法	性	質	用途例																			
<p>微溫ニ依リ「アスファルト」ヲ「コールタール」若ハ「テレピン」油ヲ以テ溶解シ左ノ如キ配劑ヲ追加シテ所望ノ濃度ト爲ス</p> <table border="1" data-bbox="756 486 1073 1129"> <thead> <tr> <th>名</th> <th>稱</th> <th>配合比 (重量)%</th> <th>摘</th> <th>要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「アスファルト」</td> <td></td> <td>一九・〇</td> <td rowspan="4">氣溫ノ高低及用途ニ應シ適宜變更スルコトヲ得</td> <td rowspan="4"></td> </tr> <tr> <td>「セラツク」</td> <td></td> <td>四・〇</td> </tr> <tr> <td>「コールタール」</td> <td></td> <td>七五・〇</td> </tr> <tr> <td>「テレピン」油</td> <td></td> <td>二・〇</td> </tr> </tbody> </table>	名	稱	配合比 (重量)%	摘	要	「アスファルト」		一九・〇	氣溫ノ高低及用途ニ應シ適宜變更スルコトヲ得		「セラツク」		四・〇	「コールタール」		七五・〇	「テレピン」油		二・〇		<p>一 「アルコールワニス」ニ比シ皮膜強靱ニシテ耐久性優ル</p> <p>二 「アスファルトワニス」ハ黑色粘稠ノ溶液ニシテ「アルコールワニス」ニ比シ乾燥遅シ</p>		<p>露天ニ曝ス金屬部及工具類ノ鐵ノ素地部等ノ塗料用等</p>
名	稱	配合比 (重量)%	摘	要																			
「アスファルト」		一九・〇	氣溫ノ高低及用途ニ應シ適宜變更スルコトヲ得																				
「セラツク」		四・〇																					
「コールタール」		七五・〇																					
「テレピン」油		二・〇																					



其五 ニトロセルローズワニス

第六十 「ペイント」ノ乾燥性ニ對スル缺點ト「ワニス」、「エナメルペイント」ノ皮膜ノ彈性及耐久性ニ對スル缺點トヲ除去シ乾燥速ニシテ尙且強靱、耐久力ニ富ム塗料トシテ近時盛ニ自動車ノ塗裝等ニ使用セララル一種ノ「ワニス」ニシテ「バイロキシリン・ラツカー」又ハ單ニ「ラツカー」ト稱シ「ニトロセルローズ」ヲ主成分トスル塗料ナリ

第六十一 「ニトロセルローズワニス」ノ性質及用途例左ノ如シ

性	質	用途例
一 從來ノ「ワニス」又ハ「エナメルペイント」ノ用途ニ適當スルモノハ「ニトロセルローズ」ヲ各種ノ溶劑（「エチルラクテート」、「ブチルアセテート」、「エチルアセテート」、「トルオール」等）ニ溶解シ之ニ皮膜ノ柔軟性ヲ増ス爲可塑劑トシテ「ヒマシ」油等ヲ加ヘタルモノナリ		自動車車體ノ塗裝用、木製品ノ透明塗料、溶劑、顏料、染料及其他ノ混合物ヲ適宜ニ配合シ金屬、木材ノ下塗用、其他「パテ」製造用等
二 乾燥迅速ニシテ約一時間ニテ足ル		

- 三 乾燥皮膜ハ強靱ニシテ耐久力強シ
- 四 油「ワニス」ノ如ク濕氣ノ爲ニ粘著性ヲ帶フルコトナシ
- 五 水、酸、「アルカリ」、「アルコール」及油ニ對スル抵抗大ナリ
- 六 一種ノ臭氣ヲ有スル缺點アリ但溶劑揮發セハ此臭氣ハ消滅ス

其六 ベークライトワニス

第六十二 「ベークライトワニス」ノ性質及用途例左ノ如シ

性	質	用途例
一 石炭酸ト「ホルマリン」トノ合成物ニシテ通常飴狀ヲ呈ス		防毒面吸收罐及各種「ガス」彈内部塗料、電氣絶緣用、耐熱、耐水、耐濕用塗料等
二 溶解性及熔融性ヲ有スルモ塗布後加熱スレハ漸次此等ノ性質ヲ失ヒ遂ニハ水、油、稀薄酸、有機溶劑等ニ侵サレサル頑強ナル物質トナリ電氣的絶緣性及耐熱性ニ富ム		

第三款 エナメルペイント

兵器保存用材料



第六十三 「エナメルペイント」ハ顔料ト「ワニス」トヲ練合シタルモノナリ

「エナメル」ト稱スルハ金屬若ハ陶器ノ表面ニ熔融被覆スル透明、半透明若ハ不透明ノ珪瑯質又ハ此等ニ各種ノ金屬酸化物ヲ熔融シテ種々ノ色澤ヲ帶ハシメタル一種ノ洶藥(釉藥)ニ附セラレタル名稱ナリ「エナメルペイント」ト混同スヘカラス

第六十四 「エナメルペイント」ノ製法、性質、鑑別法、用途例及用法左ノ如シ

製法	性質	鑑別法	用途例、用法
<p>一 顔料ヲ油「ワニス」又ハ「アルコールワニス」ト練合シ之ニ要スレハ煮亞麻仁油又ハ「テレピン」油ヲ加ヘ適度ノ粘度ト爲ス 又顔料ヲ煮亞麻仁油ト練合シ「ワニス」ヲ</p>	<p>一 塗布後乾燥膜ハ薄ク粘著性ニ富ミ液ニ似タル美麗ナル光澤ト「ワニス」ニ似タル香氣トヲ有ス 二 乾燥速ニシテ焼付ヲモ爲シ得ヘシ高温硬化法ヲ施シタル乾燥膜ハ僅少ノ接衝摩擦ニテハ剝脱缺損セス又蠟番摩擦部ニ塗布スル脂油ノ爲溶解スル</p>	<p>「ワニス」類ニ準ス</p>	<p>一 金屬ノ防錆、木材ノ防腐用、小被覆線、「エナメルペイント」銅線用等 二 通常下塗ニ「ペイント」ヲ用ヒ上塗ニ「エナメルペイント」ヲ用フ之單ニ經劑上有利ナルノミナラス</p>

其結果モ亦單獨使用ニ比シ頗ル良好ナルニ依ル

以テ稀釋シ製スルコトアリ  
二 白色、黒色、黄色、紺色、赤色等各種ノ「エナメルペイント」ヲ調製スルヲ得又白、黒、黄、紺色「エナメルペイント」ヲ適度ニ合劑スレハ空色「エナメルペイント」ヲ得

三 コトナシ  
製造後長時日ヲ經過セハ濃稠トナリ他ノ「ワニス」又ハ「テレピン」油ヲ以テ緩和スルモ濃淡ノ度一定セス其固有性ニ復セシムルコト困難ナリ又色彩顔料ノ被覆性ヲ減スル缺點アリ  
四 新製品ト雖「ペイント」ノ如ク流暢ナラス且色彩ノ度薄キヲ以テ數回塗粧セサレハ所望ノ色相ヲ得難シ

### 第四款 漆液

第六十五 漆液ノ製法、性質、鑑別法、用途例及用法左ノ如シ

製法	性質	鑑別法	用途例、用法
<p>一 漆液ハ通常六月中</p>	<p>一 大氣中ニテ褐色</p>	<p>一 製漆ハ著シク粘</p>	<p>一 銃床、箱類等木製</p>

兵器保存用材料



旬ヨリ十一月中旬ニ互リ漆樹ノ幹部ヨリ搔取セル灰白色ノ乳状液ニシテ之ヲ生漆ト謂フ  
 盛夏ノ候採取セルモノ最モ上等ナリ  
 二 生漆ハ下地及摺漆用ニ適スルモ塗抹面ニ澤不良ニシテ刷毛目ヲ生スルヲ以テ之ヲ精製スル必要アリ  
 三 精製スルニハ適量ノ生漆ヲ製漆機(盪形ノモノ多シ)ニ容レ攪拌シ四五度内外ノ熱ヲ與ヘテ水分ヲ蒸發セシム此操作ヲくろめト謂ヒ精製品

ノ粘液トナリ水分、油分、「ゴム」質、含窒素質及「ウルシオール」ヨリ成ル  
 二 濕潤ナル大氣中ニ於テ能ク乾燥シ堅牢美麗ニシテ空氣、濕氣ヲ透過セサル皮膜ヲ生成スル皮膜ハ酸及「アルカリ」類ニ對スル抵抗極メテ大ニシテ乾性油及「ワニス」類ニ比シ甚ク優良ナリ  
 三 赤、綠、黃、黒色等種々ノ顔料ヲ配合スレハ各種色彩ヲ呈シ且「グリ

稠ナラス「ガラス」板ニ塗布シ塗膚滑カニ光澤良好ナルモノヲ可トシ透漆ハ乾燥塗面ノ著色淡キモノヲ可トシ黒漆ハ不透明ナルヲ良トス  
 二 「ガラス」板ニ塗布後濕度八〇%以上溫度二〇度内外ノ空氣中ニ於テ生漆ハ通常五―六時間、製漆ハ一二時間以内ニテ乾燥スルヲ良品トス  
 三 漆液ハ槽内ニ於ケル位置ニ依リ品質ニ差異アリ故ニ成ルヘク深キ容器

品ノ塗粧、燒漆トシテ彈丸内部、油壺及乘馬具鞍骨ノ鐵具等ノ塗抹用等  
 二 漆液ノ塗抹法ニ普通塗及燒漆塗ノ二法アリテ「ベイント」、「ワニス」、「エナメル」、「ベイント」等ニ比シ塗抹ニ伎倆ヲ要ス  
 普通塗ハ被塗品ノ油氣ヲ除去シタル後地塗、中塗及上塗ノ諸工程ヲ要シ其乾燥ハ濕氣多キ場所ヲ適當トス  
 燒漆塗ハ高溫硬化法(燒附法)ヲ行フ或ハ兩法ヲ混用スルコトアリ

ヲくろめ漆ト稱ス之ニ用途ニ應シテ鐵粉、雌黃、樹脂、荳油等ヲ混和ス斯ク精製加工セルモノヲ俗稱シテ製漆ト謂フ  
 四 搔取ノ位置ニ依リ邊漆、裏目漆、留漆等ニ區分シ枝條ヨリ搔集セルモノヲ枝漆(一名せしめ漆)ト謂フ邊漆最モ上等ナリ  
 五 市井ニ販賣スルモノハ種類多キモ大別シテ透漆ト黒漆ト爲ス前者ハ透明ニシテ素地ヲ示シ後者ハ不透明ニシテ素地ヲ示サス

セリン」等ニ依リテ其乾燥ヲ促進スルコトヲ得但白色ハ得難カリシモ酸化「チタン」ニ依リテ相當ニ白キモノヲ得ルニ至レリ

ニ容レ數日後下層ヨリ試料ヲ抽出シ檢査スルヲ可トス

三 漆液ヲ靜置スレハ其下層ニ不良部分ヲ沈降スルヲ以テ使用ノ際ハ攪拌スルコトナク上層ヨリ逐次使用スルヲ要ス又漆液ハ一種ノ毒性ヲ有シ漆かぶれヲ生スルコトアルヲ以テ取扱ノ際ハ荳油若ハ菜種油ヲ手指ニ塗ルヲ可トス若カぶれタル場合ハ局部ヲ石炭酸又ハ蟹液ニテ洗ヒ成ルヘク搔カサルコトニ注意スヘシ



第五款 夜光塗料

第六十六 廣ク夜光塗料ト稱スルモノノ中ニハ狹義ノ夜光塗料ト發光塗料ノ二種類アル  
モ兵器ニ使用セラルルモノハ後者ニ屬ス狹義ノ夜光塗料ハ光線ノ蓄積作用ヲ有シ光線  
ヲ吸收シタル後一定時間ヲ限リ蓄積光線ヲ放射スルモノニシテ全然「ラヂウム」ヲ含有  
セサルモ發光塗料ハ「ラヂウム」ヲ含有シ不斷發光スル如ク製セルモノナリ以下述フル  
夜光塗料ハ發光塗料ヲ意味ス

第六十七 夜光塗料ハ發光劑粉末及發光塗料用展色劑ヨリ成ル  
發光劑粉末ハ製作時ニ於ケル温度、處方等ニ依リ差異ヲ生シ其結晶ハ凝集スルコトナ  
ク大サ均等ニシテ微細ナルモノ良好ナリ、發光色ニ依リ概ネ次ノ三種ニ區分シ得ルモ  
ノニシテ機械的ニ發光強度ヲ比較スル場合ニアリテハ同號ノモノニ限リ異號ノモノ相  
互ノ比較ヲ避クヘシ

- 第一號 橙黃色乃至黃色
- 第二號 黃綠色乃至綠色

第三號 藍色乃至藍綠色

展色劑ハ無色ノ樹脂ヲ「アルコール」、「エーテル」等ノ溶劑ニ溶解セルモノヲ精製脫色  
セル脂肪油ト混シタルモノナリ

第六十八 夜光塗料ノ性質及用途例左ノ如シ

性	質	用 途 例
一 淡黃色乃至黃綠色粉末ヲ透明ノ展色劑ニテ練合セタルモノニ シテ發光色ハ橙黃色乃至藍紫色ノ廣範圍ニ互リ概ネ三種ニ區分 セラレ又發光度ノ差ニ依リ甲、乙、二種ニ區分ス		九二式重機關銃眼鏡照準 具體夜光板、八九式旋回 機關銃照星等、九三式夜 光歩度計、各種羅針盤
二 普通塗料ニ比シ抗力弱ク水、空氣等ノ影響ヲ受ケ易シ		
三 熱湯、一〇〇度以上ノ氣温ニ遭遇スルト著シク耐久力ヲ減ス		
四 直射日光、水銀燈等ニテ永ク刺戟スルトキハ耐久力ヲ減ス		
五 摩擦ニ對シテ弱シ		

第六款 顏料

第六十九 顏料ハ各種ノ塗料、印刷用「インキ」、繪具等ニ一定ノ色ヲ附與スル目的ヲ以

兵器保存用材料



テ使用スルモノニシテ多クハ鑛物質ナルモ往々有機質ノモノアリ  
顔料ハ色彩鮮明、耐久性及被覆性ニ富ミ濃酸類ヲ除ク外水、「アルコール」、「テレピン」  
油等ノ溶劑ニ溶クルコトナク且之ト混合スヘキ他ノ物體ニ對シテ何等ノ作用ヲモ起サ  
サルモノナルヲ要ス

其一 白色顔料

第七十 白色顔料ハ各種顔料中最モ重要ナルモノニシテ他ノ顔料ニ在リテハ其保有スル  
色彩ノミヲ目的トシテ使用スルモ白色顔料ハ色彩ノ外尙各種塗料ノ體質トシテ使用ス  
體質トハ他ノ顔料ノ増量、延ヒ並色ノ調節等ノ目的ニ使用スル顔料ヲ謂フ

第七十一 白色顔料ノ組成ハ無機質ニシテ一般ニ使用セラルルモノハ鉛白、硫酸鉛、亞  
鉛華、硫化亞鉛、硫酸「バリウム」、炭酸「バリウム」、石膏、炭酸石灰、生石灰、硫酸「ストロ  
ンチウム」、炭酸「マグネシア」、陶土、白堊等ノ單獨又ハ二種以上ヲ混合セルモノナリ  
第七十二 白色顔料中主ナルモノノ性質及用途例左ノ如シ

區分	性質	質	用途例
鉛白	一 重キ白粉ニシテ他ノ顔料ニ比シ固著力強ク比重約六・四七ナリ 二 日光及空氣ニ永ク曝露スルモ變化セサレトモ硫化水素、亞硫酸「ガス」及其他硫黃「ガス」ニ遭ヘハ硫化鉛トナリ黑色ニ變ス 三 鉛白ハ鹽基性炭酸鉛ニシテ其組成ハ炭酸鉛及水酸化鉛ナルヲ以テ人體ニ有害ナリ 四 組成分中ノ炭酸鉛ハ顔料トシテ色及體質ヲ與ヘ水酸化鉛ハ油ノ一部ト化合シテ被覆性ヲ強大ニス而シテ炭酸鉛ノ量多キトキハ被覆性ヲ減シ又水酸化鉛ノ量増加スルトキハ顔料ノ體質及不透明度ヲ減少ス		「ペイント」ノ顔料等
亞鉛華	一 微細ノ白色粉末ニシテ比重約五・六ヲ有シ硫黃「ガス」ニ遭フモ變化セス且人體ニ有害ナラス 二 水、「アルコール」、油類等ニハ溶解セサルモ酸類ニハ溶解ス 三 空氣、日光ノ作用ニ耐ヘ變色ノ憂ナク且何レノ顔料トモ配合スルコトヲ得ルモ被覆性十分ナラサル缺點アリ		「ペイント」ノ顔料等



硫酸 「バリウム」	硫酸 鉛
<p>一 重晶石トシテ天然ニ多量産出シ又ハ「バリウム」鹽類ノ溶液ニ硫酸若ハ硫酸鹽類ヲ加ヘテ得ラルルモノニシテ重キ微細ノ粉末ナリ</p> <p>二 比重四・五〇—四・七五ニシテ如何ニ細微ノモノト雖多少結晶性ヲ有ス</p> <p>三 酸及「アルカリ」ニ溶解セス且外氣ノ作用ニ耐ヘ白色顔料中最モ堅牢ナリ其被覆性ハ鉛白及陶土ニ比シ稍、劣ルモ亞鉛華ニ優リ又油ト能ク混和シテ良好ノ塗料ヲ製スルコトヲ得</p>	<p>一 通常醋酸鉛又ハ硝酸鉛ノ溶液ニ硫酸ヲ注加シテ製スルモノニシテ結晶性ヲ有スル重キ白色粉末ナリ</p> <p>二 比重約六・三ナリ水ニ溶解スルコト少ク鉛白ニ比スレハ其質堅牢ニシテ又有毒ナラサルヲ以テ之ヲ含有スル白色顔料ハ往々無毒鉛白トシテ販賣セラル</p> <p>三 稀鹽酸並「アルコール」ニハ溶解セサルモ醋酸「アンモン」ノ水溶液及濃硫酸ニ溶解ス</p> <p>四 結晶性ヲ有スル爲被覆性ヲ減シ且刷毛ニテ塗布スルニ方リ條痕ヲ殘ス等ノ缺點アルモ能ク之ヲ磨碎スレハ此缺點ノ幾分ヲ補ヒ得ヘク又容易ニ硫化水素ニ侵サルルコトナク其色彩ハ鉛白ニ比シ稍、黄味ヲ帶ヒ殆ト硫酸「バリウム」ノ色彩ニ等シ</p>
<p>主トシテ「ベイント」ノ體質ニ使 用ス</p>	<p>「ベイント」 ノ顔料等</p>

石 膏	白 堇	陶 土
<p>一 硫酸「カルシウム」トシテ天然ニ産シ白色ニシテ稍、青味ヲ帶ヒ水及油ト能ク混和ス</p> <p>二 被覆性ハ鉛白ト亞鉛華ノ中間ニ位シ其質極メテ堅牢ニシテ日光及外氣ノ作用ニ耐ヘ且中性ナルヲ以テ他ノ顔料ト配合スルコトヲ得</p>	<p>一 炭酸「カルシウム」ニシテ通常白色土狀ノ固體ナリ</p> <p>二 純粹ノ水ニハ溶解セサルモ炭酸ヲ含有スル水ニ溶解シ又醋酸、鹽酸、硝酸等ニ溶解シテ同時ニ炭酸「ガス」ヲ放チ又硫酸ニ依リテモ炭酸「ガス」ヲ發生シテ不溶性ノ硫酸石灰ヲ生ス</p> <p>三 外氣ノ作用ニ耐ヘ頗ル堅牢ナル顔料ナリ</p>	<p>一 品質良好ナルモノハ純白色ノ微細ナル粉末ニシテ之ヲ指頭ニテ摩擦スレハ脂肪様ノ感覺ヲ與フ普通品ハ稍、滑カナラサルモ粗糙ノ感覺ヲ與フルコトナク且稍、黄色ヲ呈スルヲ以テ通常少量ノ群青ヲ加フ</p> <p>二 比重二・二ニシテ白色顔料中最モ輕シ</p> <p>三 水、稀薄酸類、「アルカリ」等ニ溶解セス</p> <p>四 大氣及光線ノ作用ニ耐ヘ其質極メテ堅牢ニシテ油ト混スレハ多少透明トナル</p>
<p>「ベイント」 ノ顔料等</p>	<p>「ベイント」 ノ顔料、「パ テ」ノ製造 用等</p>	<p>亞鉛華及鉛 白ト混シテ 「ベイント」 ノ顔料等</p>



其二 黄色顔料

第七十三 黄色顔料ハ有機性及無機性物質ヨリ製造セラレ種類多ク其主ナルモノハ「ク  
ロム」黄、黄土及「シーンナ」ニシテ其他ハ用途稀ナリ

第七十四 黄色顔料中主ナルモノノ性質及用途例左ノ如シ

區分	性	質	用途例
「クロム」黄	<ul style="list-style-type: none"> <li>一 「クロム」黄ニハ其種類多ク色彩モ亦種々ニシテ淡黄色ヨリ深黄、橙黄及赤色等アリ</li> <li>二 「クロム」黄ハ色澤美麗ニシテ被覆性强ク能ク熱、空氣及水等ノ作用ニ耐フ</li> <li>三 他ノ諸種ノ顔料ヲ配合シ得ルモ硫化水素其他ノ硫黄化合物ニ遭ヒ硫化鉛ヲ生シ黒變スルヲ以テ群青、「カドミウム」黄等ノ如キ硫黄ヲ含有スル顔料トハ混セサルヲ可トス</li> <li>四 強鹽基性顔料、石灰、硅酸「ソーダ」其他ノ「アルカリ」性物質ト混用セハ橙黄色ニ變ス</li> </ul>		「ベイント」ノ顔料等

黄土	<ul style="list-style-type: none"> <li>一 廣ク天然ニ産出スル水酸化鐵ヲ混有スル土質分ニシテ之ヲ水鏡シテ得ラルルモノナリ</li> <li>二 「クロム」黄ニ次キ多ク使用セラルルモノニシテ通常黄色ナルモ産地等ニ依リ帶黄褐色乃至赤褐色ヲ呈スルモノアリ</li> </ul>	「ベイント」ノ顔料等
「シーンナ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>一 天然ニ産スル土質分ニシテ水酸化鐵及酸化「マンガン」ヲ混用ス</li> <li>二 黄土ト共ニ「クロム」黄ニ次キ主要ナルモノニシテ通常帶褐黄色ヲ呈シ濃淡種々アリ</li> </ul>	「ベイント」ノ顔料等

其三 青色顔料

第七十五 青色顔料ハ單獨若ハ配合シテ使用シ其性質他ノ顔料ニ比シ優ルモノアリト雖  
其種類比較的少ク僅ニ群青、「コバルト」青等アリ

第七十六 青色顔料ノ性質及用途例左ノ如シ



區分		性		質		用途例	
青	群	天然群青	一 天然ニ産スル青金石ヨリ得ラルルモノニシテ通常土質ト混溶シ線條又ハ散點狀ニテ存在スルヲ以テ之ヲ機械的方法ニ依リ分離精製ス 二 精製シタルモノハ粉狀ヲ爲シ其色澤美麗ニシテ堅牢ナリ	青	造	人造群青	一 人造群青ニハ淡綠青色ノ硫酸群青ト紫青色ノ「ソーダ」群青トアリ 二 硫酸群青ハ「ソーダ」群青ニ比シ能ク酸類及明礬ノ作用ニ耐フル性アリ 三 群青製造ニ用フル原料ハ陶土、硫酸「ソーダ」、硫黃、炭酸「ソーダ」、石炭(若ハ木炭)、石英、松脂及珪藻土等ニシテ群青ノ種類ト製造者ノ經驗ニ依リ選擇ヲ異ニス
		青	一 純青色ノ堅牢ナル顔料ニシテ左ノ如キ混合物ナリ			「ペイント」ノ顔料等	
礬	土	品	目	配合比(重量)%	水	礬	八・〇
							三・〇

青		「コバルト」	
		酸化「コバルト」	一五・〇
		「アルカリ」鹽類	一・〇
<p>二 空氣ニ曝セハ漸次其色相ヲ増スモ長時日ヲ經レハ綠色トナル又燈火ニ照セハ紫赤色ヲ呈シ酸及「アルカリ」ニ作用セラレス</p> <p>三 水ニ能ク溶解シ他ノ顔料ト配合スルモ變化セス強硫酸ト共ニ熱スレハ徐ニ分解シテ紫赤色ノ溶液トナリ白色ノ沈澱物ヲ生ス之ニ水ヲ加フレハ盡ク溶解シテ青色ノ溶液トナル</p>			

其四 赤色顔料

第七十七 赤色顔料ハ無機質又ハ有機質ヨリナリ其種類多キモ一般ニ使用セララルモノハ朱、鉛丹、「ベンガラ」及「アンチモン」朱等ナリ

第七十八 赤色顔料中主ナルモノノ性質、用途例及用法左ノ如シ



區分	性	質	用途例、用法
朱	<p>一 硫化第二水銀ニシテ水銀二〇〇、硫黃三二ヨリ成ル化合物ナリ</p> <p>二 光輝強キ深紅色ノ粉末ニシテ被覆性甚タ大ナリ水、「アルカリ」及酸類ニハ溶解セサルモ王水又ハ遊離鹽素ヲ發生スル他ノ物質ニハ容易ニ溶解シテ鹽化第二水銀ヲ生ス</p> <p>三 比重ハ約八・二ナリ</p> <p>四 重キ粉末ナルヲ以テ塗料トシテ使用スルニ方リ分離沈澱スル不利アリ又光線ニ對シテハ稍、耐久性ニ乏シ</p> <p>五 空氣中ニテ熱スレハ淡青色ノ火焰ヲ放チテ燃燒シ亞硫酸「ガス」及酸化水銀ヲ生シ殆ト殘滓ヲ留ムルコトナシ</p>	<p>一 鐵製品ノ「サビ止メベイント」、亞麻仁油ト混和シテ「サビ止ベイント」トシ又接合劑及「ドライヤー」ニ使用ス</p> <p>二 褐色塗料ヲ製スルニハ朱ニ亞麻仁油ヲ少量宛加ヘ練合ハセ一旦堅練製ト爲シ更ニ亞麻仁油、「ゴールドサイズ」、「ドライヤー」等ヲ加ヘ稀釋攪拌シテ濾過シ適度ノ塗料ト爲シテ使用ス</p>	<p>一 鐵製品ノ「サビ止メベイント」、亞麻仁油ト混和シテ「サビ止ベイント」トシ又接合劑及「ドライヤー」ニ使用ス</p> <p>二 褐色塗料ヲ製スルニハ朱ニ亞麻仁油ヲ少量宛加ヘ練合ハセ一旦堅練製ト爲シ更ニ亞麻仁油、「ゴールドサイズ」、「ドライヤー」等ヲ加ヘ稀釋攪拌シテ濾過シ適度ノ塗料ト爲シテ使用ス</p>

區分	性	質	用途例、用法
鉛丹	<p>一 主成分ハ四三酸化鉛ニシテ帶黃赤色ノ色彩ヲ有シ精製セルモノハ極メテ微細ノ粉末ニシテ深赤色ヲ呈ス</p> <p>二 比重ハ約八・五三ナリ</p> <p>三 亞麻仁油ト能ク混和シ該油ヲシテ迅速ニ乾燥セシムル作用ヲ有シ防錆力大ナリ</p> <p>四 熱スレハ暗褐赤色ニ變スルモ冷却スレハ原色ニ復ス</p> <p>五 被覆性並與色性共ニ大ナルヲ以テ比較的少量ニテ濃厚ナル色ヲ得ラル但硫化水素ニ依リ變色スルヲ以テ群青、「カドミウム」黃ノ如キ硫黃ヲ含有スル顏料ト共ニ配合使用スルコト能ハス</p>	<p>一 主成分ハ酸化第二鐵ニシテ赤鐵礦、褐鐵礦等ノ天然產或ハ人工原料ヲ用ヒ製造スルヲ以テ其色彩モ亦區々ニシテ淡赤色ヨリ暗紫色ニ至ル</p> <p>二 比重ハ約二・六一—三・一ナリ</p> <p>三 水ニ溶解セス酸類ニ多少溶解シ低熱ニテ製造セシモノハ強硫酸ニ溶解スルモ高熱ニテ製造シタル「インヂアン」赤ノ如キハ王水ヲ用フルニアラサレハ容易ニ溶解セス殊ニ紫色酸化第二鐵ノ如キハ硫酸、鹽酸及硝酸ノ混合液以外ニハ全ク溶解セス</p> <p>四 極メテ堅牢ニシテ他ノ顏料ト配合スルモ害ナシ然レトモ油ト混和スルコト並乾燥ノ程度ハ共ニ鉛丹ニ及ハス</p>	<p>一 褐色堅練「ベイント」ノ合劑等</p> <p>二 接合用ニハ鉛丹一〇〇分ニ煮亞麻仁油八一九分ノ割合ニ混シテ使用ス</p>

兵器保存用材料



「アンチモ ン」朱	一 組成ハ硫化「アンチモン」ニシテ製法ニ依テ橙赤色 若ハ深紅色ヲ有スル粉末ナリ 二 水又ハ油ト混和スレハ其色澤ヲ増進シ其質不透明 ナルヲ以テ被覆性強シ 三 石灰、炭酸「ソーダ」等ノ如キ「アルカリ」性ノモノ ト混和スレハ其色消褪ス 四 空氣及光線ノ作用ニテ變色セス且硫黄ノ作用ヲ受 ケサル各種ノ顔料ト配合スルコトヲ得	彈性「ゴム」ノ著色用等
--------------	--	-------------

其五 黑色顔料

第七十九 一般ニ黑色顔料トシテ使用スルモノハ炭素ヲ基トシテ造レルモノナリ炭素ハ  
 酸、「アルカリ」等ニ全ク作用セラルルコトナキヲ以テ黑色顔料ハ其質頗ル堅牢ニシテ  
 能ク久シキニ耐フルノミナラス他ノ顔料ト配合スルモ害ナシ

第八十 黑色顔料中主ナルモノノ性質及用途例左ノ如シ

區分	性質	用途例
油煙	一 油類、脂肪、樹脂又ハ天然「ガス」等ヲ不完全ニ燃 燒セシメテ製ス品質ハ原料ニ依リ多少ノ差異アルモ 脂肪油及獸脂ヲ以テ製シタルモノヲ最良トス其成分 ハ殆ト炭素ノミナルモ通常少量ノ水及灰分ヲ含有ス 二 微細ナル黑色ノ粉末ニシテ通常眞黒ナルモ時トシ テ少シク褐色ヲ帯フルモノアリ 被覆性、與色性共ニ強ク極メテ堅牢ナル顔料ナリ諸 物質特ニ水ト混和スルコト稍、困難ナルモ混和スレ ハ良好ナル塗料ヲ得但乾燥時間稍、遅ク油分ヲ含有 セルモノニ於テ特ニ然リトス	堅練「ペイント」、「黒色 「アルコールニス」、 黒色漆液又ハノ製造用 等
骨炭	一 獸骨ヲ「レトルト」又ハ坩堝ニテ灼熱シテ製スルモ ノニシテ灰黑色ノ微細ナル粉末ナリ 二 油煙ノ如キ光澤ヲ有セス水及油ト能ク混和シ其質 堅牢ナルモ油ト混シタルモノハ乾燥遅シ 三 骨炭ノ色彩ハ其含有スル炭素ノ性質及其他含有物 ノ量ニ依リ差異アリ	黒色「ペイント」、顔料 等



第七款 樹脂

其一 コバル

第八十一 「コバル」ノ性質及用途例左ノ如シ

性	質	用途例
一 化石狀ヲ爲シテ地下ニ埋没シ又ハ特殊植物ノ體中ニ存在シ主トシテ亞弗利加及南米地方ニ産ス 二 淡黄色若ハ褐色ノ固體ニシテ破面ハ貝殼狀ヲ爲シ化石狀ノモノハ堅硬ナルモ樹木ヨリ採取セルモノハ柔軟ナリ 三 比重ハ一・〇四—一・一四ナリ 四 一八〇—三三〇度ニ於テ熔融シ常溫ニ於テハ「アルコール」及揮發性油類ニ溶解セサルモ之ヲ加熱スレハ容易ニ溶解ス		「ワニス」ノ製造用等

其二 サンダラツク

第八十二 「サンダラツク」ノ性質及用途例左ノ如シ

性	質	用途例
一 亞弗利加ノ西北部ニ産スル樹木ノ皮ヨリ自然ニ滲出スルモノニシテ淡黄色ノ堅硬ナル脆キ固體ナリ臭味、外觀共ニ松脂ニ類似ス 二 比重ハ一・〇五—一・〇九ナリ 三 一〇〇度ニ於テ柔軟トナリ一三五度ニテ熔融シ熱シタル「アルコール」及其他ノ溶劑ニ溶解ス		「ワニス」ノ製造用等

其三 セラツク

第八十三 「セラツク」ノ性質及用途例左ノ如シ

性	質	用途例
一 熱帯植物ノ枝ニ棲息スル「ラツク」蟲カ樹皮ヲ刺衝シテ滲出スル樹脂ニシテ其儘ノモノヲ「ラツク」ト稱シ熱湯中ニ其色素ヲ塗		各種「ワニス」ノ製造用等

兵器保存用材料



<p>出シ後熔融シテ薄層ト爲シタルモノヲ「セラック」ト稱ス</p> <p>二 淡黄色又ハ赤褐色ノ透明體ニシテ精製シタルモノハ無色透明ナリ</p> <p>三 比重ハ一・一二内外ニシテ水ニハ溶解セサルモ普通ノ溶劑ニハ溶解ス</p> <p>四 七〇—二〇〇度ニ於テ熔融シ酸性分ヲ含ムコト少シ</p>	
--	--

其四 ロジン

第八十四 「ロジン」ノ性質及用途例左ノ如シ

性	質	用 途 例
<p>一 「テレピン」ヨリ「テレピン」油ヲ蒸溜シタル殘滓ニシテ淡黄色又ハ褐色半透明ノ破面貝殻狀ヲ爲ス脆キ固體ナリ</p> <p>二 比重ハ一・〇四—一・一〇ナリ</p> <p>三 八〇度ニテ柔軟トナリ九〇—一〇〇度ニテ熔融ス</p> <p>四 水ニハ溶解セサレトモ普通ノ溶劑ニハ溶解ス</p>		「ワニス」ノ製造用等

其五 琥珀

第八十五 琥珀ノ性質及用途例左ノ如シ

性	質	用 途 例
<p>一 化石狀樹脂ニシテ質堅硬淡黄色又ハ赤褐色ノ透明或ハ半透明ニシテ破面貝殻狀ヲ成ス</p> <p>二 比重ハ一・〇八ニシテ二八七—二九〇度ニシテ熔融ス尙強烈スレハ分解シ快臭ヲ放チテ燃燒ス</p> <p>三 常溫ニ於テハ普通ノ溶劑ニ溶解セサレトモ加熱スレハ「アルコール」「テレピン」油ニ溶解シ又亞麻仁油ト共ニ加熱スルモ溶解ス</p>		「ワニス」ノ製造用等

第三節 藥品類

本節ニ於テ劇毒藥ハ㊦、危險藥品ハ㊧ヲ以テ之ヲ示ス

兵器保存用材料



第一款 炭酸ソーダ

第八十六 炭酸「ソーダ」ノ性質、鑑別法、用途例及用法左ノ如シ

性	質	鑑別法	用途例、用法
一 無色透明斜稜柱狀ノ結晶ニシテ「アルコール」ニハ溶解セサル 二 冷水及温水ニ溶解シ強キ「アルカリ」性反應ヲ呈ス下記ノ用途ハ「アルカリ」性ノ利用ニ在リ 一 空氣中ニ曝露スルトキハ次第ニ風化崩壊シ白色ノ粉末トナルヲ以テ常ニ密閉シテ冷所ニ格納スヘシ	一 無色焰中ニ熱スレハ其火焰ヲ黄色ニス 二 酸類ヲ加フレハ泡沸シテ溶解シ其水溶液ハ硫化水素ニ依リテ變化セサルヲ要ス	一 汚垢、脂油ノ洗滌、腔中洗滌液ノ製造用等 二 洗滌ノ爲單獨ニ使用スル場合ニハ通常水ニ立ニ付約一〇瓦ノ比ヲ以テ溶解シ使用ス要スレハ被洗滌品ヲ液中ニ浸シ煮沸ス但本液ヲ用ヒタルトキハ洗滌後十分清水ヲ以テ洗滌シ乾布ニテヨク水分ヲ拭淨シ鐵製品ニ在リテハ直ニ防錆用油ヲ塗布スヘシ	

第二款 磷酸ソーダ

第八十七 磷酸「ソーダ」ノ性質及用途例左ノ如シ

性	質	用途例
磷酸ノ溶液ヲ苛性「ソーダ」又ハ炭酸「ソーダ」ニテ中和シ其溶液ヲ煮詰メテ結晶セシメタルモノニシテ容易ニ風化シ又水ニ溶解スルトキハ「アルカリ」性ヲ呈ス下記ノ用途ハ「アルカリ」性ノ利用ニ在リ	腔中洗滌液ノ製造用等	

第三款 苛性ソーダ

第八十八 苛性「ソーダ」ノ性質、鑑別法、用途例及用法左ノ如シ

性	質	鑑別法	用途例、用法
一 白色無定形ノ固體ナルモ市井ニ販賣スルモノハ通常棒狀ヲ呈ス破砕面ハ結晶性ヲ表ハシ水ニ溶解シ多量ノ熱ヲ發ス此溶液ハ強キ「アルカリ」性ヲ呈シ動物質	一 無色焰中ニ熱スレハ其火焰ヲ黄色ニス 二 極メテ稀薄ナル水溶液ト雖腐蝕性	一 「ペイント」ノ剝脱、電池ノ電液等 二 塗料ノ剝脱、洗滌等ニ使用スル場合ニハ通常左ノ如ク配合ス	

兵器保存用材料



(羽毛、皮、爪、角質等)ヲ腐蝕  
 溶解ス  
 二 一〇〇分中九〇分以上ノ純水  
 酸化「ナトリウム」ヲ含有シ比重  
 二・一三ナリ  
 三 三一八度ニ於テ熔融シ無色油  
 狀ノ液トナリ更ニ高熱ヲ與フレ  
 ハ白色腐蝕性ノ蒸氣トナリ僅ニ  
 揮發ス  
 四 炭酸「ガス」及水ヲ吸收スル性  
 質強キヲ以テ格納スルニハ廣口  
 瓶ニ容レ「パラフィン」ヲ塗布セ  
 ル「ガラス」栓若ハ「パラフィン」  
 ニ浸セル「コルク」栓ヲ裝シ置ク  
 ヘシ

ノ鹹味ヲ有ス  
 三 酒石酸溶液ノ注  
 加ニ依リテ沈澱セ  
 ス

塗料剝脱液	
名稱	配合比
苛性「ソ 」 「ソ」	一 坩
清 水	五 立
「ス 」 「ソ」	一 坩
鋸 屑 粉 少 量	量
清水ニ溶解シ タル後油ヲ 加ヘ攪拌シ ルマテ攪拌 尙シテ鋸屑 状態ト爲 ス	

第四款 苛性カリ

第八十九 苛性「カリ」ノ性質、鑑別法及用途例左ノ如シ

性 質	鑑 別 法	用 途 例
一 通常棒狀ト爲シテ販賣セラレ白色ノ結晶狀 ヲ呈シ劇薬ナリ 二 水分ヲ吸收シテ潮解シ水及「アルコール」ニ 溶ケ易シ水ニ溶解スル際ハ熱ヲ發生ス 三 水溶液ハ強キ「アルカリ」性反應ヲ呈シ動植 物質ヲ腐蝕スルヲ以テ其取扱ニ注意スルヲ要 ス 四 空氣中ノ炭酸「ガス」ヲ吸收シ炭酸「カリ」ト ナル 五 其他概ネ苛性「ソーダ」ニ同シ	水溶液ハ酒石酸溶液 ニテ白色結晶性ノ沈 澱ヲ生ス	概ネ苛性「ソーダ」ニ 同シ

第五款 石 鹼

第九十 石鹼ハ其種類甚タ多キモ之ヲ大別シテ「カリ」石鹼及「ソーダ」石鹼ノ二種トス  
 「カリ」石鹼ハ吸濕性强ク質軟ラカキヲ以テ軟石鹼ト稱シ水ニ溶ケ易シ「ソーダ」石鹼ハ  
 此等ノ性少キ爲硬石鹼ト稱ス尙用途ニ依リ各種ノ名稱アリ

兵器保存用材料



第九十一 石鹼ノ性質、鑑別法及用途例左ノ如シ

区分	性質	鑑別法	用途例
石鹼	<p>一 「ソーダ」石鹼ニハ種類多ク固形ノモノ及粉狀ノモノアリ「アルコール」ニ溶解シ透明液トナリ之ヲ加熱スレハ膠狀トナリ更ニ乾固セハ透明ノ固體トナル</p> <p>「アルコール」ニ對スル溶解度ハ其性質ニ依リ異ナルモ一般ニ軟石鹼ニ比シ溶解遲シ</p> <p>二 「エーテル」揮發油又ハ濃厚ナル食鹽水ニハ溶解セス</p> <p>三 石鹼ノ水溶液中ニ生スル苛性「カリ」ハ皮膚、衣服等ニ附着セル脂肪ヲ分解シ一種ノ可溶性物質ヲ造ルト共ニ粘稠ナル石鹼液ハ水ト共ニ塵埃、汚垢ヲ運ヒ去ル作用ヲ爲ス</p>	<p>一 遊離「アルカリ」ヲ含有スル不良品ハ永ク格納スルニ方リ表面ニ白色ノ小斑點ヲ生ス</p> <p>二 酸ヲ含マサル無水「アルコール」ニ石鹼ヲ溶解シ其濾液ニ「フェノール」フタレイン」溶液一、二滴ヲ滴下シ赤變セハ遊離「アルカリ」存在ノ證ナリ</p> <p>三 不快ナル臭氣ヲ有スルモノハ劣等品ナリ</p>	<p>汚垢、脂油ノ洗滌用等</p>

「カリ」石鹼	<p>一 通常液狀脂油ニ苛性「カリ」ヲ加ヘテ製造シタルモノニシテ半透明ノ軟ラカキ糊狀ノ石鹼ナリ</p> <p>二 吸濕性ニ富ミ水ニ溶ケ易シ</p> <p>三 其他「ソーダ」石鹼ニ準ス</p>	<p>腔中油ノ製造用、汚垢、脂油ノ洗滌用等</p>
--------	---	---------------------------

第六款 アルコール

第九十二 「アルコール」ノ性質、鑑別法及用途例左ノ如シ

性質	鑑別法	用途例
<p>一 無色透明、揮發性ノ液ニシテ中性ナリ爽快ノ香氣ヲ有シ其味灼クカ如シ</p> <p>二 引火シ易ク光輝微弱ナル淡藍色ノ火焰ヲ放チテ燃燒ス</p> <p>三 比重〇・八〇—〇・八四ニシテ零下五〇度以下ニテハ次第ニ濃</p>	<p>一 「トラルレス」若ハ「リヒテル」「アルコール」計ヲ以テ比重ヲ測定ス</p> <p>二 清淨ナル「ガラ」皿ニテ蒸發セシメ残渣ヲ殘ササ</p>	<p>水ニ溶解スル處アル藥品ノ練捏、發動機冷却水凍結豫防用、溫度計用液等</p> <p>「ワニス」、雷汞、無煙藥ノ製造用、鑄染用液ノ配合劑等</p> <p>「テレピン」油ト配合シテ黑色「ワニス」ノ剝離ニ使用ス</p>

兵器保存用材料



稠トナリ零下二四度ニテ固化ス	ルヲ良品トス	眼鏡ノ「ガラス」面、精密器具ノ拭淨ニ使用ス
四 水、「エーテル」「クロロホルム」「グリセリン」及諸種ノ揮發油類ニ能ク混和ス		

第七款 エーテル

第九十三 「エーテル」ノ性質及用途例左ノ如シ

性	質	用途例
一 無色透明、揮發性ノ液ニシテ中性ナリ特異ノ臭味ヲ有シ引火シ易シ 二 比重〇・七二沸騰點三五度凝固點零下二九度ナリ 三 水ニハ僅ニ溶解シ「アルコール」、脂肪油ニハ任意ノ比ヲ以テ混和ス 四 光線ヲ屈折スルノ性強ク脂肪、樹脂等ノ諸種ノ物質ヲ溶解ス 五 大氣、日光ニ觸ルルトキハ變質シ易シ又引火シ易キヲ以テ火氣ヲ近ツクヘカラス		溶劑、「ガラス」面ノ拭淨、氣泡管用液、無煙藥ノ製造用等

第八款 クレオソート

第九十四 「クレオソート」ノ性質、用途例及用法左ノ如シ

性	質	用途例	用法
一 石炭「タール」ヲ二〇—二七〇度ノ間ニ蒸溜シテ得タル揮發性油ニシテ劇毒性ナリ 二 微緑褐色ヲ呈シ特異ノ臭氣ヲ有ス比重一・〇〇—一・〇七ナリ 三 滲透性强ク「ベイント」、「ワニス」類ヲ溶解ス 四 引火點低キヲ以テ火氣ニ注意スルヲ要ス		一 木材及竹製品ノ防腐、防蟲及殺蟲用其他 二 一般殺菌及消毒用等 三 塗料ヲ施ササル部分ニ用ヒ害蟲傳播時期前ニ塗施スルヲ可トス使用ノ際ハ塗施スヘキモノヲ液中ニ浸漬スルカ又ハ之ニ數回塗布ス	「クレオソート」ハ皮膚ニ「かぶれ」ヲ生セシムルコトアリ本劑ヲ塗抹セル杭木等ヲ取扱フ場合ハ顔面、手等ニ「ワセリン」又ハ「グリセリン」ヲ塗布スルトキハ豫防スルコトヲ得

第九款 硫酸

兵器保存用材料



第九十五 硫酸ノ性質及用途例左ノ如シ

性	質	用途例
<p>一 無色、無臭、油狀ノ液ニシテ熱スレハ全ク揮散ス</p> <p>二 硫酸ハ皮膚ニ觸ルレハ之ヲ糜爛シ硫酸ニ水ヲ注クトキハ大ナル熱ヲ發生シテ危害ヲ伴フコトアリ稀硫酸ヲ作ルニハ水ヲ淺キ容器ニ取リテ後徐ニ硫酸ヲ加ヘ絶ヘス攪拌スヘシ</p> <p>三 比重一・八三六—一・八四〇、沸騰點三三八度ニシテ一〇・五度ニ冷却スレハ結晶ス一〇〇分中九四—九八分ノ純硫酸ヲ含有シ水分ヲ吸收スル性強シ</p> <p>四 木、竹及其他ノ有機物ニ滴下スレハ其面ヲ黒色ニ焦蝕セシム</p> <p>五 金、白金其他白金屬ニ對シテハ作用セサルモ他ノ諸金屬ニ對シテハ作用ス但鉛ニ對シテハ作用弱微ナリ常溫ニ於ケル狀況左ノ如シ</p> <p>(イ) 亞鉛、鐵、「マグネシウム」ニハ濃硫酸ハ殆ト作用セサルモ稀硫酸ハ能ク作用シテ水素ト硫酸鹽トヲ生ス</p> <p>(ロ) 銅、銀、水銀ニハ稀硫酸ハ殆ト作用セサルモ濃硫酸ハ能ク作用シテ亞硫酸「ガス」ヲ發生シ硫酸鹽ト水ヲ生ス</p>		<p>電池ノ電液、「メツキ」前ニ於ケル鐵及銅ノ洗滌用、藥莢等黃銅製品ノ洗滌用、硫酸「アンモニア」ノ製造用等</p>

第十款 塩酸

第九十六 鹽酸ノ性質及用途例左ノ如シ

性	質	用途例
<p>一 純粹ノモノハ無色透明ノ液體ナルモ工業用ノモノハ鐵、砒素等ノ不純物ヲ混在シ黄色若ハ赤色ヲ呈ス刺激性ノ臭氣ヲ有シ酸味強ク加熱ニ依リ全ク揮散ス</p> <p>二 金、白金、其他白金屬ヲ除ク外諸金屬ヲ溶解シ水素ヲ發生シテ鹽化物ヲ生ス又過酸化「マンガン」等ノ如キ過酸化金屬ニ作用シ鹽素ヲ發生ス</p> <p>三 通常濃塩酸ト稱スルモノハ四〇%ノ塩化水素水溶液ヲ含ミ比重一・二ヲ有シ大氣ニ觸ルレハ發煙ス</p>		<p>塩酸「カリ」ノ製造用、「ハング」鐵ノ媒劑、金屬ノ洗滌用等</p>

第十一款 塩化アンモン

第九十七 塩化「アンモン」ノ性質及用途例左ノ如シ

兵器保存用材料



性	質	用途例
一 礬砂トモ稱シ白色結晶性ノ粉末或ハ纖維狀ノ堅キ結晶塊ニシテ刺戟性ノ味ヲ有シ臭氣ナク一見食鹽ニ類似ス 二 空氣中ニ於テ變化セス熱スレハ揮發シ約三倍量ノ水並等分ノ熱湯ニ溶解シ「アルコール」ニハ溶解シ難シ 三 濃厚ナル溫水溶液ヲ攪拌シツツ冷却スレハ八面體ノ結晶粉末トナリテ析出ス 四 熱スレハ容易ニ分解シ「アンモニア」及鹽化水素ヲ生シテ金屬或ハ酸化金屬ヲ侵蝕ス		乾電池、「ルクランセ」電池ノ製造、染色用、鑲著用等

第十二款 硫酸銅

第九十八 硫酸銅ノ性質及用途例左ノ如シ

性	質	用途例
一 膽礬トモ稱シ藍色透明ノ結晶ニシテ不快ノ味ヲ有シ有毒性ナリ		銅「メッキ」、染色用、電氣精銅用、電池用液及金

二 五分子ノ結晶水ヲ含有シ大氣中ニ於テ徐々ニ風化ス五倍ノ水並等分ノ熱湯ニ溶解シ酸性反應ヲ呈ス「アルコール」ニ殆ト溶解セス 三 約二〇〇度ニ熱スルトキハ悉ク結晶水ヲ消失シテ白色トナル尙高熱ヲ與フレハ無水亞硫酸及酸素ヲ發生シ全ク分解シテ酸化銅ニ變ス 四 水溶液ニ鹽酸或ハ食鹽ヲ加フレハ綠色ニ變ス	屬著色用等
---	-------

第十三款 重クロム酸カリ

第九十九 重「クロム」酸「カリ」ノ性質及用途例左ノ如シ

性	質	用途例
一 美麗ナル鮮赤色ノ三斜系ニ屬スル結晶ヲ爲シ劇藥ナリ 二 比重ハ二・六九ニシテ「アルコール」ニハ溶解セス常溫ニ於テ水一〇分ニ溶解シ其溶液ハ帶赤黃色ニシテ酸性反應ヲ呈ス 三 酸性溶液ニ於テハ強力ナル酸化力ヲ有シ加熱ニ對シテハ比較的安定ニシテ約四〇〇度ニテ熔融シ冷却スレハ再ビ結晶ス然レ		媒染劑、鞣皮劑、寫真用感光劑、著色劑、酸化劑、電池、「クロム」緑、「クロム」黄、「クロム」明礬等ノ製造用等

兵器保存用材料



トモ強熱ヲ加フレハ分解シテ酸素ヲ放出シ「クロム」酸「カリ」及  
 酸化「クロム」トナル  
 四 有毒性ナルヲ以テ取扱ニ注意スルヲ要ス若皮膚ノ剝脱セル部  
 分ニ附著スルトキハ往々腫物ヲ生ス又鼻腔内ニ此細粉ヲ吸收ス  
 ルトキハ鼻腔内膜ヲ侵スコトアリ

第十四款 タンニン酸

第百 「タンニン」酸ノ性質及用途例左ノ如シ

性	質	用途例
一 五倍子、櫟等ノ樹皮ノ煎汁ヨリ製スル光澤アル帶黃白色鱗狀 ノ無晶形ニシテ收斂性ノ味ヲ有ス 二 水、「アルコール」、「グリセリン」ニ溶解シ純「エーテル」、醋 酸、「ベンゾール」、「クロロホルム」、硫化炭素、揮發油等ニハ 溶解セス、水溶液ニ赤血鹽及「アンモニア」ヲ加フレハ褐紫色ニ 變ス 三 動物ノ皮ニ作用スレハ其組織ト結合シテ革ト爲シ第二鐵鹽ノ		媒染劑、鞣皮劑、麻類、 綿布ノ染色用等

溶液ニ遭ヘハ黒色トナル  
 四 「ゼラチン」、次醋酸鉛、金屬鹽類、「アルカロイド」、鹽基性  
 染料ヲ沈澱ス  
 五 還元性ヲ有シ特ニ「アルカリ」性液ノ場合ニ其作用著シ

第十五款 オレイン酸

第百一 「オレイン」酸ノ性質及用途例左ノ如シ

性	質	用途例
一 純粹ナル「オレイン」酸ハ主トシテ「オリブ」油、扁桃油等ヨ リ製シ淡黄色油狀ノ液體ニシテ純粹ナルモノハ無色ナリ 二 比重〇・八九八ヲ有シ一四度ニテ凝固ヲ始メ四度ニテ白色結 晶狀ノ塊トナル 三 水ニ不溶性ナルモ「アルコール」ニハ容易ニ溶解ス 四 日光及空氣ニ曝セハ酸敗シ臭氣ヲ發ス 五 弱酸ニシテ浸透力強ク燻渣ノ溶解性大ナリ 六 銅、鉛等ニ作用シ鹽類ヲ形成ス		腔中油ノ製造用等

兵器保存用材料



七 淡黄色ニシテ刺激性ノ惡臭ヲ有セス酸價一九〇以上、鹼化價一九五以上、不鹼化物三%以下、「ヨード」價九〇%以下、引火點一八〇度以上ノモノハ腔中油ノ原料トシテ適當ナリ

第十六款 ベンゾール<sup>㊦</sup>

第二百二 「ベンゾール」ノ性質及用途例左ノ如シ

性	質	用途例
<p>一 「コールタール」ヲ一七〇度マテニ溜出シテ得タル輕油ヲ精製シタルモノニシテ無色透明一種ノ臭氣ヲ有スル揮發性ノ液體ナリ</p> <p>二 比重ハ〇・八八ニシテ沸騰點ハ八〇度ナリ</p> <p>三 可燃性ニ富ミ其焰ハ光輝強ク油煙多シ</p> <p>四 脂肪、生「ゴム」、樹脂等ヲ容易ニ溶解ス</p>		<p>脂肪、生「ゴム」、樹脂等ノ溶劑、洗淨用、蟲類ノ驅除用等</p>

第十七款 パラヂクロルベンゾール

第二百三 「パラヂクロルベンゾール」ノ性質、用途例及用法左ノ如シ

性	質	用途例	用法
<p>一 「ベンゾール」ニ鹽素ヲ結合セシメテ得タル揮發性ニ富ミタル半透明ノ葉狀又ハ稜柱狀ノ結晶體ニシテ辛味ヲ具ヘ刺激性ノ香氣ヲ有シ「アルコール」、揮發油、「テレピン」油、二硫化炭素等ニ溶解ス</p> <p>二 殺蟲力ハ「ナフタリン」ニ比シ優レリ</p> <p>三 毛織物、色素、染料、金「モール」等ニ害ヲ與フルコトナシ</p>		<p>一 毛製品防殺蟲用等</p> <p>二 容積一立方米ニ對シ約二〇瓦ノ割合ニ粉狀ノ儘ニテ木箱ニ容レ配置シ又ハ錠劑ト爲シ紙ニ包ミ各種包裝内ニ挿入ス</p> <p>三 填毛ニ注射スルニハ「アルコール」五〇瓦ニ本劑二・五瓦ノ割合ヲ以テ溶解シ鞍褥一ニ對シ約一〇瓦ヲ用フ</p> <p>四 本劑ハ發散速ナルヲ以テ消散ヲ防止スル爲密閉シテ使用スルヲ良トス</p>	

第十八款 ナフタリン

第二百四 「ナフタリン」ノ性質、用途例及用法左ノ如シ

兵器保存用材料



性 質	用 途 例、 用 法
<p>一 石炭「タール」ヲ蒸溜シテ得タルモノニシテ無色板状ノ光輝アル結晶或ハ葉状結晶ヲ爲ス特異ノ臭氣ト灼クカ如キ味ヲ有シ防殺蟲ノ效アリ</p> <p>二 比重一・一五ニ常温ニ於テ多少揮發シ水蒸氣或ハ「アルコール」蒸氣ニ遭フトキハ容易ニ揮發ス</p> <p>三 熔融點ハ七九度ニシテ沸騰點ハ二一八度ナリ引火スレハ濃キ煤煙ヲ發シ光輝アル火焰ヲ放チテ燃燒ス</p> <p>四 「エーテル」、「クロホルム」、「二硫化炭素」、「ベンゾール」、揮發油及「テレピン」油等ニハ容易ニ溶解シ「アルコール」、「脂肪油」及流動「パラフィン」等ニハ加熱ニヨリ速ニ溶解ス</p>	<p>一 鞍褥、麻、綿、絹布及毛製品等ノ防蟲及殺蟲用</p> <p>二 殺蟲ノ目的ヲ達スル爲ニハ一立方米ニ付約三五〇瓦以上ヲ用ヒサレハ效果ナシ</p> <p>三 火藥原料、火具類ノ和劑等</p>

第十九款 サリチル酸

第一百五 「サリチル」酸ノ性質及用途例左ノ如シ

性 質	用 途 例
<p>一 白色針状又ハ單斜柱状ノ結晶ニシテ無臭甘味ヲ有シ稍、苛辣ナリ</p> <p>二 熔融點ハ一五七度ニシテ徐々ニ熱スレハ分解セス昇華シ急ニ熱スレハ其大部分ハ分解シテ石炭酸及炭酸「ガス」トナリ石炭酸ノ臭氣ヲ放チテ揮散ス</p> <p>三 殺菌性强キモ有毒ナラス</p> <p>四 五〇〇倍ノ水並一五倍ノ熱湯ニ溶解シ酸性反應ヲ呈ス「アルコール」、「エーテル」、「クロホルム」及脂肪油ニ容易ニ溶解ス</p> <p>五 水溶液ハ過鹽化鐵溶液ニ依リ藍紫色ヲ現シ之ヲ稀釋スルトキハ紫紅色ヲ呈ス</p>	<p>防蝕、防蟲劑及殺菌劑トシテ石炭酸ニ代用ス</p>

第二十款 クロルピクリン

第百六 「クロルピクリン」ノ性質、用途例及用法左ノ如シ

兵器保存用材料



性	質	用途例	用法
<ul style="list-style-type: none"> <li>一 石炭酸ニ硝酸ヲ作用セシメ之ニ鹽素ヲ誘導シテ生成シタル無色ノ液體ニシテ引火スルコト少ク擴散性大ナリ</li> <li>二 微量ニテ眼ニ作用シ催淚性強シ強烈ナル殺菌殺蟲力ヲ有シ多量ニ吸入スレハ肺ヲ犯ス</li> <li>三 沸騰點ハ約一一二度ニシテ氣化性ハ常溫ニ於テハ甚タ不活潑ナルモ加熱スルトキハ迅速トナル其蒸氣ハ空氣ヨリモ五倍重シ</li> <li>四 濕潤シタル鐵ニ對シ發錆ヲ促ス</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>一 催淚性「ガス」、皮革製品、毛製品、毛類、麻等ノ滅菌殺蟲用等</li> <li>二 二〇立方米ノ室ニ約四五〇瓦ヲ用フレハ四八時間ニテ確實ニ殺蟲ス容器ノ外部ヲ熱湯等ヲ以テ溫ムレハ一時ニ多量蒸發シテ效果大ナリ使用ノ際ハ防毒面ヲ用ヒ皮膚等ニ附著セサル如クシ又燻蒸ヲ終リ室ヲ開放セル後ニ於テモ毒性殘留スルコトアルヲ以テ注意スルヲ要ス</li> </ul>	

第二十一款 コールタール

第一百七 「コールタール」ノ性質及用途例左ノ如シ

性	質	用途例

<ul style="list-style-type: none"> <li>一 石炭「ガス」及「コークス」製造ノ副産物タル黑色油狀ノ液體ニシテ特異ノ臭氣ヲ有ス</li> <li>二 比重一・一一—一・二ニシテ防錆、防腐ノ效アリ</li> </ul>	鐵類ノ防錆、木材ノ防腐、防蟲用等
---	------------------

第二十二款 ホルマリン

第一百八 「ホルマリン」ノ性質、用途例及用法左ノ如シ

性	質	用途例	用法
<ul style="list-style-type: none"> <li>一 「ホルムアルデヒド」ノ水溶液ニシテ無色透明、刺激性ノ臭氣ヲ有ス少量ノ蟻酸ヲ含有シ弱酸性ヲ呈ス</li> <li>二 通常ノ「ホルムアルデヒド」ヲ含有シ一五度ニ於ケル比重ハ一・〇七九—一・〇八一ナリ</li> <li>三 水及「アルコール」ニハ任意ニ混合スルモ「エーテル」ニハ混和セス</li> <li>四 湯煎器上ニテ蒸發セシムレハ水ニ溶解シニキ白色無晶形ノ物質ヲ殘留シ又「アンモ</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>一 防腐、殺菌用等</li> <li>二 麻具、綿布等ニ在リテハ密閉セル室ニ於テ「ホルマリン」ヲ蒸發セシム手及機械等ノ消毒ニハ〇・一一—〇・五%、物品、衣服等ニハ一—二%溶液ヲ用フ</li> <li>三 革具ノ黴ヲ除去スルニハ一〇%溶液ヲ浸シタル布片ヲ以テ拭淨ス</li> </ul>	

兵器保存用材料



難ア」水ヲ加ヘテ弱「アルカリ」性ト爲シ湯煎器上ニテ蒸發スレハ水ニ可溶性ノ白色結晶狀ノ物質ヲ殘留ス

第二十三款 サイローム

第九九 「サイローム」ノ性質、用途例及用法左ノ如シ

性	質	用	途	例	用	法
一 「サイローム」ハ青酸ヲ吸收劑ニ吸收セシメテ罐詰ト爲シタルモノナリ		一 革製品、毛製品、毛類、麻製品、木製品等ノ殺蟲並格納庫ノ殺鼠用等				
二 殺蟲、殺鼠ノ效力頗ル大ナリ		二 二〇立方米ノ室ニ約一〇〇—一二〇瓦使用シ五時間以上(通常一晝夜)燻蒸スレハ確實ニ目的ヲ達シ得ヘシ而シテ格納數量多キトキハ藥量ヲ比較的多クスヘシ				
三 沸點二六度ニシテ揮發擴散容易ナルヲ以テ四季ヲ通シテ使用シ得		三 室内中央部又ハ適當ナル位置ニ新聞紙等ヲ敷キ其上ニテ「サイローム」罐ヲ先ノ尖レル鐵錐ヲ以テ強打裂開セシメ内容物ヲ紙上				
四 器材等ニ對シテ無害ナリ						

		ニ撒布シ所要時間放置シタル後窓、扉等ヲ開放シ「ガス」ヲ放散セシムヘシ「ガス」ノ漏洩殘留等ハ試験紙ニテ檢知スルモノトス使用ノ際ハ必ス青酸用防毒面ヲ裝著スルヲ要ス吸收罐ヲ青酸用ノモノト取替フルノミニテモ可ナリ
--	--	--

第二十四款 六鹽化エタン

第一百十 六鹽化「エタン」ノ性質、用途例及用法左ノ如シ

性	質	用	途	例	用	法
一 防蟲效力大ニシテ「ナフタリン」、樟腦等ニ比シ數倍ノ效力ヲ有シ又「パラチクロルベンゾール」ノ如ク速ニ揮發消耗スルコトナシ		一 毛織物、毛皮、皮革等ノ防蟲用、發煙劑製造用等				
二 樟腦様ノ芳香ヲ有シ毛織物、毛皮、革、染料及金「モール」等ニ害ヲ與ヘス		二 錠劑又ハ粉末ノ儘使用シ又紙等ニテ包ミ用フルモ可ナリ使用量ハ樟腦等ト概ネ同様ナリ、				

兵器保存用材料



第二十五款 眼鏡用氣密劑

第一百十一 眼鏡用氣密劑ノ性質、用途例及用法左ノ如シ

性	質	用 途 例、 用 法
一 成分配合比等一定セサルモ概ネ「アスファルト」三五「マリンエンジン」油五〇ヲ混シ之ニ「ステアリン」酸鉛二五ヲ熔融シ次ニ「タルク」三五ヲ混シタルモノナリ（重量比） 二 適當ナル硬サヲ有シ且膠著力極メテ大ナリ		一 各種眼鏡類ノ金屬ト「ガラス」トノ接際部及金屬相互ノ接際部ニ填實シテ内部ヲ氣密ナラシムルニ使用ス 二 使用ニ際シテハ竹筒ヲ以テシ又冬季等氣溫低キ場合ニハ本劑ヲ約三〇度ニ溫メ使用スルヲ可トス

第二十六款 眼鏡用防擦劑

第一百十二 眼鏡用防擦劑ノ性質、用途例及用法左ノ如シ

性	質	用 途 例、 用 法
一 成分配合比等ニ依リ種々アルモ一例ヲ示セハ左ノ如シ 生「ゴム」五ヲ「マリンエンジン」油六〇ヲ以テ分解シ之ニ牛脂一五及「ステアリン」酸鉛二〇ヲ熔融ス（重量%） 二 變質性及揮發性極メテ少キヲ以テ脆弱トナリ或ハ「レンズ」ニ疊リヲ生スルカ如キコトナシ		一 各種眼鏡類ニ於ケル金屬相互ノ防擦ノ爲其摩擦部ニ塗布シ接眼筒部ニ在リテハ兼ネテ氣密ノ用ヲ爲サシム 二 本劑ハ極メテ少量ヲ使用セハ其目的ハ達シ得ラルルモノトス

第二十七款 空氣乾燥劑

第一百十三 空氣乾燥劑ノ性質、用途例及用法左ノ如シ

性	質	用 途 例、 用 法
一 吸濕性大ナリ 吸濕能力ヲ比較スルニハ其最大吸濕能力		一 密閉器内ノ空氣乾燥劑トシテ眼鏡又ハ高濕地方ノ皮革製品ノ密閉格納等ノ際ニ使用

兵器保存用材料



<p>ヲ「自己重量ノ何%」トシテ表示ス</p> <p>二 乾燥セルモノト吸濕セルモノトハ各、固有ノ色相ヲ呈スルヲ以テ判別スルコトヲ得</p> <p>三 一般ニ粒狀ヲナシ質堅クシテ吸濕シタル際ニ於テモ其形狀ニ大ナル變化ヲ生セス</p> <p>四 一旦吸濕セルモノハ之ヲ適當ノ溫度ニテ乾燥スルトキ變形スルコトナク吸濕能力ヲ再生セシムルコトヲ得</p> <p>五 一般ニ絕對的中性ナルモノナキモ之ニ直接ニ觸レサル限り著シキ酸性又ハ鹽基性ノ爲ニ兵器ニ惡影響ヲ及ホス程度ノモノニアラス</p>	<p>ス</p> <p>二 乾燥劑ハ空氣中ノ水分ヲ吸收シテ密閉器内ノ空氣ヲ乾燥スルモノナルヲ以テ乾燥劑ノ有スル吸濕能力、密閉器ノ容積並密閉ノ程度及溫度ヲ考慮シテ之ニ應スル如ク使用法ヲ決定スヘキモノナリ之カ爲ニ密閉器内ニハ必ス濕度計又ハ鹽化「コバルト」試験紙等ヲ用ヒテ其狀態ヲ監視スルヲ要ス</p> <p>三 使用ニ方リテハ良ク其色相ヲ檢シ要スレハ再生セシム</p> <p>四 再生ノ爲ニハ乾燥劑ノ種類ニ依リ適當ナル溫度ヲ選定スヘシ然ラサレハ其效果ナキコトアルヘシ</p>
---	---

第百十四 空氣乾燥劑ノ一例トシテ「アドソール」粒ノ性質及用法ヲ掲ケレハ次ノ如シ

性質	用法
----	----

<p>一 鹽化「コバルト」ヲ湯ニ溶解シタル溶液ニテ酸性白土ヲ捏和シテ粒狀トナシ稍硬化シタル後切斷シテ粒狀ト爲シタルモノナリ</p> <p>二 乾燥十分ナル「アドソール」ハ帶青褐色ニシテ吸濕性ニ富ミ自己重量ノ約三割ノ濕氣ヲ吸收ス</p> <p>三 吸濕セル「アドソール」ハ褐色ナルモノ之ヲ熱スレハ次第二濕氣ヲ發散シテ青色ニ變化シ約一五〇度ニ於テ其色最青ク吸濕性亦大ニシテ溫度之ヨリ上昇スルトキハ灰色ヲ帶ヒ約二〇〇度ニ於テ濃褐灰色トナリ著シク吸濕性ヲ減スルニ至ル</p> <p>四 吸濕セルモノハ加熱ニ依リ再ヒ乾燥ノ狀態トナルヲ以テ反復之ヲ使用スルコトヲ得</p>	<p>一 「アドソール」ヲ挿入スルニハ容器ノ底部ニ敷クヲ通常トス</p> <p>二 再生ノ爲ニ加熱スルニハ溫度ヲ一五〇度以上ニ上昇セシメサルヲ可トス</p>
--	--

第二十八款 鹽化コバルト試験紙

第百十五 鹽化「コバルト」試験紙ノ製法、性質、用途例及用法左ノ如シ

兵器保存用材料



製	法	性	質	用途例、用法								
左記配合ノ鹽化「コバルト」液ニテ所望紙ヲ染色シタルモノナリ	<table border="1"> <tr> <td>區分</td> <td>鹽化「コバルト」%</td> <td>蒸溜水%</td> </tr> <tr> <td>濾紙用</td> <td>一五</td> <td>八五</td> </tr> <tr> <td>模造紙用</td> <td>三〇</td> <td>七〇</td> </tr> </table>	區分	鹽化「コバルト」%	蒸溜水%	濾紙用	一五	八五	模造紙用	三〇	七〇	<p>一 鹽化「コバルト」試験紙ハ濕氣ヲ吸收シテ變色スルヲ以テ濕度計ヲ用ヒスシテ空氣ノ乾燥度ヲ知り得ルモノニシテ其變色ノ度合ニ依リ標準色ト對照シテ乾燥ノ程度ヲ判定スルコトヲ得</p> <p>二 試験紙ハ乾燥ノ上幾回ニテモ使用スルコトヲ得</p>	<p>一 密閉器内ノ濕度檢知用等</p> <p>二 試験紙ハ直接鐵部ニ接觸セサル如ク器内適宜ノ箇所ニ絲ニテ懸吊シテ使用ス</p> <p>三 容器大ナルトキハ試験紙ヲ器ノ上下及四隅ニ配置シ器内乾燥ノ度合ヲ確ムルモノトス</p>
區分	鹽化「コバルト」%	蒸溜水%										
濾紙用	一五	八五										
模造紙用	三〇	七〇										

第二十九款 密閉蠟

第一百十六 密閉蠟ノ製法、用途例及用法左ノ如シ

製	法	用途例、用法
左ノ材料ヲ配合熔融ス 蜜 蠟 四二 「パラフィン」 三三 「ワセリン」 二五 重量%	前記配合比ハ冬季用トシテ概ネ適當ナルモ夏季又ハ熱地ニ在リテハ要スレハ蜜蠟ヲ増加ス	<p>一 眼鏡類密閉容器ノ氣密用等</p> <p>二 容器ノ體ト蓋トノ摺合部ニ薄ク塗り氣泡ノ存在セサル如ク密著ス</p> <p>三 本蠟ハ餅狀ナルモ外氣ニ曝セハ漸次乾固スルヲ以テ使用セサルトキハ密閉格納スヘシ</p>

第三十款 軟性防濕劑

第一百七 軟性防濕劑ノ製法、性質、用途例及用法左ノ如シ

製	法	性質	用途例、用法
生「ゴム」一五瓦ヲ「マリンエンジン」油一五瓦ヲ以テ分解シ之ニ牛脂四〇瓦及「ステアリン」酸鉛六〇		柔軟ナル密閉劑ニシテ溫度ノ變化ニ因ル變質性、揮發性少シ	<p>一 眼鏡類密閉容器ノ氣密用等</p> <p>二 容器ノ體ト蓋トノ摺合部ニ薄ク塗り氣泡ノ存在セサル如ク密</p>

兵器保存用材料



瓦ヲ熔融ス

著ス  
使用ニ際シ過度ニ薄層ニスルト  
キハ強ク密著シ開封困難トナル  
コトアルヲ以テ注意スルヲ要ス

### 第三十一款 防曇劑及防曇板

第百十八 防曇劑ヲ分チテ防曇脂及防曇液ノ二種トス其製法、性質、用途例及用法左ノ如シ

區分	製	法	性	質	用途例、用法
防曇	左ノ材料ヲ配合熔融ス 樹脂 石鹼 五五 「グリコール」 三五 「ネカール」 BX 一〇 「ドライ」	%重量比	一 水ニ容易ニ溶解ス水溶液ハ透明ナリ 二 揮發性少シ 三 水溶液ハ表面張力極メテ小ナルヲ以テ「ガラス」面ニ附著セル水滴ヲ迅速ニ擴散ス	一 各種眼鏡「ガラス」、自動車、戰車、列車等ノ窓「ガラス」、各種望遠鏡及眼鏡ノ「ガラス」面ニ其内外ニ於ケル溫度ノ差又ハ氣溫ノ急激ナル變化ニ因リ水蒸氣	一 各種眼鏡「ガラス」、自動車、戰車、列車等ノ窓「ガラス」、各種望遠鏡及眼鏡ノ「ガラス」面ニ其内外ニ於ケル溫度ノ差又ハ氣溫ノ急激ナル變化ニ因リ水蒸氣
防曇液	「グリコール」五〇、「アルコール」五〇(重量%)ノ混合液ニ少量ノ「サボニン」ヲ溶解ス		四 防曇效果ハ零下五度以上ノ溫度ニ於テ特ニ顯著ナリ	二 防曇脂ハ其少量ヲ乾燥セル清潔ナル軟綿布ニテ成ルヘク均一ニ「ガラス」面ニ塗布シ透明トナルマテ拭除スレハ可ナリ	二 防曇脂ハ其少量ヲ乾燥セル清潔ナル軟綿布ニテ成ルヘク均一ニ「ガラス」面ニ塗布シ透明トナルマテ拭除スレハ可ナリ
防曇脂			一 凝固點ハ零下七〇度以下ナリ 二 水ト容易ニ混合シ混合ノ際稍、發熱ス 三 表面張力極メテ小ナルヲ以テ防曇效果顯著ナリ	三 防曇液ハ之ヲ前記ノ如キ軟綿布ニ浸潤セシメテ「ガラス」面上ヲ拭クノミニテ可ナリ	三 防曇液ハ之ヲ前記ノ如キ軟綿布ニ浸潤セシメテ「ガラス」面上ヲ拭クノミニテ可ナリ
液			五 防曇效果ハ零下約五〇度マテノ溫度ニ於テ顯著ナリ		

兵器保存用材料



第一百十九 防曇板ノ性質、用途例及用法左ノ如シ

性	質	用途例	用法
<p>一 「ニトロセルローズ」又ハ「アセチルセルローズ」ノ透明度高キ薄膜ノ兩面ヲ夫、脱硝又ハ脱醋シ此等ヲ更ニ加壓シテ表面ヲ滑カニシタルモノナリ</p> <p>二 耐久力大ニシテ特ニ冬季ニ於テ優秀ナル防曇效果ヲ表ハス</p>		<p>一 各種眼鏡「ガラス」、戰車、装甲自動車窓ノ「ガラス」、各種望遠鏡及眼鏡ノ防曇用等</p> <p>二 極メテ薄キ皮膜ハ一般ニ「ガラス」面ニ特殊ノ膠著劑ヲ以テ貼付シテ使用シ厚サ〇・二耗以上ノモノハ内面ニ取附使用ス</p>	

第三十二款 カルナウバ蠟

第一百二十 「カルナウバ」蠟ノ製法、性質及用途例左ノ如シ

製法	性質	質	用途例
<p>主トシテ南米「ブラジル」ニ産スル一種ノ棕櫚樹ノ葉ノ分泌分ヨリ採</p>	<p>一 粗製品ハ淡黄、黄緑又ハ黒褐色ナルモ漂白セルモノハ殆ト白</p>		<p>酷暑時露天格納火砲等ノ爲必要アルトキ</p>

取シテ精製ス

<p>色ナリ</p> <p>二 一般溶劑ニ溶解スルモ「アルコール」ニハ溶解セス</p> <p>三 蠟、脂肪、樹脂等ニ混スルトキハ其熔融點ヲ高ム</p> <p>四 比重 〇・八五—〇・九九(古品)</p> <p>熔融點 八六—八七</p> <p>凝固點 七八—八一</p>	<p>「ベトドラタム」ニ約五%ヲ熔融添加シテ使用ス</p>
---	-------------------------------

第三十三款 パラニトロフェノール

第一百二十一 「パラニトロフェノール」ノ性質及用途例左ノ如シ

性	質	用途例
<p>一 「パラニトロフェノール」ハ石炭酸ヲ硝酸ニテ處理シテ得ラルル黄色、褐色又ハ灰色ノ結晶體ニシテ防蝕力強シ</p>		<p>皮革製品防蝕ノ爲革脂ニ混シ使用ス</p>

兵器保存用材料



二 手指ニ附著スルトキハ黄色ヲ呈スルコトアルモ有害ナラス  
 三 左ノ條件ヲ具備スルモノハ下記用途ニ適ス  
 1 本劑ノ一〇瓦ヲ加温ニヨリ動物性脂肪一〇〇瓦ニ溶解シタルトキ不溶性「タール」質一〇%以下ナルコト  
 2 熔融點八九〇度以上トス  
 3 本劑ノ水溶液ハ「コンゴレッド」赤色試験紙ヲ青變シ又ハ「プリリアントエロー」黄色試験紙ヲ赤變スヘカラス  
 4 本劑ハ之ヲ細末ト爲シ其〇・二瓦ハ苛性「ソーダ」ヲ弱「アルカリ」性水溶液一〇〇瓦ニ常温ニ於テ濃黄色ニ溶解スルコト  
 5 前記「アルカリ」性溶液ニ鹽酸ヲ加ヘ弱酸性ト爲ストキハ黄色消失シ微黄色以上ヲ呈セサルコト

第三十四款 除銅劑

第二百二十二 除銅劑ヲ分チテ除銅液及除銅箔ノ二種トス其製法、性質、用途例及用法左ノ如シ

區分	製	法	性	質	用途例、用法
----	---	---	---	---	--------

液	銅	除
左ノ材料ヲ混合ス 過硫酸「アンモン」 硫酸亞鉛 「アンモニア」水 (比重〇・九) 二「アンモニア」ハ揮發スルヲ以テ使用直前ニ調製スルヲ可トス	一 左ノ材料ヲ混合ス 過硫酸「アンモン」 硫酸亞鉛 「アンモニア」水 (比重〇・九) 二「アンモニア」ハ揮發スルヲ以テ使用直前ニ調製スルヲ可トス	一 金屬面ニ附著スル銅及銅合金ヲ溶解除去ス 二 過硫酸「アンモン」ハ銅及銅合金ニ對シ卓越セル腐蝕劑ナリ 硫酸亞鉛ノ水溶液ハ銅及銅合金ヲ腐蝕スルモ極メテ僅少ナリ然レトモ過硫酸「アンモン」ト併用スルトキハ其作用ヲ促進ス 前二者ハ之ヲ「アンモニア」ト共ニ用フルトキハ其腐蝕性ヲ増大ス而シテ之ニ用フル「アンモニア」ハ濃度大ナル程效果良好ナリ
左ノ配合ノ合金トス 錫 五八一六三	一 金屬面ニ附著スル銅ト合金ヲ作り其除去ヲ	一 銹腔面ニ附著セル被甲及砲腔面ニ附著セル銅ヲ除去スルニ使用ス 二 銅又ハ銅合金ニ附著スルトキハ之ヲ腐蝕スルヲ以テ注意スヘシ 三 本液ヲ亞鉛ニ接觸セシムルトキハ有害ナル物質ヲ發生スルヲ以テ除銅作業ノ爲「バケツ」藥莢等ヲ使用スヘカラス 四 之ヲ使用シタルトキハ殘液ヲ完全ニ除去スルヲ要ス
兵器保存用材料	融融ヲ容易ナラシムル爲箔狀ト爲シテ裝藥ニ添加	



除 鉛 三七—四二

箔 銅

容易ナラシム  
 二 除銅作用  
 腔面ニ附著セル銅及除銅合金ハ火藥「ガス」ノ高熱ニ依リ熔融シ同時ニ錫ハ銅ト合金ヲ作り鉛ヲ分離ス  
 錫ト銅トノ合金ノ熔融點ハ銅固有ノモノヨリ遙ニ低キ爲次發ノ彈丸ニ依リ拭ヒ去ラル  
 鉛ハ減摩劑トナリ又銅錫合金ノ合成ヲ助成ス

シテ砲腔面ノ除銅ニ使用ス

一一二

### 第三十五款 腔中洗滌液

第二百二十三 腔中洗滌液ノ製法、性質及用途例左ノ如シ

製 法 性 質 用 途 例

一 炭酸「ソーダ」及磷酸「ソーダ」各一〇瓦ヲ一立ノ清水ニ溶解ス  
 二 調製上ノ注意  
 二種「ソーダ」ヲ混合シタルモノヲ溶解スルヨリモ各別ニ溶解シタルモノヲ混合スル方調製容易ナリ

一 「アルカリ」性溶液ニシテ火藥渣ヲ溶解除去ス  
 二 炭酸「ソーダ」ハ「アルカリ」性強キニ過キ且多少結晶ヲ析出シ磷酸「ソーダ」ハ「アルカリ」性弱ク共ニ洗滌用トシテ單獨使用スルニ適セサルモ兩者ヲ混合スルトキハ長短相補ヒ炭酸「ソーダ」ノ結晶ノ析出ヲモ完全ニ防止スルヲ得ルモノトス  
 三 本洗滌液ハ皮膚ヲ荒スコトアルヲ以テ注意スヘシ

射撃後ニ於ケル銃砲腔面ノ洗滌用等

### 第三十六款 硼砂

第二百二十四 硼砂ノ性質、用途例及用法左ノ如シ

兵器保存用材料

一一三



性	質	用途例、用法
白色ノ結晶體ニシテ大氣中ニ於テ風化シ常溫ニ於テ一七倍ノ水ニ溶解ス		一 飽和溶液ト爲シ射撃後ニ於ケル銃砲腔面ノ洗滌用及鐵製品ノ浸漬格納用等 二 飲料ニ適スル水一・七立ニ付本劑約一〇〇瓦ノ比ヲ以テ完全ニ溶解シ使用ス温湯ヲ以テスレハ溶解容易ナリ

第三十七款 グリセリン

第二百二十五 「グリセリン」ノ性質及用途例左ノ如シ

性	質	用途例
一 無色透明粘稠ノ液ニシテ臭味ナク水、「アルコール」ニハ隨意ノ比例ニ溶解シ脂肪油ニハ溶解セス 二 比重八一・二二五以上トス 三 水トノ混合液ノ實用限界標準氣溫左ノ如シ		駐退液(「グリセリン」ニ、水一容)、發動機ノ冷却水ニ混シ耐寒性ヲ附與スルニ使用ス

混 合 比 (容積)		實用限界標準氣溫
「グリセリン」	水	
1	2	零下約 五度マテ
2	3	一〇度マテ
1	1	二〇度マテ
3	2	三〇度マテ

第三十八款 グリコール

第二百二十六 「グリコール」ノ性質、用途例及用法左ノ如シ

性	質	用途例、用法
一 無色、無味、無臭ノ液體ナリ沸騰點一九八度 二 冷却水ニ加フルトキハ其量ヲ増スニ從ヒ水ノ凝固點ヲ低下セシム		一 發動機ノ冷却水ニ混シ使用ス 二 「グリコール」ノ混合

兵器保存用材料



三 水溶液ハ使用間減少クシテ又粘度高カラス  
 四 比熱及熱傳導度良好ナリ  
 五 水トノ混合液ノ實用限界標準氣温左ノ如シ

混 合 比 (容積)		實用限界標準氣温
グリコール	水	
1	4	零下約 五度マテ
1	2	一〇度マテ
2	3	二〇度マテ
1	1	三〇度マテ
3	2	四〇度マテ
2	1	五〇度マテ

液ヲ使用スル際ニハ一  
 且満量ニシタル後若干  
 量ヲ波ミ出シ膨脹ニ基  
 ク溢出ヲ豫防スヘシ

第三十九款 カーバイト

第二百二十七 「カーバイト」ノ性質及用途例左ノ如シ

性 質	用 途 例
一 生石灰ト「コークス」トノ混合物ヲ電氣爐ニテ高温度ニ熱シテ得ラル製造當初ハ褐色ナルモ水分ヲ吸收シテ漸次灰白色トナル 二 水ニ作用スレハ「アセチレンガス」及熱ヲ發生シ此「ガス」ニ點火セハ強キ光大ナル熱トヲ發シテ燃焼ス 三 「アセチレンガス」發生裝置ハ完全ナルヲ要ス否ラサレハ往々爆發シ危害ヲ伴フコトアリ	「アセチレン」熔接ノ燃料、「アセチレン」燈ニ用ヒ信號及照明用等

第四十款 蜜 蠟

第二百二十八 蜜蠟ノ性質及用途例左ノ如シ

性 質	用 途 例
一 蜂巢ヨリ蜜ヲ搾取シタル残渣ヲ煮沸シテ得ルモノニシテ普通品ハ通常淡黄色ナルモ精製品ハ白色ナリ後者ヲ晒蜜蠟ト謂フ 二 比重〇・九五―〇・九七ニシテ外觀「パラフィン」ニ類似ス 三 質稍、硬ク約六三度ニテ熔融シ水、「アルコール」ニハ溶解セ	縫糸ニ塗抹シ絲ノ貫通ヲ容易ナラシメ且軟松歴ノ剝脱ヲ防止シ絲ヲ保護ス

兵器保存用材料



サルモ四鹽化炭素、「クロロホルム」、「エーテル」、「テレピン」油ニ溶解ス其溶液濃厚ニシテ塵芥ヲ混スルモノハ不良品ナリ

一二八  
脂肪類ニ混シ特殊ノ形状ヲ附與スヘキ革ヲ浸漬スル等ニ使用ス

第四十一款 アラビヤゴム

第二百二十九 「アラビヤゴム」ノ性質及用途例左ノ如シ

性	質	用途例
<p>一 熱帶地方ニ産スル諸種ノ「アカシヤ」樹ノ幹及枝ヨリ流出スルモノニシテ産地或ハ樹ノ種類ニ依リ品位ヲ異ニシ白色乃至暗色ヲ呈スル小塊ナリ</p> <p>二 比重ハ一五度ニ於テ約一・四八七ナリ</p> <p>三 主成分ハ「アラビン」酸、石灰、苦土及「カリ」鹽ニシテ温湯ヨリ冷水ニ溶解シ易ク「アルコール」ニハ不溶性ナリ</p> <p>四 水ニ溶解シタルモノハ殆ト無色ニシテ大ナル粘着力ヲ有シ酸類ニハ比較的影響セラルルコト尠シ</p>		<p>主トシテ紙類ノ接著、各種物具ノ接合用等</p>

第四十二款 膠ニカワ

第三十 膠ノ性質、用途例及用法左ノ如シ

性	質	用途例、用法
<p>一 膠ハ動物ノ皮骨等ヨリ製シタルモノニシテ粘着力強ク木工作業ニ缺クヘカラサルモノナリ 精製シタルモノハ「ゼラチン」ト稱シ無色透明ニシテ不快ナル臭氣ヲ有セス</p> <p>二 通常木工作業ニ用フル膠ハ平膠、三千本、千本ノ三種ナリ平膠ハ長方形又ハ方形ノ板狀ニシテ淡褐色半透明ノモノ及黒褐色ヲ呈スルモノアリ三千本ハ半透明ニシテ平膠ニ次キ千本ハ稍、黒色ヲ呈シ品質最モ劣ル</p> <p>三 一度溶解シタル膠ハ腐敗シ易ク腐敗スルトキハ惡臭ヲ發シ粘着力ヲ著シク減少ス</p> <p>四 膠ハ暖キ濕氣ニ遭遇スルトキハ腐敗シ易キヲ以テ之ヲ格納スルニハ成ルヘク乾燥セル場所ニ置クヘシ</p>		<p>一 木材ノ接合用、寫眞用乳劑等</p> <p>二 膠ヲ溶解スルニハ先ツ膠ヲ水ニ浸漬シ軟化シタル後之ヲ鍋ニテ煮沸溶解ス使用ニ際シテハ必要量ノミ溶解スルヲ可トス</p>

兵器保存用材料



第四十三款 カゼイン

第三百三十一 「カゼイン」ノ性質、用途例及用法左ノ如シ

性	質	用途例、用法
<p>一 乳汁ノ主要成分タル蛋白質ニシテ白色若ハ帶黃色非結晶ノ角質物ナリ</p> <p>二 無味無臭ニシテ吸濕性アリ</p> <p>三 「リトマス」ヲ赤變シ「アルカリ」及「アルカリ」土類ニ對シテハ酸トシテ又酸ニ對シテハ鹽基トシテ作用ス</p> <p>四 水ニハ極メテ僅ニ溶解スルモ「アルコール」、「エーテル」ニハ全ク溶解セス</p> <p>五 「カゼイン」膠ト爲ストキハ粘著性大トナル</p>	<p>各種ノ接合劑等 通常「カゼイン」ニ石灰、水「ガラス」、「アンモニア」水等ヲ配合シ能ク練成シ「カゼイン」膠トシテ使用ス</p>	

第四十四款 布海苔<sup>フノノ</sup>

第三百三十二 布海苔ノ性質、用途例及用法左ノ如シ

性	質	用途例、用法
<p>一 磯ノ岩ニ叢生スル暗褐色ノ海草ニシテ之ヲ晒シ薄ク漉キタルモノナリ</p> <p>二 水ニテ煮沸スレハ容易ニ溶解ス粘著性ニ富ミ革、布等ノ纖維間ニ浸入シ之ヲ鞣固ナラシム</p> <p>三 革ノ粗糙面ニ塗抹シ磨具ヲ以テ摩擦スルトキハ飴色ノ光澤ヲ現ス</p>	<p>一 革ノ裏面又ハ断面等ニ塗抹、綿布、麻布等ノ塗抹用等</p> <p>二 布海苔約一〇〇瓦ニ水ニ立位ノ割合ニテ鍋中ニ容レ徐ニ攪拌シツツ煮沸シ全ク溶解シタル後篩又ハ綿布ヲ以テ濾過シテ塵埃及滓渣ヲ除去ス</p>	

第四十五款 盤石糊<sup>パンダクノリ</sup>

第三百三十三 盤石糊ノ製法、性質及用途例左ノ如シ

製	法	性	質	用途例
<p>小麦粉ニ適度ノ水ヲ加ヘテ生麩ヲ製シ次ニ過剩ノ水分ヲ除去シ溫所ニ置キ時々攪拌スレハ約三日間ニ</p>		<p>一 色及香氣ハ飴ニ類似シ水ニテ稀釋スレハ白色ノ液汁トナリ乾燥セハ更ニ濃キ飴色トナリテ凝</p>		<p>皮革ノ接合、麻布貼付用等</p>

兵器保存用材料



シテ醱酵ス之ヲ淺キ器ニ移シ練和シツツ日光ニ晒ストキハ漸次粘度ヲ増加シ飴狀ノ盤石糊ヲ得粉磐石糊ハ前項ノ乾燥セルモノヲ粉碎セル稍、白色ノ細末ナリ此糊ヲ使用セントスルトキハ水若ハ微温湯ニテ溶解シ十分練和スレハ粘著力ヲ生ス	固ス 二 適度ノ軟性ヲ有スルモノハ粘著力ニ富ミ且乾燥速ナルモ乾固セハ龜裂ヲ生シ效力ヲ失フヲ以テ大ナル張力ヲ要スル「ペルト」等ノ接合用ニハ適セス	
---	--	--

第四十六款 蕨糊

第三百三十四 蕨糊ノ製法、性質及用途例左ノ如シ

製 蕨粉約一〇〇瓦ニ水〇・八二立ノ割合ニテ攪拌シツツ煮沸シテ糊狀ト爲シ篩又ハ綿布ヲ以テ濾過シ之ニ生澱四〇〇瓦ヲ混和調製ス	法 性 粘著力強ク容易ニ剝脱スルコトナシ	質 用途例 駄鞍居木ノ荒目麻布貼付用等
--	----------------------	---------------------

第四十七款 漆糊

第三百三十五 漆糊ノ製法、性質及用途例左ノ如シ

製 漆糊粉一〇〇瓦ニ水〇・六四立ノ割合ニテ鍋ニ容レ攪拌シツツ弱火ヲ以テ煮沸シ白色半透明體トナリ十分粘著力ヲ生スルニ至ラハせしめ漆三〇〇瓦ヲ混和練合シテ製ス	法 性 褐灰色ヲ呈シ極メテ粘著力ニ富ミ接合力大ナリ乾燥後ト雖自ラ龜裂ヲ生スルコトナシ	質 用途例 鞍骨ノ衣布荒目麻布貼付用、駄載式架橋器材鐵舟緊塞布貼付用等
---	--	-------------------------------------

第四十八款 軟松瀝

第三百三十六 軟松瀝ノ製法、性質及用途例左ノ如シ

兵器保存用材料



製	法	性	質	用途例																					
<p>一 良好ナル松瀝(松脂ヲ蒸溜シテ「テレピン」油ヲ製スル時生スル残渣ニシテ甚タ脆ク八〇度ニテ熔融シ良品ハ淡黄色ニシテ破面光輝アルモ不良品ハ暗褐色ニシテ光輝ナシ)ヲ適度ニ粉碎シ鍋ニ容レ弱火ヲ以テ溶解セシメ之ニ茶種油ノ少量ヲ注加シ十分攪拌シ適度ノ軟性ヲ得タル後冷水ヲ滿セル桶中ニ注キ三十分間放置シテ凝固セシム</p> <p>二 注加スヘキ油量ハ寒暖ニ依リ差異アルモ概ネ左ノ如シ</p>	<table border="1"> <tr> <th>名</th> <th>區</th> <th>分</th> <th>冬</th> <th>季</th> <th>夏</th> <th>季</th> </tr> <tr> <td>松</td> <td>瀝</td> <td></td> <td>四五〇瓦</td> <td></td> <td>四五〇瓦</td> <td></td> </tr> <tr> <td>茶種油</td> <td></td> <td></td> <td>一〇〇立方糎</td> <td></td> <td>六〇立方糎</td> <td></td> </tr> </table>	名	區	分	冬	季	夏	季	松	瀝		四五〇瓦		四五〇瓦		茶種油			一〇〇立方糎		六〇立方糎		<p>水分ヲ防遏スル性ヲ有スルヲ以テ之ヲ皮革製品及麻布類ノ縫糸ニ塗布スルトキハ其腐朽衰損ヲ防護ス</p>	<p>皮革製品、麻布(水囊ノ如キ水ヲ取扱フモノ)等ノ縫糸ノ塗抹用等</p>	<p>茶種油ノ代リニ白絞油若ハ亞麻仁油ヲ使用スルモ可ナリ</p>
名	區	分	冬	季	夏	季																			
松	瀝		四五〇瓦		四五〇瓦																				
茶種油			一〇〇立方糎		六〇立方糎																				

第四十九款 タルク

第三百三十七 「タルク」ノ性質及用途例左ノ如シ

性	質	用途例
<p>一 結晶ナルコト稀ニシテ多クハ葉狀又ハ板狀トシテ産スル鐵物ナリ</p> <p>二 無色又ハ淡綠色ニシテ眞珠光澤アリ之ニ觸ルレハ脂様ノ感アリ</p> <p>三 半透明ニシテ軟ラカク比重一・一・五ナリ</p>	<p>「タルク」粉ハ「ゴム」製品ノ格納用又ハ稍、粘著セル「ゴム」製品ノ外部ニ塗布シテ其他ノ物ヘノ膠著ヲ防クニ使用ス</p>	<p>「タルク」粉ハ「ゴム」製品ノ格納用又ハ稍、粘著セル「ゴム」製品ノ外部ニ塗布シテ其他ノ物ヘノ膠著ヲ防クニ使用ス</p>

第四節 其他ノ材料

第一款 木綿

第三百三十八 木綿ノ種類及用途例左ノ如シ

兵器保存用材料



種	類	用途例
綿布ノ切屑、截屑若ハ綿布ニ織リ得サル不合格ノ綿糸及織殘、雜巾等アリ		無煙藥ノ原料、諸機械ノ汚油拭淨手入用等
手入用糸屑ト雖不紡纖維、緊縫糸、糊糸、結節、油糸及汚染糸屑等ヲ含マサルモノヲ可トス		

### 第二款 手袋

#### 第三百二十九 手袋ノ種類及用途例左ノ如シ

種	類	用途例
一 手袋ハ其材料ニ依リ多數ノ種類アルモ一般軍用ニ供スルモノハ木綿製ノ手袋、厚手袋、革手袋及「ゴム」手袋等トス		兵器ノ手入、取扱、火藥ノ取扱用等
二 木綿製手袋ハ一般手入、取扱等ニ革手袋ハ塗漆等ノ際ニ使用シ「ゴム」手袋ハ劇毒藥等ヲ取扱フニ適ス		

### 第三款 磨粉

#### 第四百十 磨粉ノ種類、用途例及用法左ノ如シ

種	類	用途例、用法
一 磨粉ハ物體ノ表面ヲ磨ク爲ニ用フル粉末ニシテ其種類甚タ多シ	一 金屬、石材、木材、「ガラス」、象牙等ノ研磨等	
二 普通研磨材料トシテハ金剛砂、砂、石粉、「トリポリ」粉、石灰、白堊、炭酸「マグネシウム」、酸化錫、酸化鐵、「カーボランダム」、「アラシダム」等主要ナルモノナリ	二 磨粉ハ用途ニ依リ其種類ヲ選定シ手入、修理事業ニ用フルモノトス	

### 第四款 紙鏢及布鏢

#### 第四百十一 紙鏢及布鏢ノ種類、用途例及用法左ノ如シ

兵器保存用材料



種	類	用途例	用法
一	各種磨粉（主トシテ金剛砂、「ガラス」粉末）ヲ其儘或ハ一層細粉トシタルモノヲ布又ハ紙面ニ糊著シタルモノニシテ通常〇號、一號、二號、三號ノ區分アリ	一 布鑑ハ金屬、紙鑑ハ木、竹製品等ノ研磨等	一 布鑑ハ金屬、紙鑑ハ木、竹製品等ノ研磨
二	〇符號ノモノハ細目ニシテ仕上ニ適シ號數大トナルニ從ヒ荒目トナリ〇〇號ハ〇號ヨリ更ニ細目ナリ	二 用法ハ磨粉類ニ準スルモ修理作業以外ニハ妄ニ使用スヘカラス	二 用法ハ磨粉類ニ準スルモ修理作業以外ニ
三	布鑑ハ金屬研磨用ニ適シ紙鑑ハ木材研磨用ニ適ス		

第五款 木 賊

第四百二十二 木賊ノ性質及用途例左ノ如シ

性	質	用途例
一	木賊科ノ多年生植物ニシテ莖ハ綠色中空ノ管狀ヲ成シ外面無	金屬、木、竹製品等ノ研

數ノ縦目アリ又明瞭ナル節ヲ有スルモ枝ヲ生セス直幹ニシテ二尺餘ノ高キニ達ス	磨等
二 莖ハ乾燥スレハ研磨用ニ適ス	

第六款 絶縁用テープ

第四百十三 絶縁用「テープ」ノ種類及用途例左ノ如シ

種	類	用途例
一	絶縁用「テープ」ニハ其種類多ク「ゴム」帶、綿帶、「ゴム」綿帶、「リノテープ」、「オコナイトテープ」、「グリムシヨンテープ」等アリ	絶縁電線ノ接続點ノ纏綿、絶縁度増加用等
二	粘著良好ニシテ絶縁性大ナルヲ以テ電線ノ接続點ニ纏綿スルトキハ其點ノ絶縁ヲ他ノ部分ト略、同一若ハ夫以上ト爲スコトヲ得	

第二章 兵器保存用器具

兵器保存用材料



兵器保存用器具ノ構造並用法ノ適否ハ直ニ兵器ノ保存ニ關係シ甚シキハ反テ不良ノ結果ヲ齎スコトアルヲ以テ注意スルコト肝要ナリ

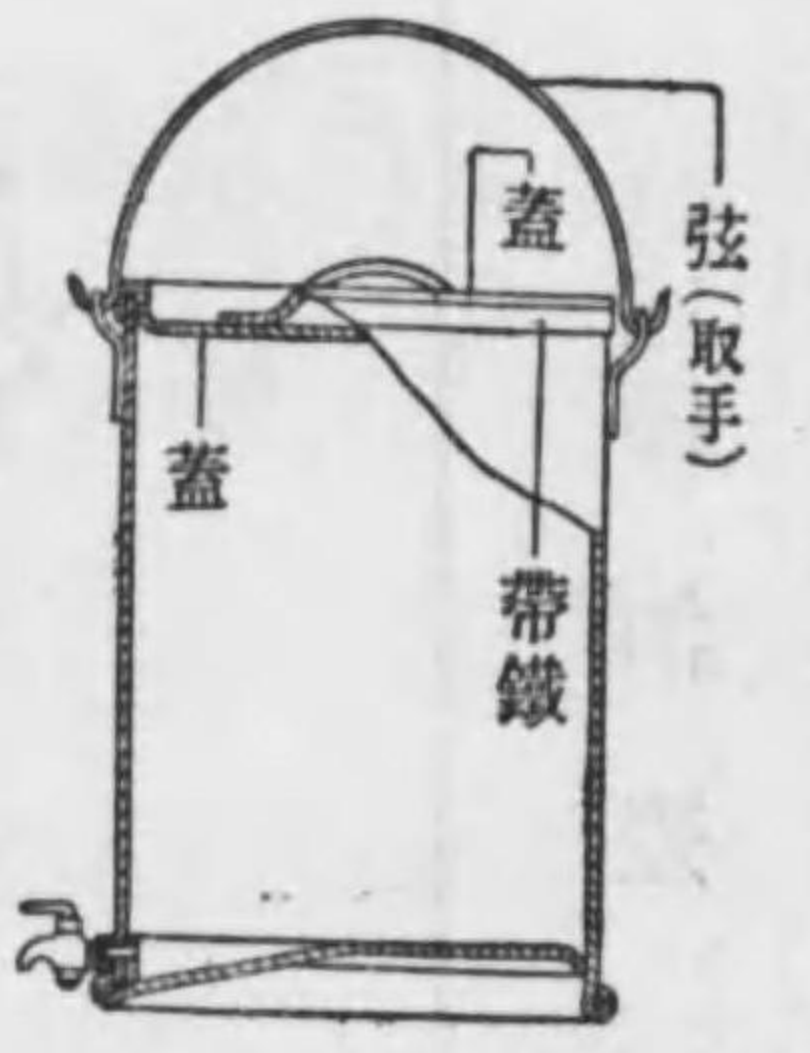
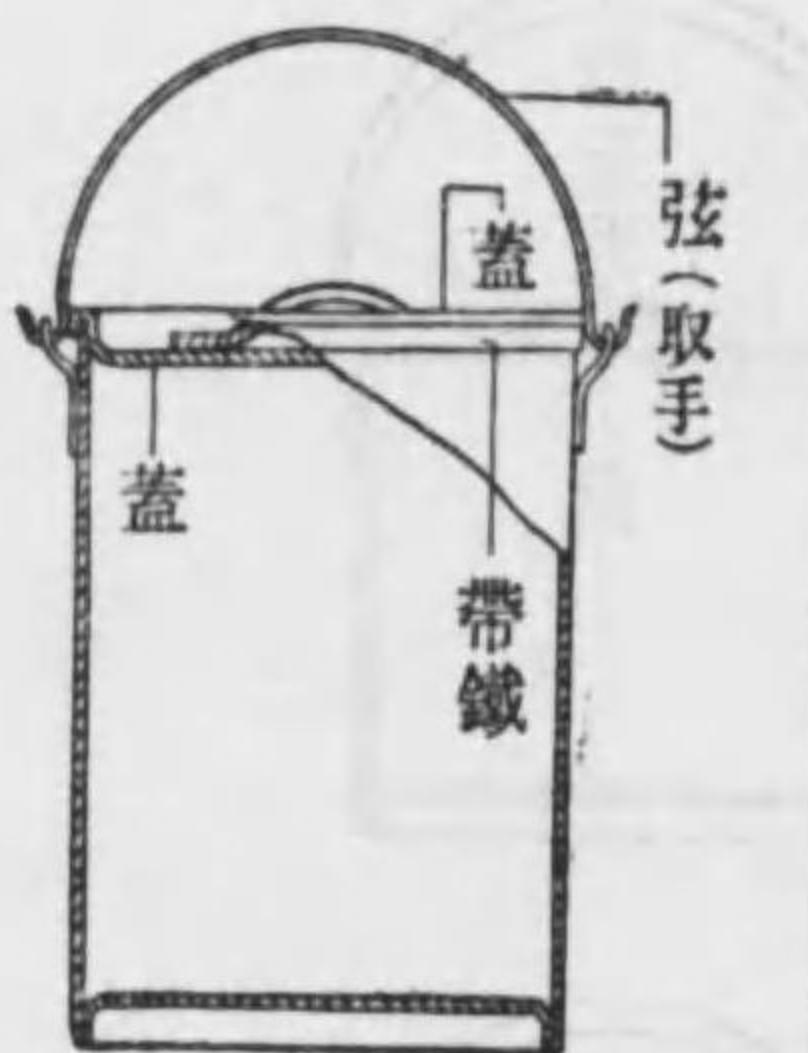
本章ニ於テハ右ノ主旨ニ基キ適當ト認ムルモノニ付其標準ヲ示シタルモ絶対的ニ之ニ據ラシムルノ意ニアラサルヲ以テ良ク其性能ヲ稽ヘ其目的ニ應スルモノヲ選定シ之カ使用ヲ適切ナラシムヘキモノトス

第一節 兵器手入臺

第四百四十四 兵器手入臺ハ木製ノ平板又ハ机ニシテ必要ニ應シ上面ヲ亞鉛「メツキ」鋼板張ト爲シ通常其周圍ニ縁ヲ附ス使用ニ際シテハ兵器ノ轉落、損傷等ヲ防クヲ要ス

第二節 油 罐

第四百四十五 油小出罐(甲)乙及「ペイント」容器ノ構造及用途例左ノ如シ

區分	構	造	用 途 例
(甲) 油 小 出 罐	 <p>弦(取手) 蓋 帶鐵</p>	<p>徑約四〇糎、高サ約四二糎ノ「ブ リキ」製圓罐ニシテ活嘴ヲ有ス</p>	<p>液狀油ノ小出ニ使 用ス</p>
(乙) 油 小 出 罐	 <p>弦(取手) 蓋 帶鐵</p>	<p>徑約四〇糎、高サ約四二糎ノ「ブ リキ」製圓罐ナリ</p>	<p>固體及半固體油ノ 小出ニ使用ス</p>

兵器保存用器具

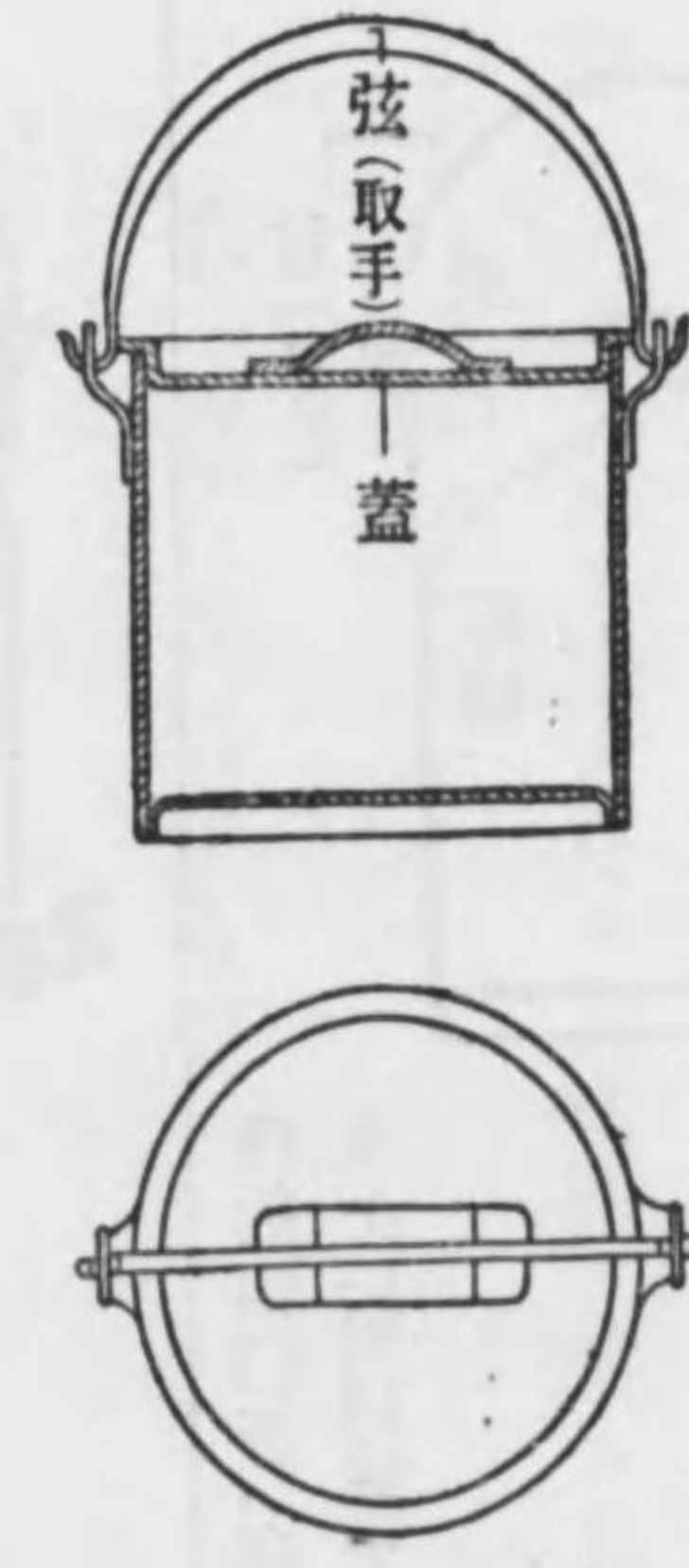


鶴 頸 形 油 差	區分
 <p data-bbox="1300 808 1391 1429">通常亞鉛「メツキ」軟鋼製又ハ黃銅製ナリ市井販賣品ニシテ大、小種々アリ</p>	<p data-bbox="1406 652 1445 694">構</p> <p data-bbox="1406 1295 1445 1336">造</p>
<p data-bbox="1254 1460 1391 1709">嘴ノ先端ヲ注油部ニ當テ開閉桿ヲ壓下シツツ注油ス</p>	<p data-bbox="1406 1481 1445 1688">用 法</p>

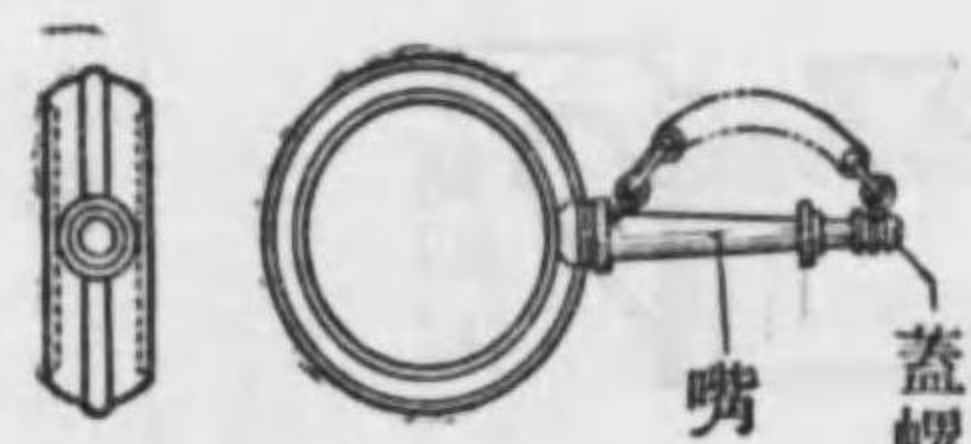

兵器保存用器具

第四百四十六 油差ノ構造及用法左ノ如シ

第三節 油 差

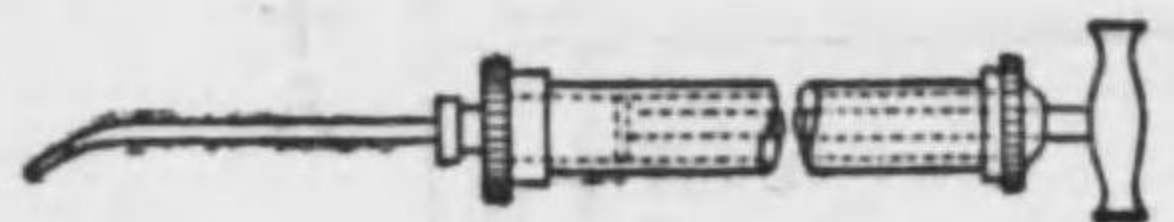
ベ ー イ シ ト 容 器
 <p data-bbox="2147 1222 2313 1440">「フリキ」製ノ圓罐ニシテ徑、高サ共ニ約一五糎ナリ</p>
<p data-bbox="2222 1460 2313 1709">「ペイント」ノ小出ニ使用ス</p>



差油形圓	差油形斗漏
 <p>蓋螺 嘴</p> <p>通常黃銅製ニシテ體ト嘴トねぢヲ以テ裝脫シ得接續部ニハ革環ヲ附シ又先端ハ蓋螺ヲ以テ油ノ漏洩ヲ防ク市井販賣品ニシテ大、小種々アリ</p>	 <p>嘴 體 底</p> <p>通常錫「メツキ」極軟鋼製又ハ黃銅製ニシテ體ト嘴トハ黃銅ノねぢヲ以テ裝脫シ得市井販賣品ニシテ大小種々アリ</p>
<p>嘴ヲ螺脫シテ油ヲ收容ス使用ノ際ハ體ノ兩側ヲ指頭ヲ以テ壓迫シツツ注油ス</p>	<p>嘴ヲ螺脫シテ油ヲ收容ス使用ノ際ハ體ノ兩側ヲ食指ト中指トノ間ニ挟ミ拇指ニテ底ヲ壓下シツツ注油ス</p>

第四節 注脂器

第四百十七 注脂器ノ構造、用途例及用法左ノ如シ


構	造	用途例	用法
 <p>注脂器ハ一般ニ黃銅又ハ青銅製ニシテ體ノ内部ニ活塞ヲ裝ス</p>		<p>一 通常給脂困難ナル箇所又ハ回轉速度大ナル箇所ノ注脂ニ使用ス</p> <p>二 注脂器ヲ使用スルニハ蓋ニ防擦脂ヲ填充シテ之ヲ體ニ螺著シ壓入ス</p>	


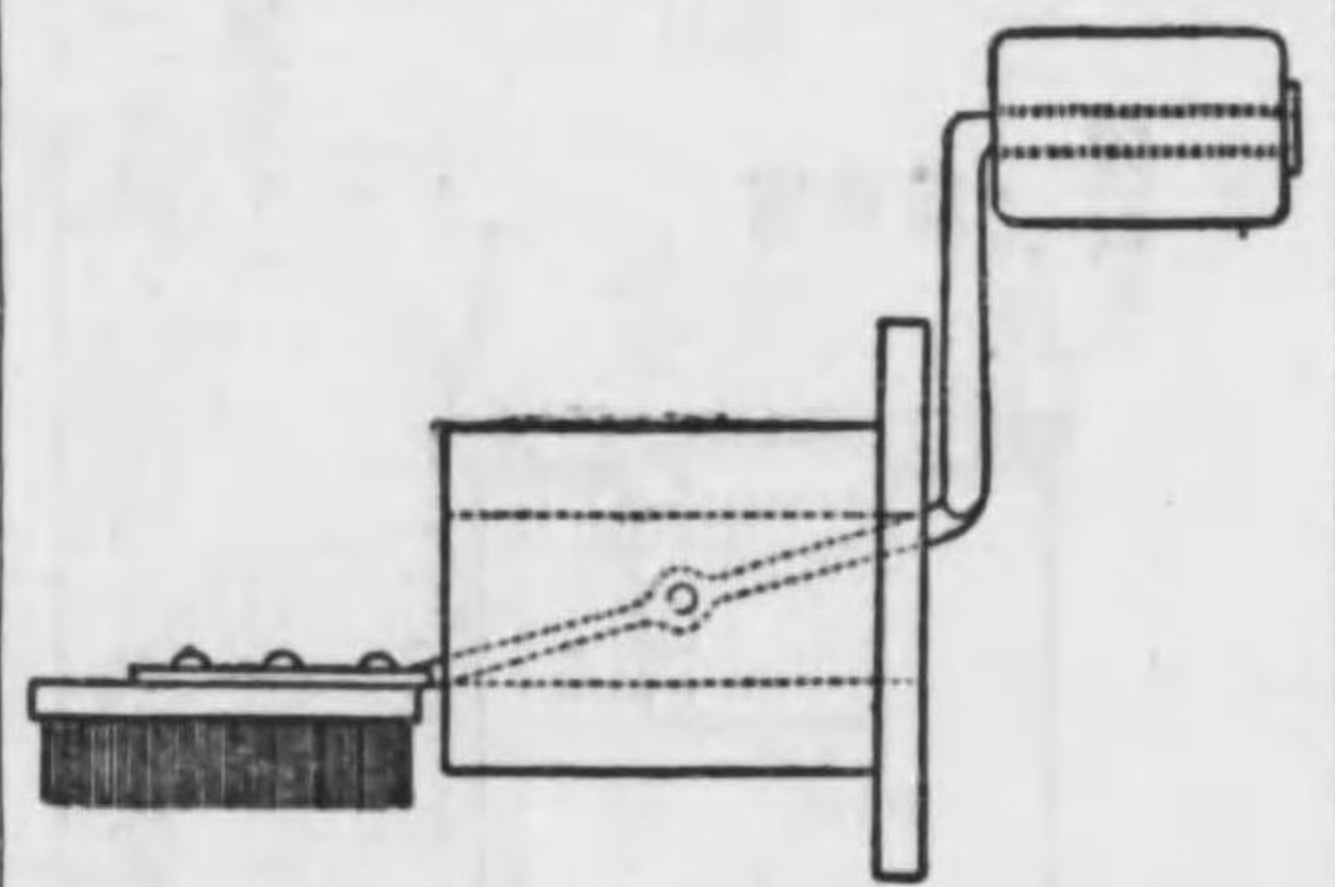
兵器保存用器具



第五節 刷毛

第一百四十八 藥室塗油刷毛、轂筒手入刷毛及掃除刷毛ノ構造、用途例左ノ如シ

區分	構造	造	用途例
藥室塗油刷毛	 <p>柄</p>	<p>黄銅線ニ馬毛ヲ挟ミ捻合シタルモノニシテ柄部ハ必要ニ應シ屈曲セシム</p>	<p>小銃、機關銃等ノ藥室、尾筒ノ塗油等</p>

掃除刷毛	轂筒手入刷毛
	 <p>                     鈔ヲ有スル木筒(轂筒ノ内徑ニ應ス)ニ鐵製ノ槓桿ヲ挿入シ一端ニ轉把ヲ他端ニ獸毛刷毛ヲ附シタルモノニシテ刷毛ハ木ねぢヲ以テ固定シ交換シ得ル如クス寸法ハ轂筒ノ種類ニ應シ適宜定ムルモノトス                 </p>
<p>黄銅線ニ馬毛ヲ挟ミ捻合シタルモノニシテ大サニ依リ數種アリ</p>	<p>各種車輪ノ轂筒手入等</p>
<p>車輪ノ轂筒、其他空洞部ノ手入等</p>	



第六節 油煎器

第一百四十九 油煎器ノ構造、用途例及用法左ノ如シ

区分	構造	用途例、用法
甲 器 煎 湯	<p>二重鍋ノ複温式ニシテ外鍋ハ亞鉛「メツキ」銅板トシテ油鍋ト蓋ハ銅製トス</p>	<p>一 油ノ熔融、保温等</p> <p>二 油槽ニ油ヲ容レ湯ヲ注入スル熱湯ヲ注入スルトキハ油ハ漸次溶解スルヲ以テ使用ニ應スル量ヲ「コック」ニ依リ油受皿ニ流出シテ使用スルモノトス</p> <p>油ハ終日交換ス</p>

乙 器 煎 湯	断面	側面
	<p>兵器保存用器具</p>	<p>ルヲ要セス</p>



湯煎器乙

- 一 圓筒罐ノ内部ニ湯槽及油槽ヲ、兩外側下部ハ兩側ニ相對向セ  
ル油浸漬室ヲ成形シ油受皿ヲ入ル上方ニハ湯ノ注入及排出口ヲ  
具ヘ又油槽蓋ニ排氣孔ヲ開鑿ス
- 二 器ノ外壁ハ厚サ約一耗ノ鐵板トシ湯槽トノ間ニ保温材料ヲ充  
填シ蓋止トス
- 三 油槽ハ厚サ〇・八耗ノ銅板製トシ銅管ヲ通シテ油受皿ニ脂油  
ヲ流出セシメ銅管中央ノ「コック」ニ依リテ其量ヲ加減ス
- 四 湯槽ハ厚サ約一耗ノ鐵板製トシ上部及下部ハ蓋止、其他ハ「ガ  
ス」熔接トス
- 五 保温材料ハ「アスベスト」、「ボイラーフェルト」、「フェルト」、  
「コルク」等トス
- 六 油浸漬室ニハ鐵板製扉ヲ附ス

第七節 脂油與熱器

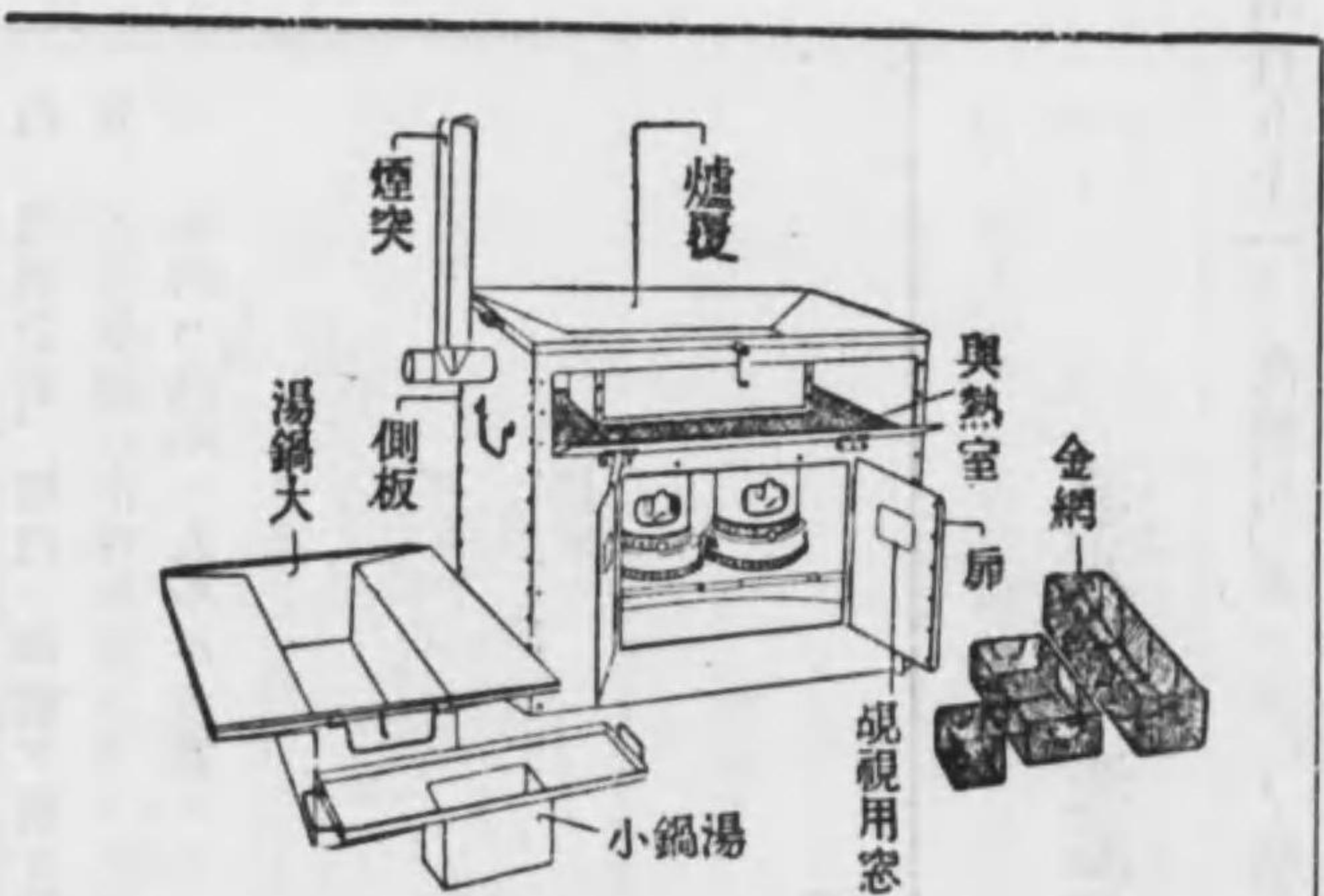
第百五十

脂油與熱器ノ構造、用途例及用法左ノ如シ

構

造

用途例、用法



兵器保存用器具

直火式ニシテ爐、爐蓋、湯  
鍋、與熱裝置、石油焜爐、  
金網ヨリ成ル

- 一 爐ハ厚サ約三耗ノ鐵板  
製ニシテ前面ニ扉ヲ附シ  
内部ニハ焜爐臺トシテ鐵  
板製柵ヲ設ク又側板上部  
ニ煙突ヲ、下部ニ吸氣孔  
ヲ設ク
- 二 爐蓋ハ厚サ一・五耗ノ  
漏斗型銅板製トス
- 三 油鍋ニ大、中、小ノ三  
種ヲ設ク

- 一 塗油スヘキ兵器ニ與  
熱及油ノ熔融用等
- 二 塗油スヘキ兵器ニ與  
熱スルニハ兵器ヲ金網  
ニ容レ與熱室ニテ熱ス  
ヲ湯鍋ニ容レ與熱室ニ  
テ熱ス
- 三 「ペトロラタム」ハ直  
火ヲ以テ過度ニ加熱  
スルトキハ油質ヲ損  
スル虞アルヲ以テ  
「スピンドル」油ヲ容  
レタル油鍋中ニ「ペ  
トロラタム」ヲ容レ  
タル油鍋ヲ容レ「ス  
ピンドル」油ノ傳熱



- 四 與熱裝置、爐内ニ鋼網ヲ敷キ扇ヲ具フ
- 五 石油焔爐ハ市井販賣ノモノヲ使用ス
- 六 金網ハ油鍋ニ入ルルニ適スル如ク大、中、小ニ區分ス

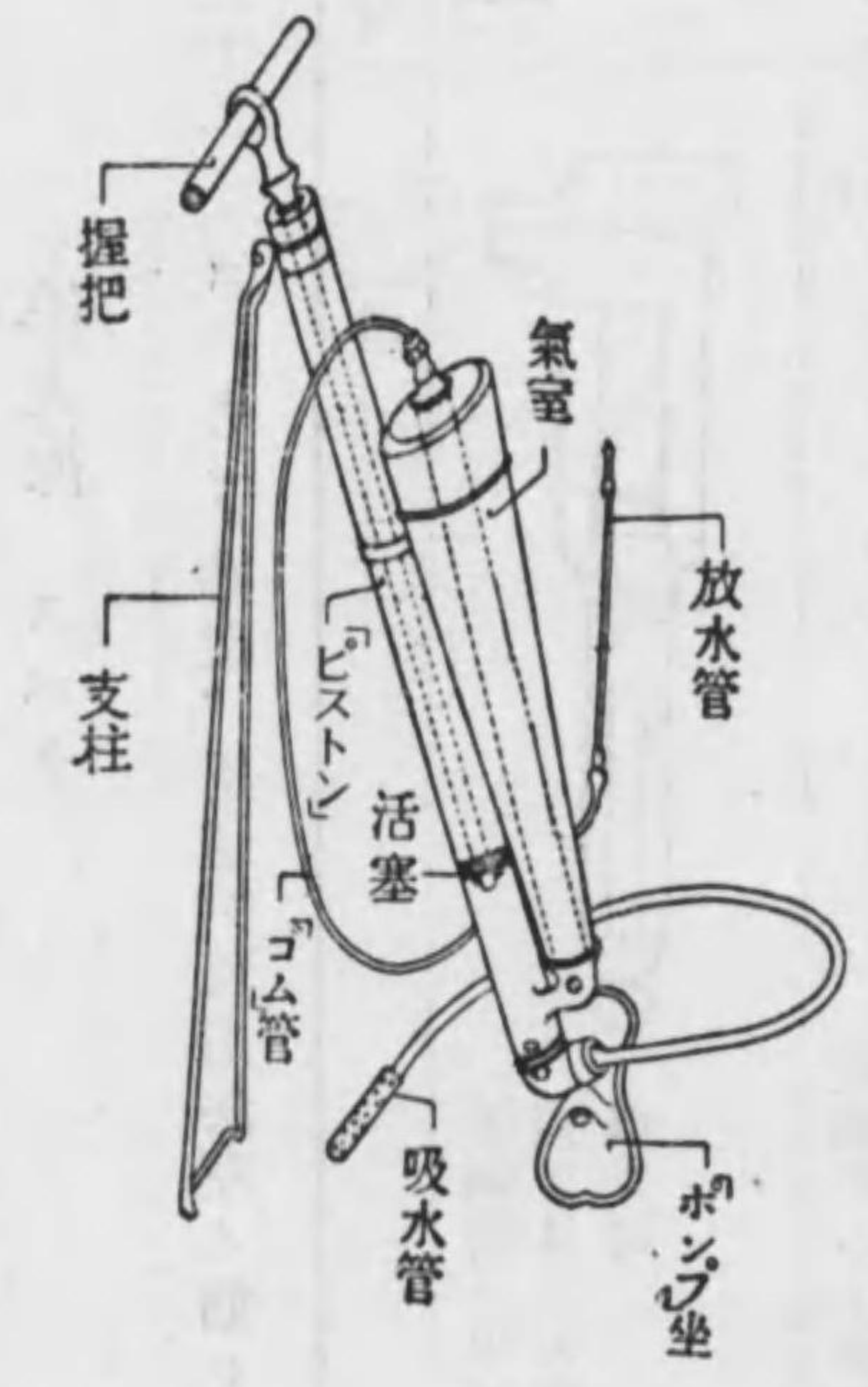
一五二

ヲ利用シテ加熱スルヲ可トス

四 「ペトロラタム」ヲ塗施スルニハ與熱シタル兵器ヲ溶解セル「ペトロラタム」ニ浸漬シ又之ヲ剝脱スルニハ兵器ヲ加熱セル「スピンドル」油中ニ浸漬シテ溶解除去ス

### 第八節 洗滌用ポンプ

第百五十一 洗滌用「ポンプ」ノ構造、用途例及用法左ノ如シ

<p>構</p>	<p>造</p>
 <p>洗滌用「ポンプ」ノ形状、構造ハ多種アルモ構造簡單、輕量ニシテ携行ニ便ナルモノノ一例ヲ示セハ左圖ノ如ク支柱、「ポンプ」、氣室、吸水管、放水管等ノ諸部ヨリ成リ「ゴム」管ハ通常麻布入「ゴム」トス</p>	<p>用途例、用法</p> <p>一 自動車、砲車、輜重車等ニ附著セル泥土ノ洗滌等</p> <p>二 水槽若ハ水溜ニ吸水管ヲ浸シ「ポンプ」坐ヲ兩足ヲ以テ踏ミ握把ヲ上下シテ放水管ヲ把持シ水ヲ放出シテ洗滌ス</p> <p>吸水管ヲ用ヒサルトキハ直接水槽ニ「ポンプ」ヲ入レ支柱ヲ片足ニテ踏ミ握把ヲ上下スルモノトス</p>

兵器保存用器具

一五三

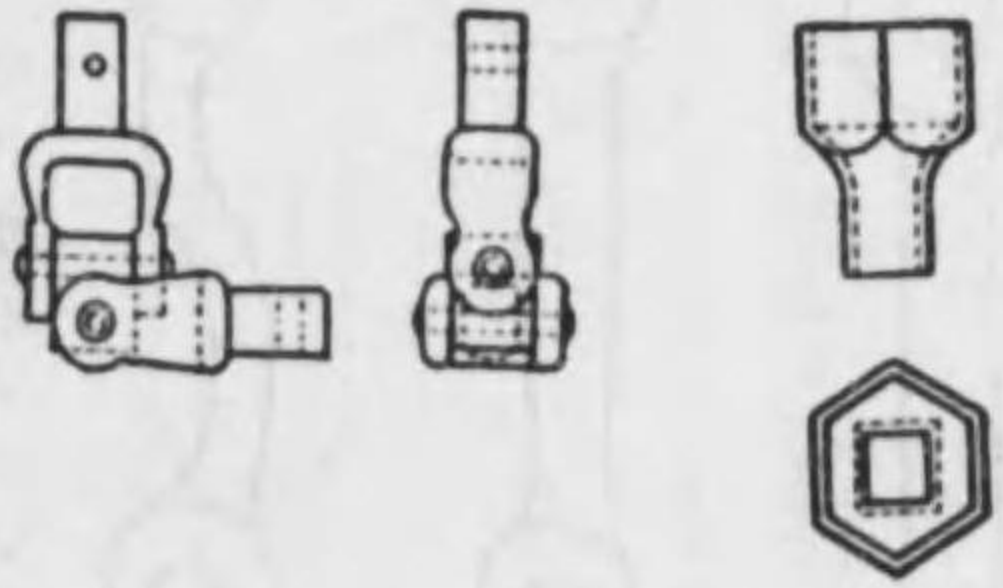




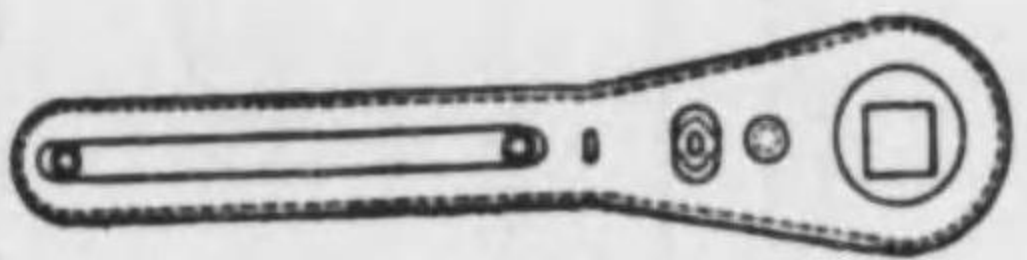


- 一 半硬鋼製ニシテ「スパナ」、轉柄、自在接子、接桿ヨリ成ル
- 二 「スパナ」ハ六角形ノ匣ヲ成シ其大サニ依リ第一號ヨリ第三十號ニ至ル區分アリ

自在接子 手接



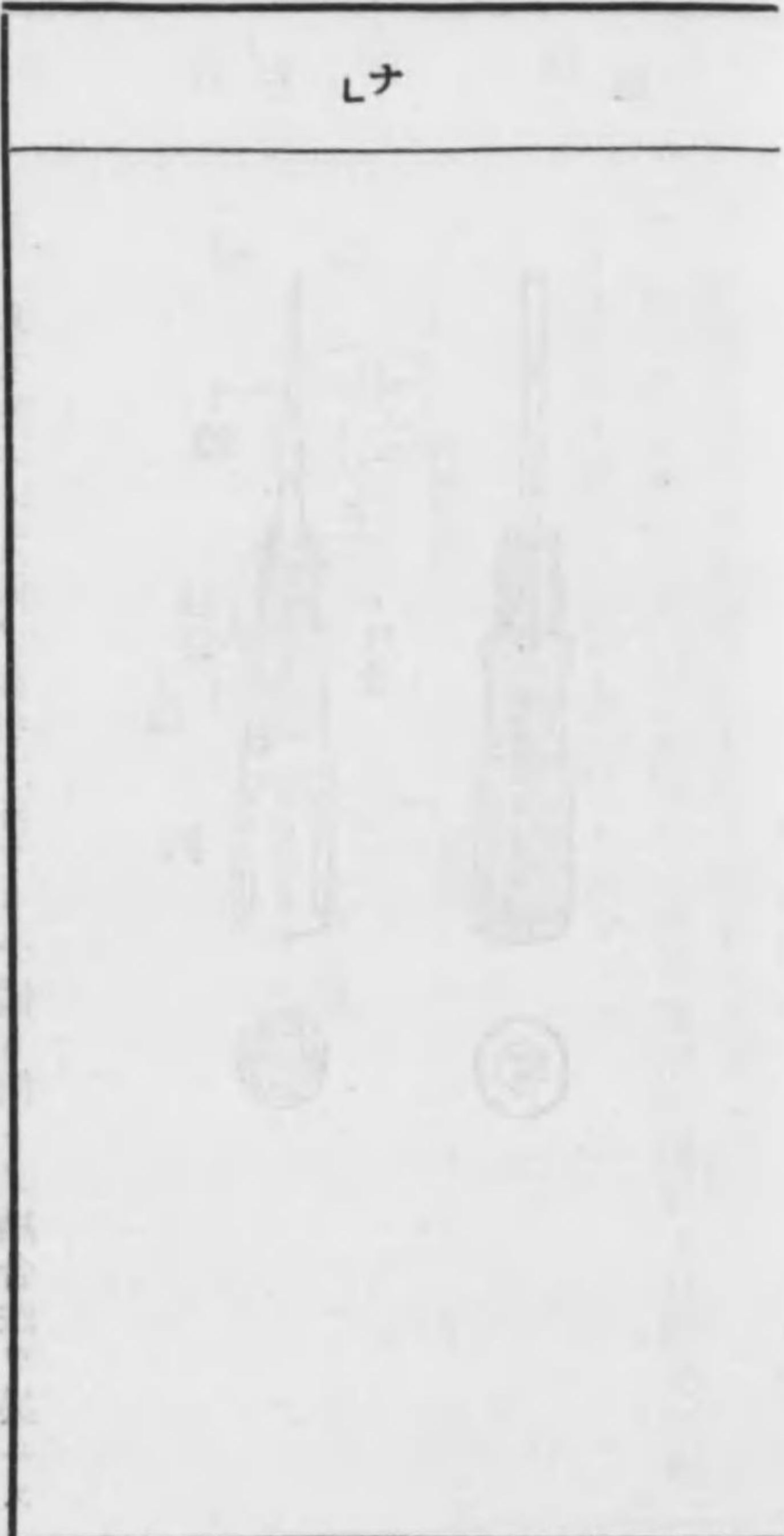
轉柄



接桿



- 一 六角「ナット」又ハ六角「ボルト」ノ緊定又ハ戻回用等
- 二 「ナット」又ハ「ボルト」ニ適應スル「スパナ」ヲ挿入シ之ニ轉柄ヲ裝シテ回轉ス
- 三 轉柄ト其表面ニ在ル回轉方向變換用箭ノ方向ヲ變スルカ又ハ轉柄ヲ裏返スコトニ依リ右ねぢ、左ねぢノ兩方ニ使用スルコトヲ得



- 四 自在接子ハ直接「スパナ」及轉柄等ヲ使用スルトキ「スパナ」ト轉柄トノ中間ニ裝ス
- 五 接桿ハ直接轉柄ヲ入ルヘキ餘裕ナキ場合「スパナ」ト轉柄トノ間ニ裝ス

第十節 ねぢ廻

第一百五十三 ねぢ廻ノ構造、用途例及用法左ノ如シ

兵器保存用器具



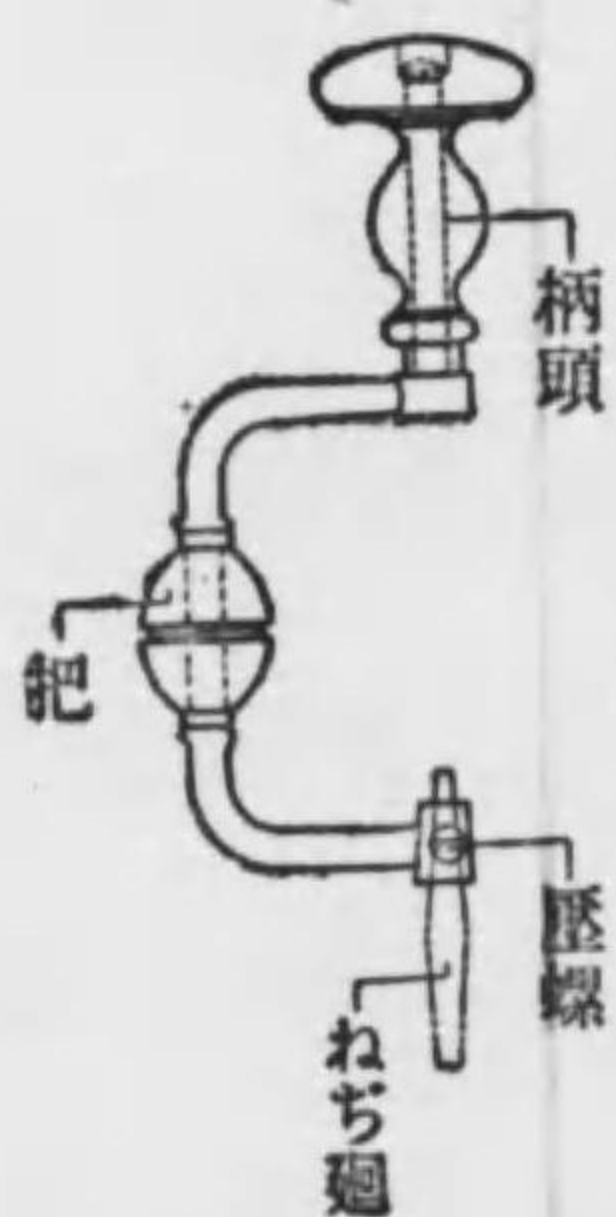
廻 ち ね 柄 轉

兵器保存用器具

廻ちね



柄 轉



一 硬鋼若ハ半硬鋼製ノねち廻ト轉柄ヨリ成ル  
 二 ねち廻ノ先端ハ大、小數種アリ但共基部ハ轉柄ノ取附部ニ嵌合スル如ク同一寸法ヲ與ヘアルモノトス

一五九

五  
 キ溝ノス テシシノねちノテテノ嵌ね廻定嵌ヲニ 戻一ハ  
 モノ幅ルね回ツム軸ち廻壓之タ柄合ちノシ裝轉ハ 戻致ね  
 ノ長カ際ち轉ツル心又ノ迫ヲル頭セ溝双タシ柄ね柄スセチノ  
 ヲサ略ハ廻ス把如ニハ軸ヲ押儘ニシメヲル壓ノち廻用フツ心  
 用ニ其ヲ ヲク一小心加へ胸掌メヲ正後螺同廻用フツ心  
 フ等ね先使 握保致ねヲへ適ヲヲ轉(摺割)シねヲ室ノフツ  
 ヘシち端用 リ持セち木ね度以當柄ニクち緊ニ脚

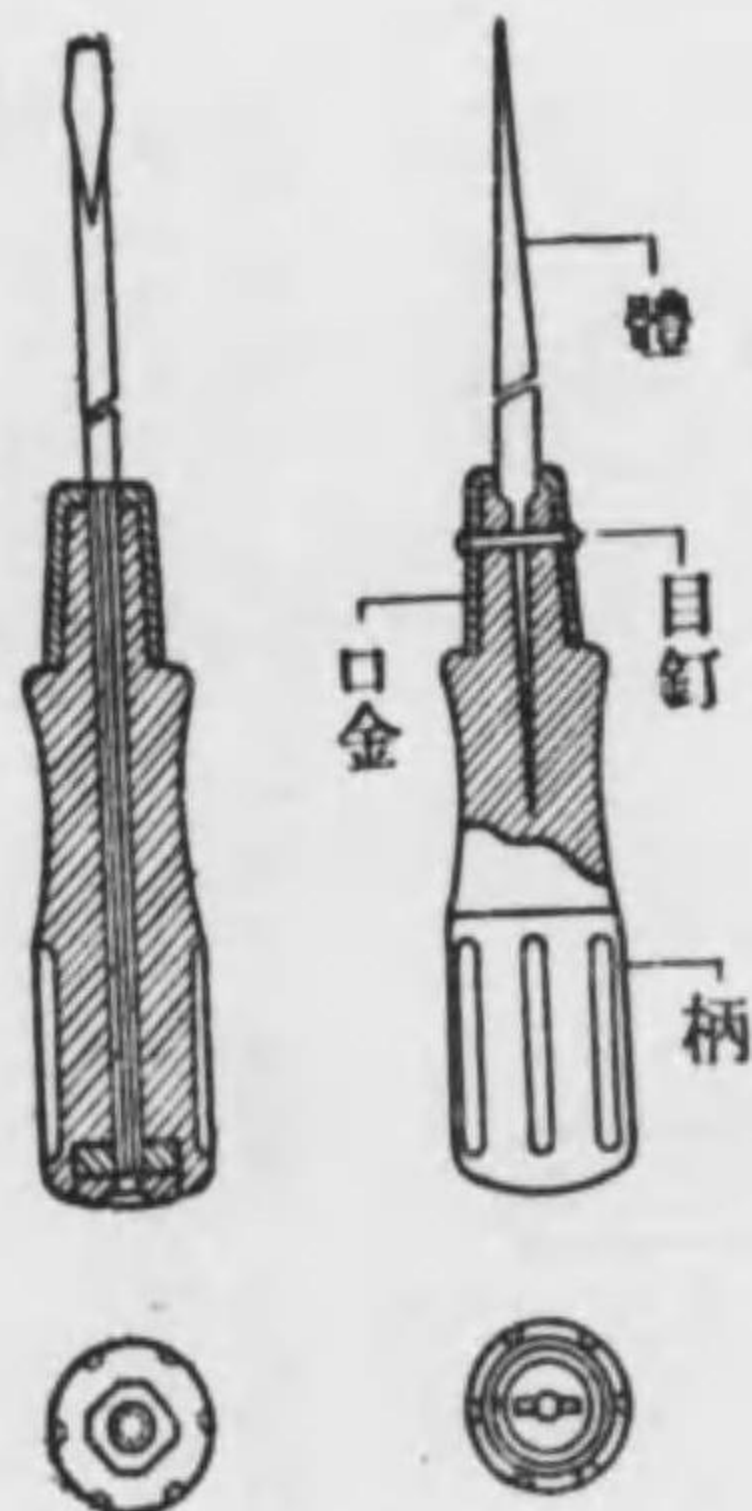
廻 ち ね

区分

構

造

用途例、用法



一 硬鋼製ニシテ之ヲ堅木ノ柄ニ裝ス先端ハ螺頭ノ溝ニ適合スル如ク平扁狀ヲ爲ス  
 二 ねち廻ハねちノ大小ニ適應スル如ク其寸法ヲ異ニス  
 三 ねち廻ニハ左圖ノ如キ二種アリテ體ト柄トノ結合法ヲ異ニス

三  
 中合溝ね 廻ツクノ端共食メ中ち廻確チ右ノね  
 心シ部ち緩 スツね滑ヲニ指左心又ノ實先手螺 ねち溝  
 ヲ目ニ廻解 ノ通ち脱支ねニ手ニハ軸ニ端ニ入 裝又ハ  
 木ね確ノノ 常廻ヲへちテノ一小心裝ヲテノ場 等  
 ねち實先場 右ヲ防ね廻螺拇致ねヲシ溝柄場 小  
 ち廻ニ端合 二押キちノ頭指セち木ね部ヲ合 ね  
 又ノ適ヲハ 旋へ輕廻先トシノねちニ持ハ

一五八